

小社遺跡（第2・3・4次）発掘調査報告
～鈴鹿市小社町所在～

2018（平成30）年2月

三重県埋蔵文化財センター



新名神高速道路遠景（西から）



小社遺跡遠景（西から）



遺跡遠景（第2次発掘調査）（南から）



土坑S K14完掘状況（南西から）



遺跡遠景（第3次発掘調査）（西から）



遺跡遠景（第3次発掘調査）（南から）



中世墓 S X 53 完掘状況 (南東から)



土坑 S K 83 完掘状況 (北から)

序

近年、東名阪自動車道はモーターレーゼーション化により、車の増加が著しく渋滞を各所で引き起こしていました。その解消のため、四日市ジャンクションから亀山西ジャンクションまでの新たな自動車道の開通が急がれ、三重県埋蔵文化財センターでは、平成20年度から新名神高速道路建設事業に伴う発掘調査を着手してきました。

今回、発掘調査を実施しました新名神高速道路の鈴鹿市域の小社遺跡の報告書が完成しました。

小社遺跡は、旧伊勢国の一宮である椿大神社の麓にある遺跡です。また、鈴鹿市の歴史は、「ヤマトタケルノミコト」に関わる伝承にも彩られています。調査の結果から、室町時代から江戸時代にかけての屋敷地や掘立柱建物などが発見され、地域の歴史の1ページを豊かにしたものと考えております。

新名神高速道路開通に伴い、この遺跡は姿を消しますが、こうした地域の歴史が明らかとなり、その一端を紐解ければ幸いと思っています。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、地元自治会をはじめとした地域住民の皆様、中日本高速道路株式会社、鈴鹿市など関係諸機関からのご理解とご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

平成30年2月

三重県埋蔵文化財センター
所長 野原宏司

例 言

- 1 本書は三重県鈴鹿市小社町に所在する小社遺跡^{こやしろ}（第2・3・4次）の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査は、近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴い、実施した。
- 3 発掘調査の費用は中日本高速道路株式会社が全額負担した。
- 4 発掘調査の成果は、『近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ～Ⅵ』の4冊においてその概要を公表しているが本書をもって正報告とする。
- 5 調査の体制等は次の通りである。
 - 委託者 中日本高速道路株式会社名古屋支社四日市工事事務所
 - 受託者 三重県教育委員会
 - 調査主体 三重県教育委員会
 - 調査担当 三重県埋蔵文化財センターなお、調査における詳細については、「I 前言」に記載したとおりである。
- 6 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究3課が行い、本書の執筆・編集は各担当が行い、目次及び文末に記載した。遺物写真撮影及び編集は、萩原義彦が行った。
- 7 発掘調査にあたっては、地元の方々をはじめ、鈴鹿市、鈴鹿市考古博物館、鈴鹿市小社町自治会、三重県企業庁、愛知学院大学藤澤良祐氏からご教示・ご協力を頂いた。
- 8 当発掘調査の記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

[地図類]

- 1 本書で使用した地図は、国土地理院発行「御在所山」「四日市西部」(1/25,000及び三重県共有デジタル地図(平成19年測図))である。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している。(承認番号:平成29年4月12日付三総合地第1号)
- 2 当地は平面座標系第VI系に属しており、本書での図の方位は座標北を使用している。なお、座標値は世界測地系2000に基づいて表示している。
- 3 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖(30版)』(1967年初版)による。
- 4 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。
SB:掘立柱建物 SD:溝・畝間溝 SE:井戸 SK:土坑 SR:河道
SX:中世墓 SZ:石列 P:ピット・柱穴
- 5 三重県埋蔵文化財センターでは、以下のように遺物の表記漢字について統一している。
碗・埴・鉢 → 椀 坏 → 杯
- 6 遺構一覧表における遺構番号は第2次から第4次調査までの通し番号である。
- 7 地区名については、第2次から第4次調査を全て記載している。
- 8 遺物観察表は、各遺物実測図の番号に対応する。これは、器種・材質如何を問わず通し番号である。
ただし、これは掲載した実測個体のみであり、実測図を作成できない破片には、番号を振っていない。従ってこの番号の遺物が全てではない。
- 9 実測番号は、実測を行った際の番号である。出だしの3桁は用紙番号で、後ろ側の2桁は用紙内での実測した順序の番号である。
- 10 計測値について記載した口径・器高・その他は、それぞれ最大値ないし接地面をとっている。また、「-」は、計測不能を示している。遺物観察表内で遺物によっては、長さ・短さ・厚さ・高台径・底径を表す場合がある。
- 11 調整・技法については、遺物製作時になされていることを記載し、順序を示すものでない。
- 12 素地及び胎土については、粗密を表記する。括弧内には小石・砂粒の有無や大小について記述する。
- 13 残存度合については、その部位の12分割した際の残存度を示した。
- 14 備考は、その遺構・遺物の特記事項について記載している。

[写真図版]

- 1 写真図版は、遺構・遺物ごとにまとめている。
- 2 出土遺物実測図の報告番号と遺物写真番号は対応している。
- 3 遺物の写真図版の個々の縮尺は、不同である。

本文目次

I	前言	(服部芳人)	1
1	調査に至る経緯		1
2	調査の経過		1
II	位置と環境	(萩原義彦)	4
1	地理的環境		4
2	歴史的環境		4
III	調査成果 (遺構)	(萩原義彦)	9
1	層序		9
2	検出遺構		9
IV	調査成果 (遺物)	(萩原義彦)	24
1	縄文～弥生時代		24
2	平安時代以降		24
V	自然科学分析	(株式会社パレオ・ラボ)	50
VI	まとめ	(萩原義彦)	51
1	縄文時代		51
2	弥生時代		51
3	平安時代		51
4	鎌倉時代		51
5	室町時代～江戸時代		51
6	小結		55

図版目次

第1図	遺跡位置図	5	第17図	出土遺物実測図(4)	27
第2図	遺跡地形図	7	第18図	出土遺物実測図(5)	30
第3図	調査区位置図	8	第19図	出土遺物実測図(6)	31
第4図	調査区平面図	10	第20図	出土遺物実測図(7)	32
第5図	調査区北壁断面図	11	第21図	出土遺物実測図(8)	33
第6図	区画溝土層図	11	第22図	出土遺物実測図(9)	34
第7図	調査区東壁断面図	12	第23図	出土遺物実測図(10)	35
第8図	土坑SK14実測図	13	第24図	出土遺物実測図(11)	36
第9図	土坑SK17・18実測図	14	第25図	出土遺物実測図(12)	37
第10図	中世墓SX53実測図	15	第26図	出土遺物実測図(13)	38
第11図	土坑SK72・83・87井戸 SE64・104実測図	19	第27図	出土遺物実測図(14)	39
第12図	掘立柱建物SB105実測図	21	第28図	出土遺物実測図(15)	40
第13図	土坑SK115実測図	21	第29図	遺跡概略図	51
第14図	出土遺物実測図(1)	24	第30図	焙烙分布図	54
第15図	出土遺物実測図(2)	25	第31図	茶釜変遷図	57
第16図	出土遺物実測図(3)	26	第32図	焙烙変遷図	58

表目次

第1表	遺跡一覧表	5	第8表	遺物観察表(4)	45
第2表	掘立柱建物一覧表	20	第9表	遺物観察表(5)	46
第3表	遺構一覧表(1)	22	第10表	遺物観察表(6)	47
第4表	遺構一覧表(2)	23	第11表	遺物観察表(7)	48
第5表	遺物観察表(1)	42	第12表	遺物観察表(8)	49
第6表	遺物観察表(2)	43	第13表	寄生虫卵分析に用いた試料の計量値	50
第7表	遺物観察表(3)	44	第14表	産出花粉孢子一覧表	50

写真目次

写真1	鍋川源流	4	写真3	山本城跡	6
写真2	武備塚1号墳	6			

写真図版目次

巻頭図版1	新名神高速道路遠景(西から) 小社遺跡遠景(西から)		写真図版8	土坑S K83完掘状況(北から)	67
巻頭図版2	遺跡遠景(第2次発掘調査)(南から) 土坑S K14完掘状況(南西から)		写真図版9	屋敷地1完掘状況(南から)	68
巻頭図版3	遺跡遠景(第3次発掘調査)(西から) 遺跡遠景(第3次発掘調査)(南から)		写真図版10	空閑地完掘状況(北から)	69
巻頭図版4	中世墓S X53完掘状況(南東から) 土坑S K83完掘状況(北から)		写真図版11	第4次調査前風景(南から)	70
写真図版扉	第3次調査区完掘状況(真上から)		写真図版12	調査区完掘状況(南から)	70
写真図版1	調査前風景(東から)	60	写真図版12	調査区完掘状況(北から)	71
写真図版2	調査前風景(西から)	60	写真図版13	石列S Z112完掘状況(南西から)	71
写真図版2	第2次調査区完掘状況(北から)	61	写真図版13	土坑S K115遺物出土状況(東から)	72
写真図版3	第2次調査区完掘状況(北から)	61	写真図版14	土坑S K115遺物出土状況(南西から)	72
写真図版3	土坑S K群完掘状況(南から)	62	写真図版14	出土遺物	73
写真図版4	土坑S K14石敷出土状況(西から)	62	写真図版15	出土遺物	74
写真図版4	土坑S K14完掘状況(西から)	63	写真図版16	出土遺物	75
写真図版5	土坑S K14完掘状況(南西から)	63	写真図版17	出土遺物	76
写真図版5	土坑S K14石列出土状況(東から)	64	写真図版18	出土遺物	77
写真図版6	土坑S K17・18完掘状況(南東から)	64	写真図版19	出土遺物	78
写真図版6	第3次調査区完掘状況(東から)	65	写真図版20	出土遺物	79
写真図版7	第3次調査区完掘状況(南東から)	65	写真図版21	出土遺物	80
写真図版7	屋敷地2完掘状況(北西から)	66			
	屋敷地2完掘状況(北から)	66			

I 前 言

1 調査に至る経緯

近畿自動車道名古屋神戸線（以下、新名神高速道路とする）は、名古屋市と神戸市を結ぶ、総延長約175kmの高規格幹線道路である。昭和40年に開通した名神高速道路は、自動車交通の増大により、慢性的な渋滞や混雑を生み、高速性・定時性が損なわれる状況が生じてきた。そこで、この課題の解消の対策として、代替路線の新名神高速道路の整備が進められることとなったのである。

三重県教育委員会と中日本高速道路株式会社名古屋支社四日市工事事務所は、平成21年(2009)年2月24日付けで、事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱い、及び発掘調査の方法についての協定書を取り交わし、四日市JCT～亀山西JCT間の発掘調査を実施してきた。

既に刊行している報告書^①には、新名神高速道路事業の概要、及び発掘調査に至る経緯、保護措置などの詳細について記載しているため、参照されたい。

【註】

①三重県埋蔵文化財センター『伊坂窯跡・伊坂遺跡（第5次）発掘調査報告』（2011年）

2 調査の経過

（1）調査経過の概要

小社遺跡は、鈴鹿・亀山工事区管内の遺跡であるため、四日市工事区管内の遺跡の発掘調査よりは、供用開始計画予定からも優先度は若干低かった。しかしながら、四日市JCT～亀山西JCT全体の進捗との調整で、用地買収や伐採などの調査の条件が整った遺跡から発掘調査を実施してきた。

今回、平成22年度から平成27年度にかけて行われた発掘調査の年度ごとの概要を、以下に記述する。

平成22年度

小社遺跡の発掘調査に関わる初めての協議は、平成22年8月27日ネクスコとの定例会にて行われた。その結果、当時の遺跡内の用地買収の状況から、平成23年度の秋から冬頃にかけて、650㎡を1次調査

として計画がなされた。その後、若干用地買収が進み、年度末に行われた定例会では、平成23年度の発掘調査計画として、トレンチ3本（150m+170m+160m×幅2m）の合計960㎡を調査計画書に盛り込むこととして、平成24年2～3月に計画された。

平成23年度

平成23年に入り、初回の協議では、計画通りに進めるためには、遅くとも10月～1月に茶の木などの伐採が必要である旨を依頼した。しかしながら、7月の段階で用地取得は、10%弱ということで、取り急ぎ用地買収の推進を要望した。

その後、8月24日定例会では、1次調査の結果次第であるが、遺跡全体の半分50%の6,000㎡が二次調査必要になった場合でも、平成24年度に3,000㎡、平成25年度に残り3,000㎡の二次調査と2か年に分割した計画がなされた。

また、8月31日や9月27日と協議を重ねるとともに、用地買収も徐々に進んだため、最終的には、調査面積1,020㎡の一次調査を、10月24日～平成24年2月17日に実施した。調査は、トレンチを16本設定した。トレンチ1～7では、土坑や溝を確認し、16世紀代の土器・陶器を検出した。

なお、遺跡範囲の北側に設定したトレンチ8～16では、遺構も遺物も確認されなかったため、3,600㎡の二次調査が必要と判断した。

その後、1月17日と2月9日に協議を行い、平成24年度は、未買収用地の範囲内の宅地移転や伐採が終了した後に、1次調査を実施することと、二次調査面積3,600㎡を、年度後半に計画することが決定した。

平成24年度

5月23日の協議では、遺跡範囲内南側の未調査区の伐採が7～8月頃に計画されたため、一次調査はその後に計画された。

また、8月21日の協議では、二次調査の3,600㎡が路線幅の全面が対象になり、工事用道路が確保できなくなったため、車両通行の最低幅の約10mを、遺跡の北側から南側に貫通する約1,500㎡を、優先

的に発掘調査の依頼がなされた。

協議の結果、10月から工事車両通行範囲の発掘調査を優先的に開始し、残りの2,100㎡は、平成25年度に実施することが計画された。その後、未買収地の伐採なども行われたため、一次調査も含めて、二次調査（第2次調査）が、10月19日～平成25年2月5日に行われた。

一次調査は、トレンチを6本設定して行った結果、土坑・現代攪乱・造成土を検出したが、概ね近世中期以降の遺物が含まれているため、二次調査対象から外す。合計400㎡である。

また、第2次調査では、土坑・溝・柱穴などを検出した。遺物は、概ね中世から近世にかけてのもので、土師器鍋や瀬戸美濃の皿・壺などの他、縄文土器片や山茶碗片なども出土した。合計調査面積は、1,573㎡である。

平成25年度

年度が改まったが、要二次調査範囲、約2,100㎡の南東隅部分に未買収があるため、契約当初の協議から、3か年に分割した発掘調査が依頼された。

しかし、当該年度には、四日市工事区管内の伊坂城跡の発掘調査の条件が整い、道路建設工事や供用開始が優先されるため、調整協議の結果、小社遺跡の発掘調査は、当年度には実施せず、平成26年度と平成27年度の2か年に分割した計画に変更された。なお、平成26年度は2,000㎡、平成27年度は329㎡とされた。

平成26年度

4月18日～8月12日にかけて、第3次調査を実施した。調査区は、第2次調査区を挟んで南西をA地区、北東をB地区とした。合計面積は2,073㎡である。調査の結果、中世後期の墓、土坑の他、近世の石列や石組土坑、掘立柱建物、溝、土坑などを検出した。遺物には、土師器各種、瀬戸美濃陶器、常滑陶器、青磁、五輪塔、石臼などがある。

また、普及啓発活動の一環として、現地説明会を7月13日(日)に行い、44名の参加があった。

なお、未調査329㎡は、当年度の末によく契約可能という事で、平成27年度後半に調査が計画された。

平成27年度

未調査面積が329㎡と狭いため、協議の結果ネクスコの労務提供（重機や作業員など）という形態での発掘調査とした。調査は平成28年1月12日～2月4日に第4次調査として行われた。合計面積は362㎡である。調査の結果、近世以降の石列や土坑（埋甕）の他、川跡などを検出した。遺物は、土師器、常滑陶器などが出土した。この第4次調査を持って、小社遺跡の発掘調査は全て終了した。

<調査日誌（抄）>

平成23年度（一次調査）

平成24年

1月10日 トレンチ14・15・16掘削

1月11日 トレンチ10・12・13掘削

1月12日～16日 トレンチ2・5・11掘削

1月17日～23日 トレンチ7・8・9掘削

1月24日・25日 トレンチ1・3・4・6掘削

平成24年度（一次調査及び第2次調査）

11月5日 調査区設定

11月19日 掘削開始

11月30日 遺構検出・溝1条確認

12月3日 遺構検出・土坑17基・溝4条

12月6日 遺構掘削・近世を中心とした遺物を確認

12月7日 SK14掘削・土坑内に配石確認

12月10日 雪のため調査中止

12月12日 SD7・8掘削・瀬戸美濃陶器・土師器・羽釜など出土

12月13日 SK14元位置以外の石外す・土層断面図作成

12月18日 SK14写真撮影

12月20日 SK14平面図完成

12月21日 SK14貼床想定粘土層掘削

12月26日 調査区全景写真撮影

12月27日 空中写真撮影完了

1月9日 2次調査区掘削終了・一次調査トレンチで、土塁状高まりは自然堆積と判断

1月11日 2次調査区埋戻し開始

1月21日 現場での各種撤収完了

平成26年度（第3次調査）

4月23日 現地協議

5月12日 調査区段階確認・表土掘削開始

- 5月26日 遺構検出開始
- 6月2日 A地区集石の落ち込み断ち割り掘削・地山の判断に苦慮
- 6月6日 A地区集石写真撮影
- 6月16日 A地区写真撮影・B地区遺構掘削
- 6月19日 SX53中世墓確認・土師器皿完形、天目茶碗小片出土
- 7月3日 A地区平面図作成
- 7月15日 空中写真撮影
- 7月16日 個別遺構写真撮影
- 7月24日 A地区土層図・B地区平面図作成
- 7月29日 SK72井戸の可能性
- 8月1日 現場作業終了

平成27年度（第4次調査）

平成28年

- 1月12日 表土掘削開始
- 1月19日 遺構検出・遺構掘削開始
- 1月20日 降雪のため作業中止
- 1月26日 O-8～9 石列から火打金片出土
- 2月1日 調査区全景・個別遺構写真撮影
午後遺構実測開始
- 2月3日 L-11埋甕写真撮影・実測・取上げ
- 2月4日 調査終了

(2) 調査の体制

各年度の担当・体制などは、次のとおりである。

平成23年度

・一次調査

- 担当：櫻井拓馬・鈴木規之（調査研究Ⅱ課）
- 業者：株式会社島田組（土工委託）
- 期間：平成23年10月24日～平成24年2月17日
- 面積：1,020㎡

平成24年度

・一次調査および第2次調査

- 担当：小原雄也・鈴木規之（調査研究Ⅲ課）
- 業者：株式会社四門（調査補助委託）
- 期間：平成24年10月19日～平成25年2月5日
- 面積：一次調査400㎡・第2次調査1,573㎡

平成26年度

・第3次調査

- 担当：水谷豊・河尻浩一（調査研究3課）
- 業者：橋本技術株式会社（土工委託）

期間：平成26年4月18日～平成26年8月12日

面積：2,073㎡

平成27年度

・第4次調査

- 担当：大川操・谷口隆亮・村上央（調査研究3課）
- 業者：ネクスコ中日本（労務提供）
- 期間：平成28年1月12日～平成28年2月4日
- 面積：362㎡

(3) 文化財保護法等にかかる諸通知

◎文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（周知の埋蔵文化財における土工工事等の発掘に関する通知）

- ・平成23年8月9日付け、中高名支四工第798号
（中日本高速道路株式会社名古屋支社四日市工事事務所長から三重県教育委員会教育長あて）

◎文化財保護法第99条第1項（発掘調査の着手報告）

- ・平成24年11月27日付け、教理第328号
（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて）【平成24年度・第2次】
- ・平成26年5月19日付け、教理第68号
（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて）【平成26年度・第3次】
- ・平成28年1月18日付け、教理第339号
（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて）【平成27年度・第4次】

◎文化財保護法第100条第2項（文化財の発見・認定通知）

- ・平成25年2月20日付け、教委第12-4434号
（三重県教育委員会教育長から鈴鹿警察署長あて）【平成24年度・第2次】
- ・平成26年9月10日付け、教委第12-4416号
（三重県教育委員会教育長から鈴鹿警察署長あて）【平成26年度・第3次】
- ・平成28年3月4日付け、教委第12-4430号
（三重県教育委員会教育長から鈴鹿警察署長あて）【平成27年度・第4次】
（服部芳人）

II 位置と環境

1 地理的環境

小社遺跡（1）は、三重県鈴鹿市小社町に所在する。鈴鹿市は、北勢地域と呼ばれる一角を占め、北を四日市市、東を伊勢湾、西を滋賀県・亀山市、南を津市に接した市であり、本田技研株式会社や鈴鹿サーキットでのF1開催などで有名である。市域の中でも小社町は、西側に位置しており、西側を小岐須町、北側を山本町、南側を西庄内町・伊船町、東側を長沢・椿一宮町によって囲まれた町である。

地勢は、西側の鈴鹿山脈を水源とする鈴鹿川・安楽川が東流して伊勢湾に注ぐ。そして、その支流である御幣川・内部川・鍋川が東南方向に流れて、内部川開析複合扇状台地を形成する。

中でも全長15kmの河川である御幣川は、鈴鹿山脈内の仙ヶ岳・入道ヶ岳の間を水源とし、小岐須溪谷を形成している。これら河川によって小岐須溪谷だけでなく椿溪谷・宮妻峽といった溪谷も形成されている。

遺跡周辺の標高は、151.8～158.2m前後である。開析扇状台地であるためかなりの比高差があるだけでなく、現集落は東南方向の鍋川沿いにすぐ下った方向に拓けている。

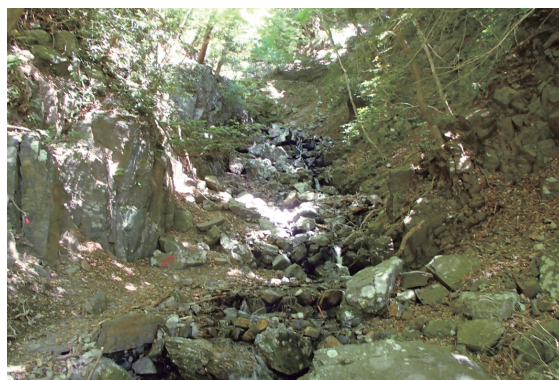


写真1 鍋川源流

2 歴史的環境

今回、発掘調査した小社遺跡は、主に室町時代から江戸時代にかけての遺跡である。鈴鹿市域を中心として、原始から近世に至る各時代を概観する。

【旧石器時代】鈴鹿川下流域北岸の台地上から石器時代のナイフ形石器が確認されており、この時期から人々が住み始めていたことが窺える。

【縄文時代】草創期の有茎尖頭器が鈴鹿山脈の麓一帯から採集されている。小社遺跡から東方向約3.8kmの内部川右岸の椿一宮遺跡^②では、発掘調査で有茎尖頭器が出土している。

また、東南方向5.4kmの御幣川右岸に位置する東庄内町の東庄内A遺跡^③では、早期から後期にかけて多くの土器が発掘調査で出土し、同方向4.9kmの東庄内B遺跡^④では、前期及び中期末の竪穴住居跡・土坑が確認されている。

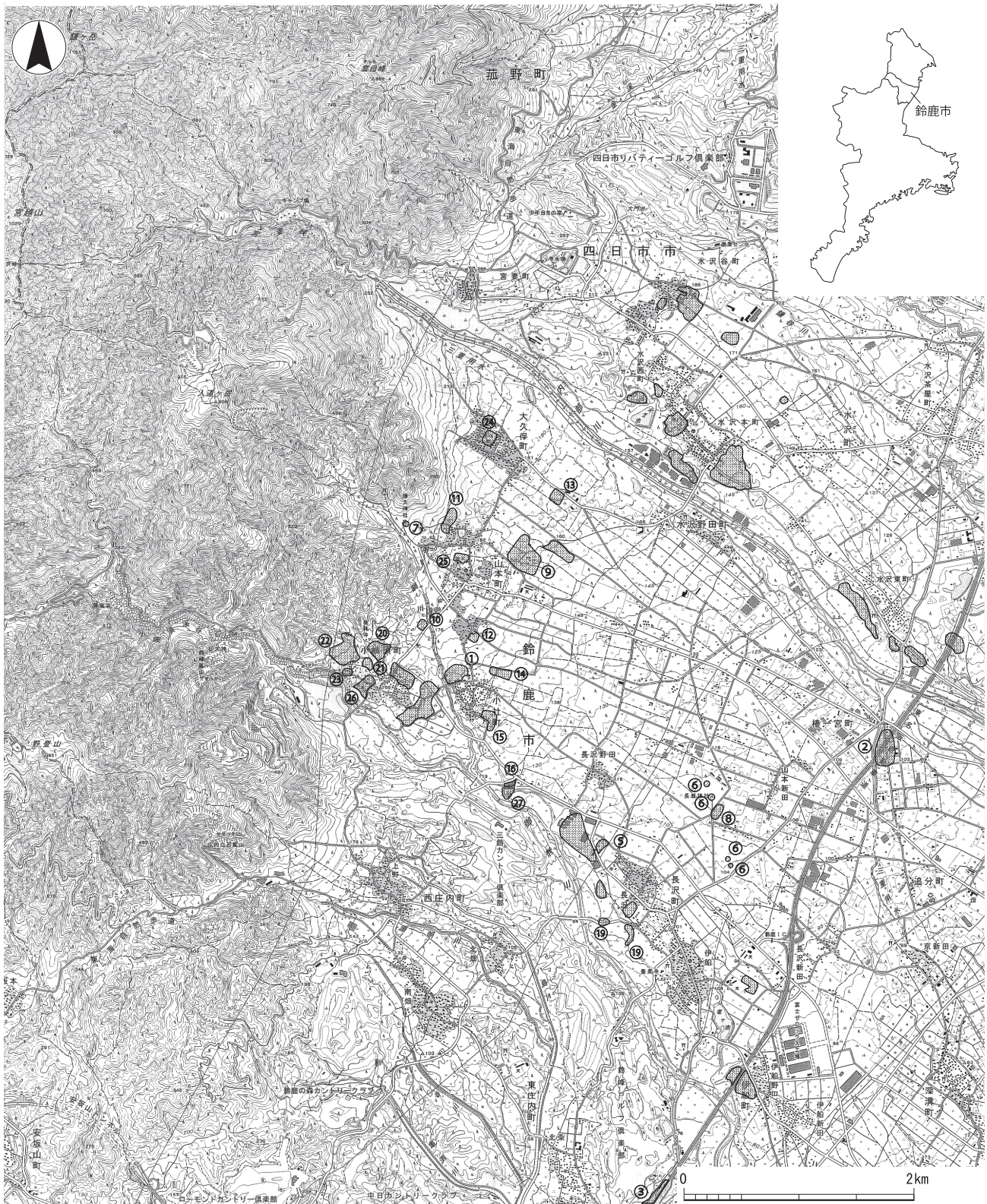
このように縄文時代においては、早い時期から集落の形成が始まっていたことが推測される。

【弥生時代】前述した東庄内A遺跡で弥生時代中期の円形竪穴住居が確認されており、東庄内B遺跡（3）では、弥生時代中期の方形周溝墓5基をはじめ土坑が確認されている。また、東南方向1.8kmの双児塚遺跡^⑤（4）においても中期の方形周溝墓7基が確認されている。

【古墳時代】周辺に目立った古墳は少ない。当遺跡から東南方向の御幣川沿いに1.7km下った北岸の長沢町に3基の円墳からなる双児塚古墳群（5）、東南方向2.5kmの同町に4基の円墳からなる武備塚古墳群（6）が存在する。かつて、これらは、「ヤマトタケル」の伝承に基づき陵墓として考えられた。この伝承が存在すること自体、伊勢平野の中で鈴鹿地域が大和の王権の東国との関わりに重要な役割を果たしていたと言えよう。

また、ほぼ北方向1.4kmの山本町にある椿大神社境内に全長約32mの前方後円墳と想定される椿大神社古墳（7）が存在している。この地域の古墳の数は、鈴鹿川中・下流域と比較して非常に少なく、古墳時代において当地域は、生産性や人口にかなりの差異があったと想定できる。なお、集落遺跡としては、東南方向2.6kmの武備野遺跡（8）がみられる程度である。

なお、椿大神社及び入道ヶ岳から見える眺望は、



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)〔国土地理院発行「御在所山」「四日市西部」(1/25,000)〕

1	小社遺跡	2	椿一宮遺跡	3	東庄内B遺跡	4	双児塚遺跡	5	双児塚古墳群
6	武備塚古墳群	7	椿大神社古墳	8	武備野遺跡	9	高ノ瀬遺跡	10	中戸遺跡
11	本郷垣内遺跡	12	東荒野遺跡	13	大松遺跡	14	神戸遺跡	15	井領田遺跡
16	牧ヶ久保遺跡	17	東海戸遺跡	18	青木A遺跡	19	上分田遺跡	20	小岐須寺垣内遺跡
21	寺垣内西遺跡	22	北条遺跡	23	北条南遺跡	24	大久保城跡	25	山本城跡
26	小岐須城跡	27	牧ヶ久保城跡						

第1表 遺跡一覧表

北勢地域を一望できることを指摘しておきたい。



写真2 武備塚1号墳

【奈良・平安時代】前時代である古墳時代の差異の影響を引き続いて受けていたと想定される。北東方向1.2kmの山本町に所在する高ノ瀬遺跡^⑨において灰釉陶器が採集されている。

平安時代の文献である『倭名類聚抄』^④にある「長世郷」や、『神鳳鈔』^⑤に記載される伊勢神宮領の「椿御菌」は、周辺地域に所在があったとみられる。

【鎌倉時代】周辺各所に遺跡が認められるようになる。中戸遺跡(10)、本郷垣内遺跡(11)、東荒野遺跡(12)、高ノ瀬遺跡(9)、大松遺跡(13)、神戸遺跡(14)、井領田遺跡(15)、牧ヶ久保遺跡(16)、東海戸遺跡(17)、青木A遺跡(18)、上分田遺跡(19)、小岐須寺垣内遺跡(20)、寺垣内西遺跡(21)、北条遺跡(22)、北条南遺跡(23)である。どの遺跡も遺物が表面採集されている。ほとんどが、鎌倉時代以降に一斉に拓けている。推測の域ではあるが、源平の争乱に伴って関東地方の武士がこの鈴鹿地域に入ってきたことを示しているのかもしれない。

【室町時代】城館が各所で築かれるようになる。北方向2.1kmの久久保町の久久保城跡(24)、北方向1kmの山本町の山本城跡(25)、西方向0.8kmの小岐須町の小岐須城跡(26)、南方向1.1kmの御幣川沿いに牧ヶ久保城跡(27)が所在する。

室町時代の終わり頃から、織田信長の伊勢への侵入が始まる。東海地域から天下統一という日本全体の動きの中で北勢地域は、数々の争乱に巻き込まれる。徳川家康の伊賀越えをはじめ、豊臣秀吉の伊勢侵攻から関ヶ原の合戦に伴う東西に分かれての戦いなどである。

【江戸時代】この地域には、南北方向に走る巡見街道が置かれていた。各村落は、あちらこちらに分割して領地化されており、亀山領をはじめとして藤堂領や神戸領あるいは天領といった複雑なモザイク状をしている。(萩原義彦)



写真3 山本城跡

【註】

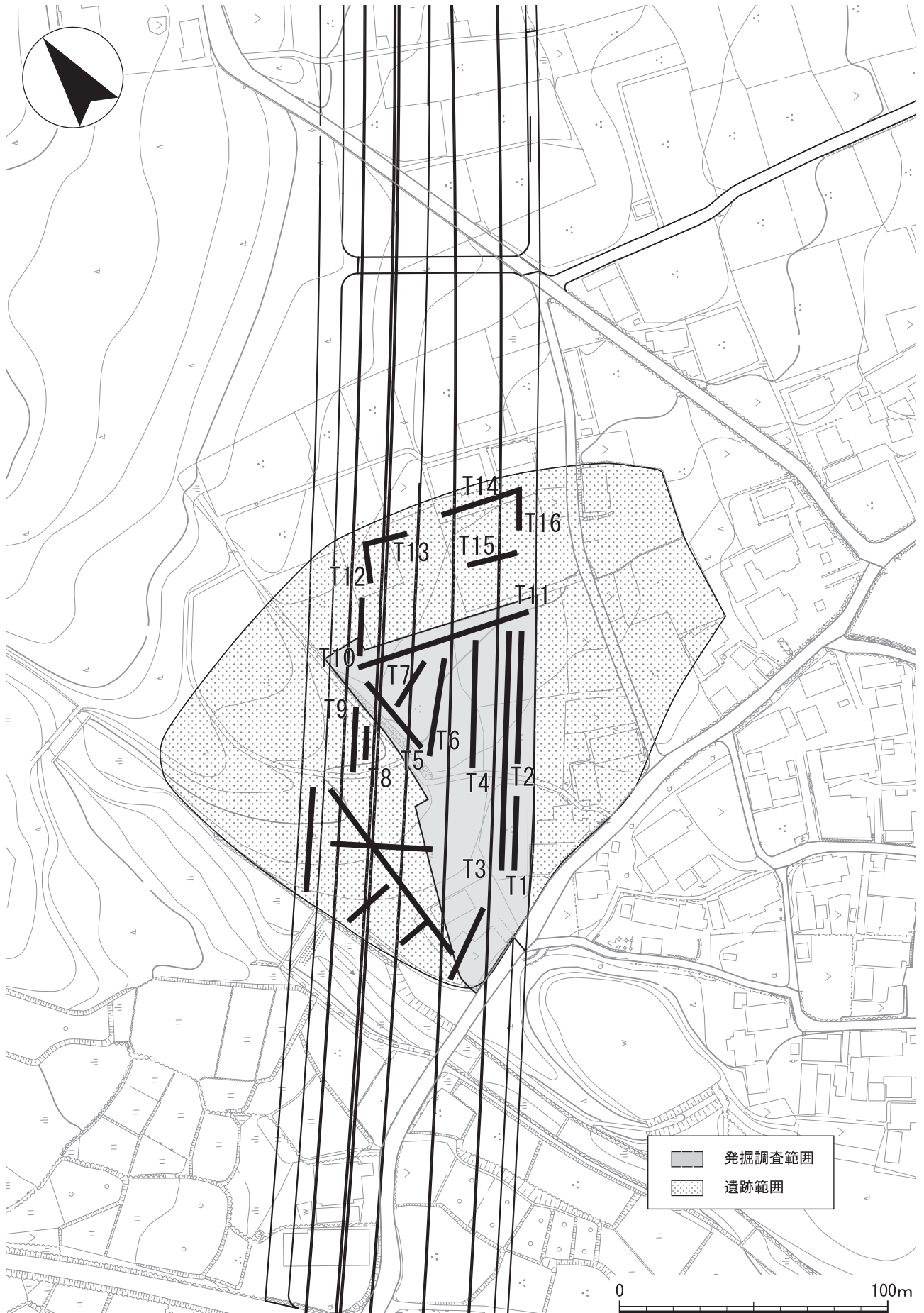
- ①三重県教育委員会『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』(1970年)
- ②三重県埋蔵文化財センター『東庄内A遺跡(第2次)発掘調査報告』(2009年)
- ③三重県埋蔵文化財センター『近畿自動車道名古屋神戸線(四日市JCT～亀山西JCT)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ～Ⅵ』(2012～2016年)
- ④中田祝夫編『倭名類聚抄』(勉誠社文庫 1978年)
- ⑤統群書類従完成会『群書類従 第1輯』(1932年)

【参考文献】

- 『三重県の地名』(平凡社 1983年)
『鈴鹿市史』(鈴鹿市 1980年)
鈴峰の郷土誌編纂委員会『鈴峰の郷土史』(1993年)
三重県教育委員会編『美濃街道・濃州道・八風道・菟野道・巡見道・巡礼道・鈴鹿の峠道』「歴史の道調査報告書」(1985年)



第2図 遺跡地形図 (1/10,000)



第3図 調査区位置図 (1/2,000)

Ⅲ 調査成果（遺構）

1 層序

発掘調査は、第2次・第3次・第4次と3回に分けて行われた。それぞれ調査区ごとに土層断面図が作成されているが、今回の報告にあたっては、各調査区全体を通して断面図を掲載している。掲載断面図は、調査区北壁及び東壁である。

層序は、全体的にみて調査区北壁及び東壁共に第1層が極暗赤褐色土層、第2層が極暗褐色土層及び灰褐色粘質土層、第3層がにぶい褐色混礫土層及び黄褐色シルト層である。第3層がベース（地山）である。そのため、遺構検出は第3層上で行った。調査区内の標高は、153.4～155mで鍋川沿いに緩やかに東南方向へ傾斜する。調査区内の比高差は1.6mある。

2 検出遺構

（1）平安時代

土坑SK59 調査区中央やや北よりのB～C地区Y25～1区で検出した土坑である。遺構の平面形は、不定形な円形である。規模は、長径1.9m、短径1.6m、深さ0.01～0.02mである。遺構は、非常に浅く焙烙状である。遺構の時期は、灰釉陶器細片から10世紀後半と判断している。

（2）室町時代

土坑墓SX53 調査区北西よりのB地区W23・24区において検出した中世墓である。中世墓の平面形は、隅丸長方形である。規模は、長辺2.65m、短辺0.98m、深さ0.25mである。

出土遺物には土師器皿（4～10）・天目茶碗（11）があり、遺構の時期は15世紀後半とみられる。

（3）室町時代～江戸時代

区画溝SD5 調査区北西隅において北東から南西にかけて掘削された区画溝である。区画溝は、B地区R21区において空閑地があり途切れた部分がある。規模は、幅0.87～1.5m、深さ0.21～0.26mである。途切れた部分の幅は1mである。溝の断面形は、逆三角形状である。

出土遺物には、小破片が主体で、灰釉陶器細片をはじめ瀬戸産の陶器丸椀（40）を含む。遺構の埋没時期は、18世紀前後と判断した。

区画溝SD6 調査区北西隅よりにおいて検出した区画溝である。溝は、溝SD5と同一方向を指向して掘削されたものである。規模は、幅0.91～1.67m、深さ0.15～0.23mである。溝の断面形は、逆台形状である。区画溝SD6は、北に伸びず東に90°で屈曲し、区画溝SD44と合流している。

出土遺物には、瀬戸産の陶器播鉢（42）があり、遺構の時期は、16世紀後葉前後のものが含まれる。おそらくこの時期に埋没したとみられる。

区画溝SD7 調査区北西隅の区画溝SD5・6と同方向に掘削された溝である。規模は、幅1.54～2.45m、深さ0.33～0.46mである。溝は調査区南西壁に突き当たる箇所であまり狭まる。北東は、区画溝SD44に連結する。溝の断面形は、西側が深くなるようなびつな逆三角形状である。

出土遺物には、土師器甕（43・44）・山茶碗（45）をはじめとして中北勢系土師器羽釜などがあり、17世紀代の天目茶碗（52・53）が含まれる。埋没時期は、17世紀後葉から18世紀前葉とみられる。

区画溝SD8 調査区やや北より西端のE地区A20～B21区において検出した区画溝である。溝は、北東から南西方向にかけて掘削されたものである。北東方向に調査区外に延伸する。規模は、幅0.82～1.26m、深さ0.05～0.22mである。溝の断面形は、逆2段台形状である。

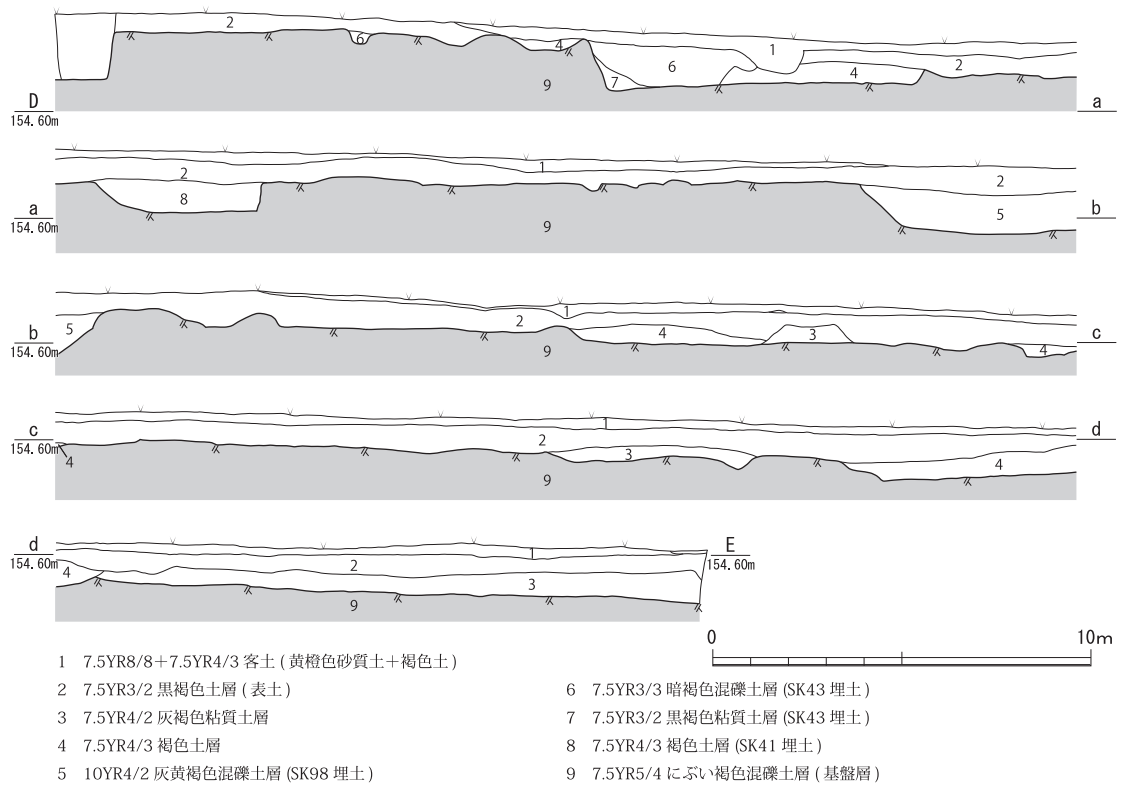
出土遺物には、土師器や陶器碗細片がある。埋没時期は、17世紀後半から18世紀前半と判断できる。

土坑SK11 調査区中央部西端のE地区B20～C21区を中心に検出した方形土坑である。平面形は、ほぼ隅丸方形である。規模は、長辺3.2m、短辺3m、深さ0.38mである。土坑SK11の直ぐ北側に柱穴があり、瀬戸美濃産の陶器小壺（189）が出土している。本来は周囲に柱穴があった可能性がある。

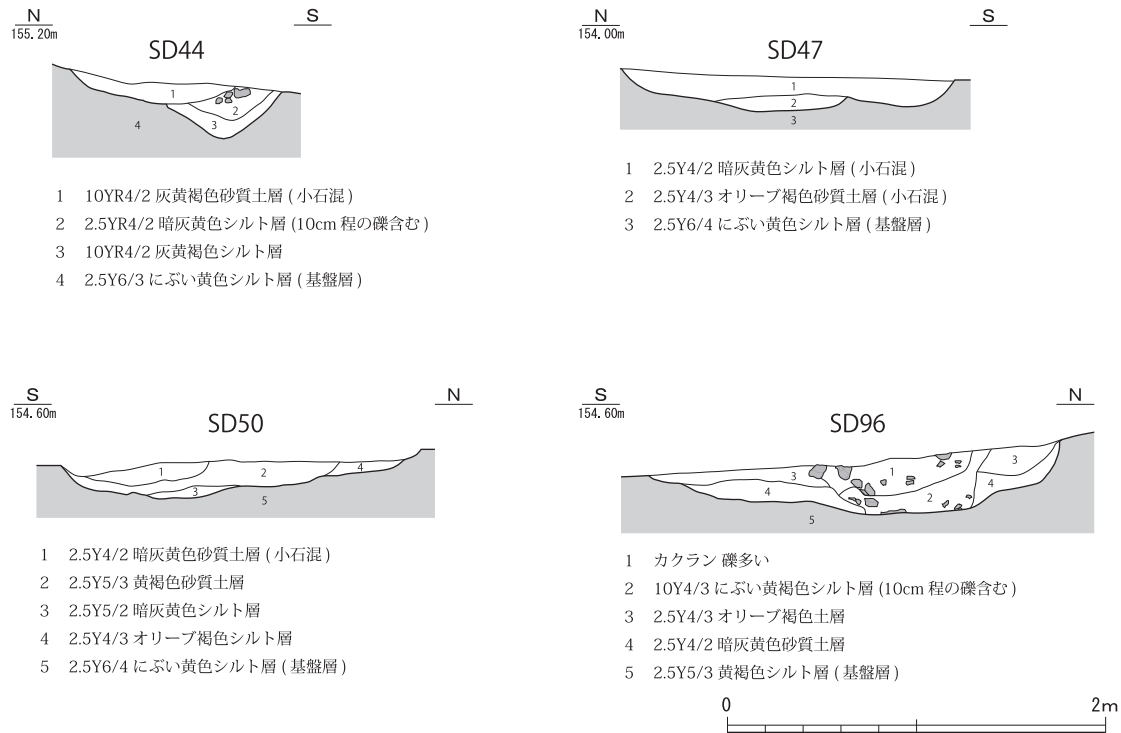
出土遺物には、瀬戸美濃産の天目茶碗（12）が出土している。埋没時期は、天目茶碗の時期から17世



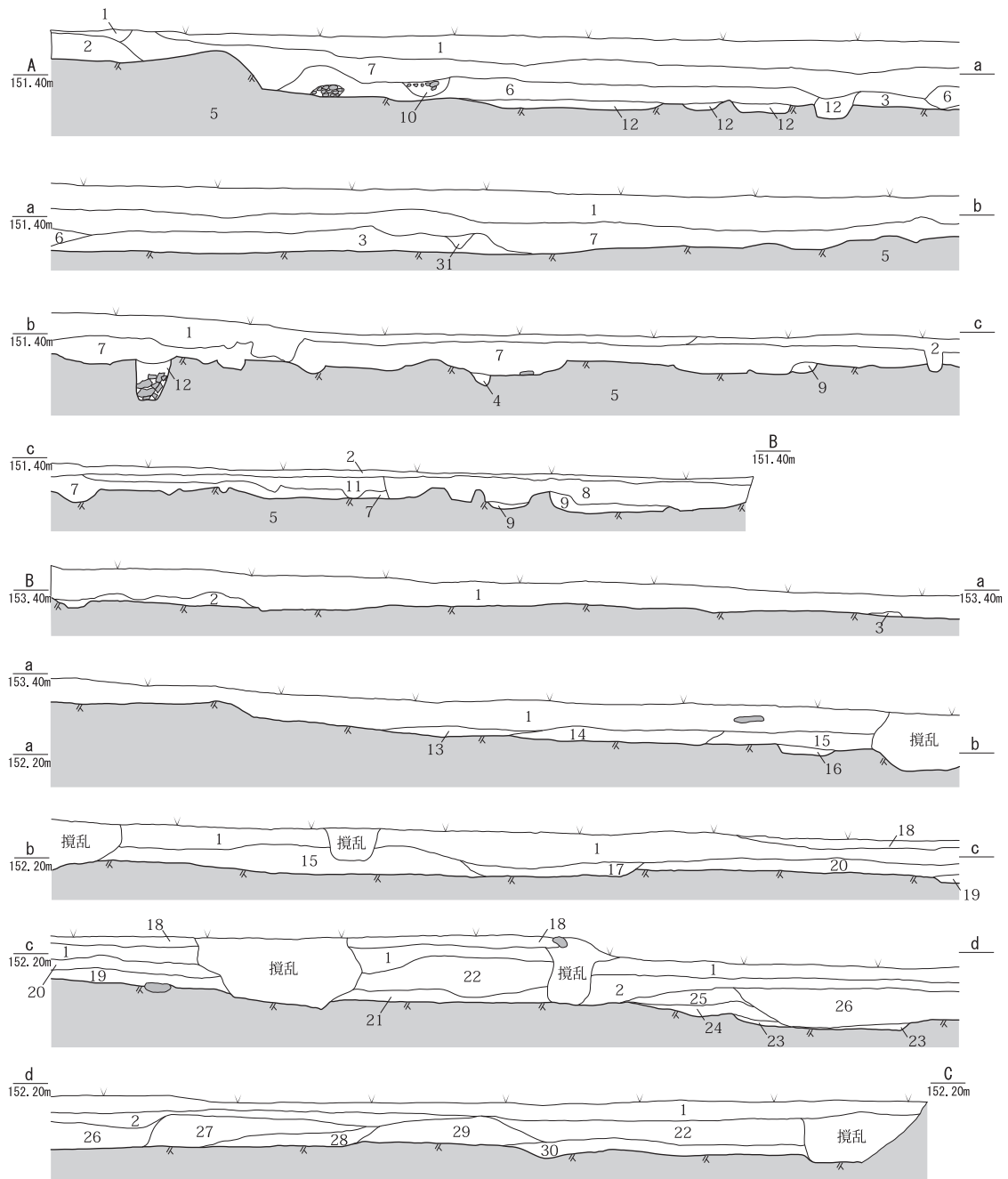
第4図 調査区平面図 (1/500)



第5図 調査区北壁断面図 (1/200)

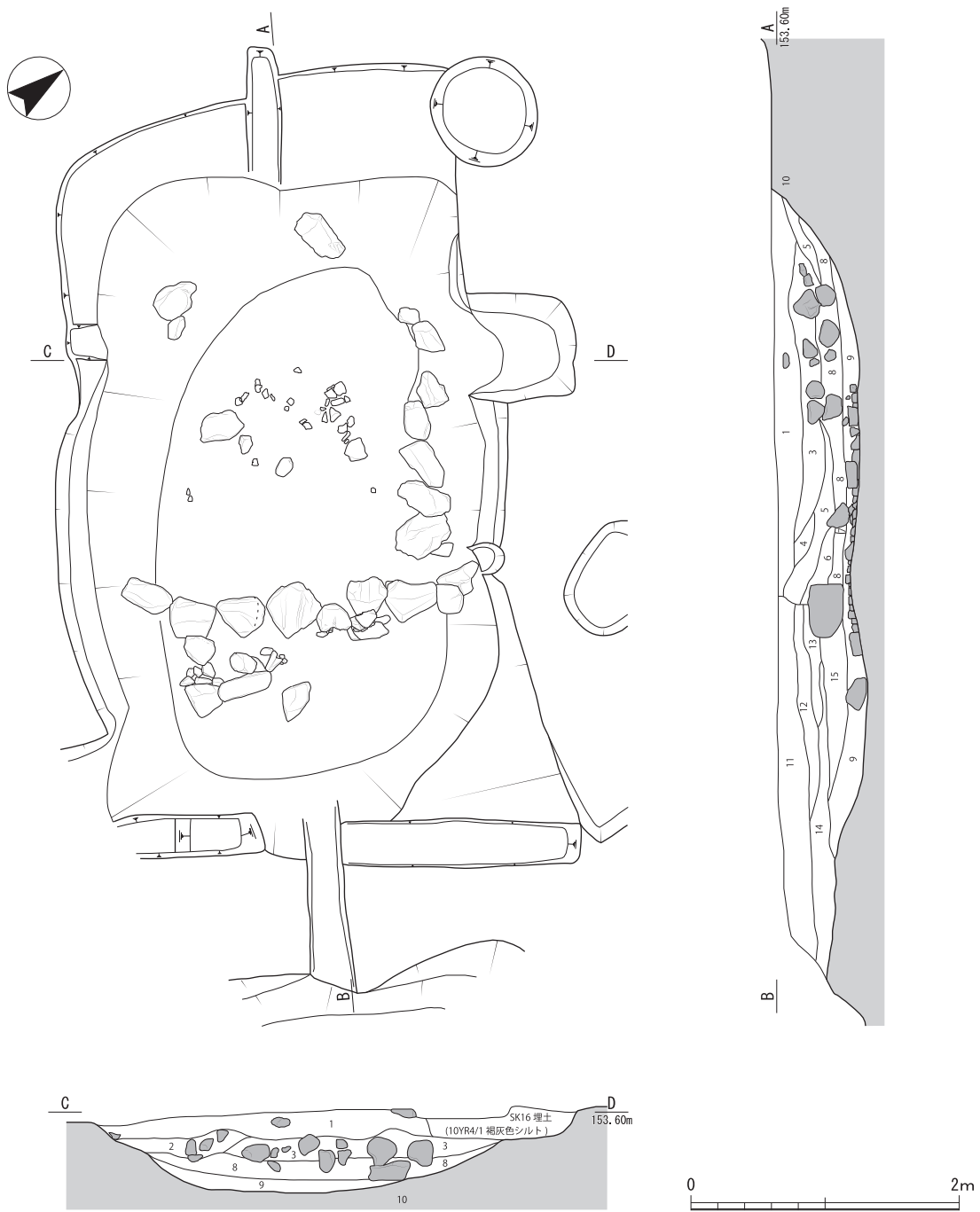


第6図 区画溝土層図 (1/40)



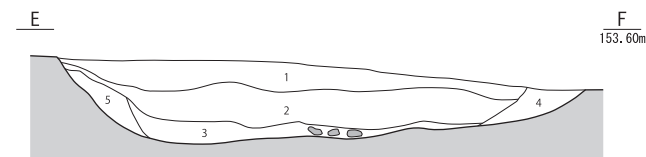
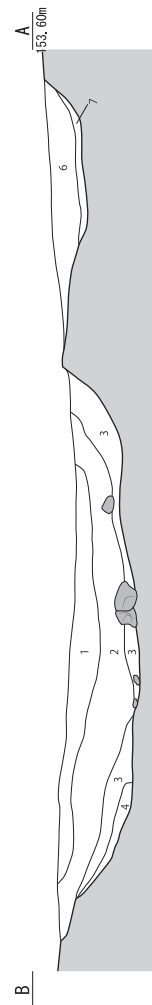
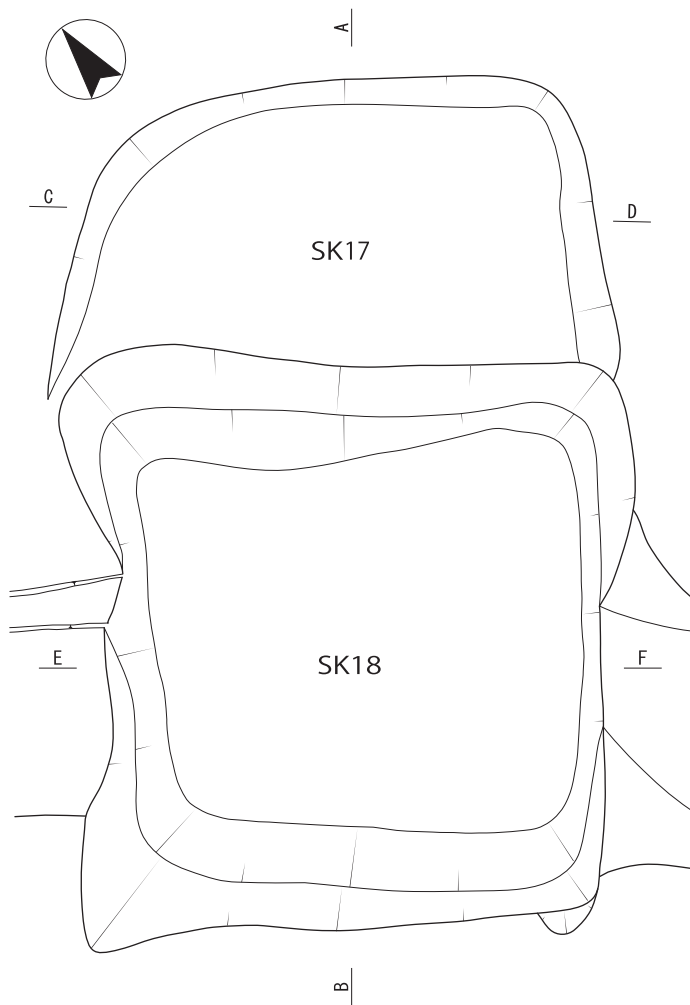
- | | | |
|-------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------|
| 1 7.5YR8/8+7.5YR4/3 客土 (黄橙色砂質土+褐色土) | 12 7.5YR4/4 褐色土層 (暗渠) | 22 7.5YR4/3 暗オリーブ色土層 |
| 2 7.5YR3/2 黒褐色土層 (表土・耕作土) | 13 7.5Y4/1 灰色土層 | 23 5Y7/2 灰白色シルト層 |
| 3 7.5YR4/2 灰褐色粘質土層 | 14 7.5Y5/3 灰オリーブ色土層 | 24 10YR4/4 褐色シルト層 |
| 4 7.5YR2/1 黒色土層 | 15 2.5Y5/4 黄褐色土層 | 25 10YR4/4 褐色シルトブロック層 |
| 5 7.5YR5/4 にぶい褐色混礫土層 (基盤層) | 16 10Y4/1 灰色土層 | 26 2.5Y6/4+2.5Y4/1 にぶい黄色砂質土+黄灰色砂礫土層 |
| 6 7.5YR2/3 極暗褐色土層 (旧耕作土) | 17 10Y3/2 オリーブ黒色砂礫層 | 27 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土層 |
| 7 5YR2/3 極暗赤褐色土層 (旧耕作土) | 18 10YR5/8 黄褐色土層 (客土) | 28 2.5Y4/1 黄灰色砂礫層 |
| 8 10YR3/4 暗褐色土層 (攪乱) | 19 7.5Y3/1 オリーブ黒色土層 | 29 2.5Y4/4 オリーブ褐色礫層 |
| 9 7.5YR3/1 黒褐色土層 | 20 7.5Y5/3 灰オリーブ色土層 | 30 10Y3/2 オリーブ黒色土層 |
| 10 7.5YR3/4 暗褐色混礫土層 | 21 5Y4/2 灰オリーブ色土層 | 31 7.5YR3/3 暗褐色土層 |
| 11 7.5YR4/1 褐灰色土層 | | |

第7図 調査区東壁断面図 (1/200)



- 1 10YR5/1 褐灰色シルト層 (Φ5～10mmの中礫多く入る にぶい黄褐色シルトブロック入る)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層 (Φ100～200mmの大礫入る)
- 3 2.5Y7/4 浅黄色シルト層 (Φ100～400mmの大礫多く入る)
- 4 5Y5/1 灰色シルト層 (Φ10～20mmの礫含む)
- 5 2.5Y6/1 黄灰色粘土層 (10YR7/3 にぶい黄褐色粘土ブロック少含む)
- 6 5Y5/2 灰オリーブシルト～粘土層 (土器含む)
- 7 7.5YR6/2 灰オリーブシルト～粘土層 (Φ40mmの大礫含む)
- 8 5Y5/1 灰色シルト～粘土層 (Φ100～400mmの大礫含む)
- 9 5Y6/2 灰オリーブ粘土層 (7.5YR6/4 にぶい橙色シルトブロック含む) 貼床
- 10 7.5Y6/1 灰色シルト～粘土層 (Φ2～5mmの礫含む) ベース (基盤層)
- 11 5Y5/3 灰オリーブ粘土層 (Φ5～10mmの礫含む)
- 12 5Y4/1 灰色シルト～粘土層
- 13 5GY6/1 オリーブ灰色粘土層 (Φ5～10mmの礫含む)
- 14 5Y5/3 灰オリーブ色土層
- 15 7.5Y5/2 灰オリーブ色シルト～粘土層 (Φ5～10mmの礫含む)

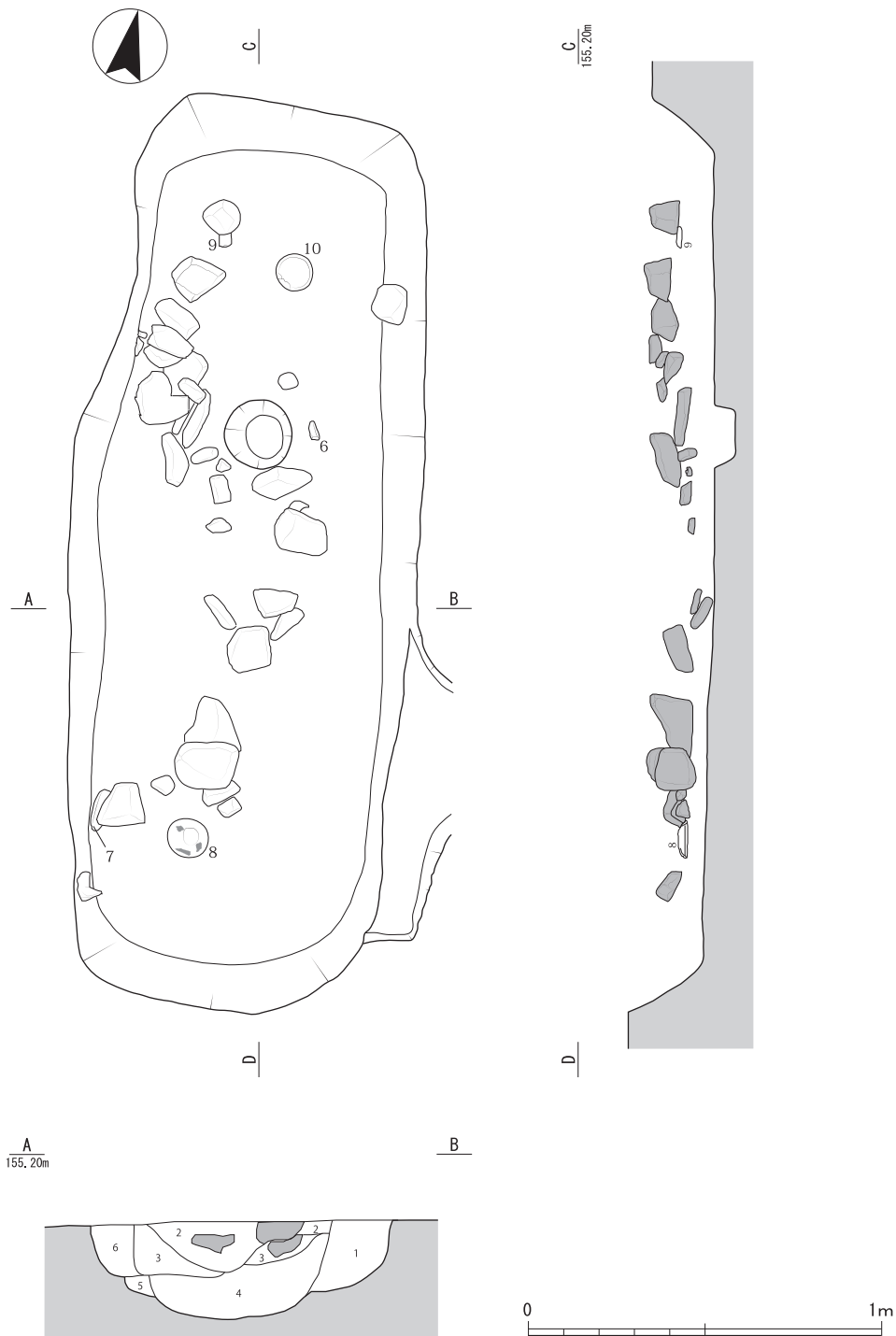
第8図 土坑SK14実測図 (1/50)



- 1 10YR4/1 褐灰色シルト層～細砂層 (Φ10cmの大礫少)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト層～細砂層 (Φ10cmの礫含む)
- 3 10YR6/4 にぶい黄橙色極粗砂層～礫層 (Φ5mmの礫含む)
- 4 10YR5/1 褐黄色シルト層 (Φ10cmの礫含む)
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト層 (Φ5mmの礫含む)
- 6 10YR5/1 褐黄色シルト層 (Φ5mmの礫多い)
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層～粘土層



第9図 土坑SK17・18実測図 (1/50)



第10図 中世墓S X 53実測図 (1/20)

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト層
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土層
(石、炭化物、焼土含、黄褐色シルトブロック多く含む)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト層 (小石、シルト極小ブロック含む 10YR5/6)
- 4 2.5Y5/3 黄褐色シルト層 (炭化物含む)
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土層
- 6 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層

紀中葉以降である。

区画溝 S D 13 調査区ほぼ中央部の E 地区 A 23・24 区において検出した溝である。溝は、区画溝 S D 8 と同一方向にかけて掘削されたものである。規模は、幅 1.28m、深さ 0.07～0.12m である。

出土遺物には、土師器皿 (97・98)・瀬戸美濃産の折縁皿の陶器皿 (99)・加工円盤 (100)・瀬戸産の陶器甕 (101)・常滑産の陶器甕が出土している。埋没時期は、18世紀末から19世紀初頭と判断される。

土坑 S K 14 調査区中央部やや西よりの E 地区 C～D 21・22 区を中心に検出した石組土坑である。平面形は、隅丸長方形である。規模は、長辺 5m、短辺 2.76m、深さ 0.54～0.63m である。石は人頭大前後の礫を使用して、内側に面が揃うように組まれている。石組は、最下層の段だけを確認している。東側に石組の裏込め土が土坑状に掘りくぼめられている。土坑の底は、0.05m～0.2m 前後の小礫を用いて貼り床が作られていたと推測される。また、遺構平面図上では、長方形であるが石組のための裏込め土除去によって掘形は、広がっている。本来は、3m 四方の遺構であったと考えられる。

出土遺物には、土師器皿 (16・17)・土師器羽釜 (18～21)・灰釉陶器皿 (14・15)・古瀬戸四耳壺 (13)・常滑産の陶器片口鉢 (24・25) などが出土している。埋没時期は、出土遺物から14世紀後葉から16世紀後葉と考えられる。

区画溝 S D 15 調査区中央部やや南よりの E 地区 E 24 区を中心に検出した区画溝である。規模は、幅 0.79～1.3m、深さ 0.28～0.55m である。

この区画溝は、調査区の南側にいくに従って溝 S D 32 に繋がる。おそらく近世以降の田畑用の土止めの石垣列に利用されている。

出土遺物には、尾張型の陶器碗 (山茶碗) (68) をはじめ九州唐津の陶器碗 (69) を含んでいる。遺構の埋没時期は、16世紀後半以降とみられる。

土坑 S K 18 調査区中央部やや西より E 地区 D 23 区を中心に検出した土坑である。平面形は、隅丸方形である。規模は、長辺 5.6m、短辺 3.4m、深さ 0.46m である。

また、石組は抜き取られたと考えられる。その理由は最下段の四隅と判断される基底石があったため

である。また、土坑 S K 17 は、石組の裏込めのために平面形が長方形になる可能性があるため、同一遺構の可能性もある。

出土遺物には、灰釉陶器碗 (28)・常滑産の片口鉢 (29)・景德鎮の磁器 (30) が出土している。埋没時期は、16世紀後半と考えられる。

溝 S D 32 調査区やや南より E 地区 G 20～25 区にかけて確認した溝である。溝には石が組まれている。規模は、幅 1.45m、深さ 0.13～0.38m である。

出土遺物には、尾張産の土師器焙烙 (140)・瀬戸の湯呑茶碗の陶器碗 (141・142)・瀬戸産の輪弁皿の陶器皿 (143) がある。埋没時期は、17世紀末から18世紀後半にかけてとみられる。

土坑 S K 33 調査区南部の土坑 S K 18 の南側 E 地区 F・G 22～23 区において検出した石組土坑である。平面形は、隅丸方形である。規模は、長辺 2.9m、短辺 2.85m、深さ 0.43m である。ここでも石組の最下段を確認している。この遺構も 3m 四方のものと考えられる。

出土遺物には陶器皿 (山皿) (31) がある。遺構の時期は、遺物から13世紀前半頃ではないかと思われる。

溝 S D 36 調査区やや南より西壁を中心に確認した南北方向の溝である。溝の中には、溝 S D 32 と同様に石が組まれている。規模は、幅 1.2m 以上、深さ 0.09m である。

出土遺物には、土師器皿 (146・147)・土師器焙烙 (148・149)・瀬戸産の天目茶碗 (150・151)・美濃の端反皿の陶器皿 (152)・瀬戸及び美濃産の陶器碗 (153～163)・瀬戸及び美濃産の片口鉢 (164・165・167)・常滑産の鉢 (166) など多く出土している。埋没時期は、17世紀末から19世紀にかけての広範囲とみられる。

石列 S Z 37 調査区やや南よりに確認した石列群である。石列は、平面上で逆 L 字形をして組まれている。田畑の土止めの石垣である。

出土遺物には、土師器皿 (144・145) があるが、埋没時期は、江戸時代以降と判断している。

区画溝 S D 42・44・47 調査区北辺部において検出した東西方向に掘削された区画溝である。溝は、1度以上掘りなおしがされている。そのため、溝が

重複したようになっている。規模は、S D42が幅0.56～0.82m、深さ0.19～0.33m、S D44が幅0.85～1.05m、深さ0.44～0.52m、S D47が幅1.9m、深さ0.04～0.28mである。この区画溝は、東端で南に90°屈曲して、区画溝S D48と連結している。

出土遺物には、土師器皿（77）・中北勢系土師器羽釜（78）などがあり、埋没時期は、16世紀後半以降とみられる。

区画溝S D48 調査区北辺部のC地区U3区を中心に検出した区画溝である。溝は、南北方向に掘削されている。規模は、幅0.56～0.96m、深さ0.21～0.5mである。

出土遺物には、中北勢系土師器羽釜の細片があり埋没時期は、16世紀後半以降とみられる。

区画溝S D50 調査区北辺部のB・C地区T23～U2区にかけて検出した区画溝である。溝は、東西方向にかけて掘削されたものである。また、西端で区画溝S D7と東端で区画溝S D48と連結している。規模は、幅0.53～1.83m、深さ0.2～0.5mである。

出土遺物には、土師器皿（87）をはじめ加工円盤（88）があり、埋没時期は、16世紀後半以降とみられる。

区画溝S D55 調査区中央部やや北よりのB・C地区V23～1区において検出した区画溝である。溝は、東西方向に掘削されたものである。一部において食い違いのような溝である。溝の規模は、幅0.86m、深さ0.16～0.18mである。

出土遺物には、瀬戸産の輪髹皿の陶器皿（89）があり、埋没時期は、17世紀末とみられる。

井戸S E64 調査区中央部からやや東よりのF地区C5区において検出した井戸である。井戸は、平面形がほぼ円形である。井戸の規模は、長径1.34m、短径1.16m、深さ1.17mである。

出土遺物には、土師器・瀬戸美濃産の天目茶碗の細片が含まれており、16世紀以降に埋没したと判断される。

土坑S K72 調査区中央部やや北よりのF地区B1区を中心に確認した土坑である。遺構の平面形は、ほぼ長方形である。遺構の規模は、長辺5.7m、短辺2.87m、深さ0.19～0.23mである。この土坑のほぼ中央部で井戸S E104を確認している。

出土遺物には、中北勢系土師器羽釜の細片が多くみられる。埋没時期は、16世紀後半以降とみられる。

区画溝S D80 調査区中央部東端のF地区G4区において検出した溝である。溝は、東西方向にかけて掘削されたもので幅広である。溝の規模は、幅1.62m以上、深さ0.16mである。

出土遺物には、常滑甕や土師器の細片がある。埋没時期は、16世紀後半以降とみられる。

畝間溝S D81 調査区東南よりD・E3区において検出した畝間溝^①である。溝は、南北方向に掘削されたものである。畝間溝の規模は、幅0.8～1.48m、深さ0.07～0.1mである。

出土遺物には、土師器・陶器碗（糸目碗）の細片がある。埋没時期は、17世紀後半以降とみられる。

土坑S K83 調査区北東部のC～F地区Y6～A6区において検出した石組土坑である。遺構の平面形は、正方形である。遺構の規模は、長辺3m・短辺2.78m・深さ0.41mである。石は人頭大前後の礫を使用して、内側に面が揃うように組まれている。石組は、最下段だけを確認している。周囲に柱穴をもたない。

出土遺物には、石臼（137）や瀬戸産の陶器播鉢や瀬戸の陶器壺の細片があり、埋没時期は、17世紀以降とみられる。

土坑S K87 調査区北東部分のC地区Y5区を中心に検出した土坑である。平面形は、正方形である。規模は、長辺2.8m・短辺2.64m・深さ0.32mである。重複する土坑S K86は、この土坑の裏込め土と判断される。

出土遺物には、磁器細片があり、埋没時期は17世紀以降と判断している。

畝間溝S D90 調査区東南よりF地区D1・2区において検出した畝間溝である。この溝だけでなく畝間溝S D81を含めて6条が畝間溝である。溝は、南北方向に掘削されたものである。規模は、幅0.58～0.78m、深さ0.17～0.27mである。

遺構の時期は、江戸時代と判断している。

石列S Z91 調査区の北東部分のC地区で直線的に伸びる溝で、溝内に石列が組まれている。北東から南西方向に伸びており石列S Z102と連結する。規模は、検出長19.5m、幅0.46～0.6m、深さ0.05

～0.68mである。

遺構の時期は、江戸時代と判断している。

土坑SK92 調査区北側のC地区V4区の区画溝SD93の西側肩部において検出した土坑群の1つである。平面形は隅丸長方形である。規模は、長辺1.26m・短辺0.96m・深さ0.37mである。

出土遺物には、土師器片をはじめとして常滑産の片口鉢や陶器の細片が含まれており、16世紀後半以降と判断している。

区画溝SD93 調査区中央部北よりのC地区W4区を中心において検出した溝である。溝は、南北方向に掘削されたものである。溝の北西肩部には、いくつかの土坑がみられる。区画溝SD96と北西部と連結する区画溝である。規模は、幅2～2.8m、深さ0.01～0.06mである。

出土遺物には、石製品薬研(103)・尾張産焙烙細片があり、埋没時期は17世紀代とみられる。

区画溝SD96 調査区北東辺のC地区U6～W10区を中心において検出した区画溝である。溝は、東西方向に掘削されたものである。東端は、調査区外である。いずれかの場所で南に屈曲して区画溝SD80に連結していることが想定できる。規模は、幅0.7～2.86m、深さ0.19～0.41mである。

出土遺物には、灰釉陶器碗(104)をはじめとして美濃産の陶器汁注(105)・石硯(106)があり、埋没時期は18世紀前後とみられる。

石列SZ102 調査区の北東部分のF地区で直線的に伸びる溝で、溝内に石列が組まれている。東西方向の伸びており、石列SZ91と連結する。規模は、検出長18.6m、幅0.38～0.58m、深さ0.16～0.28mである。

遺構の時期は、江戸時代と判断している。

石列SZ103 調査区の北東部分のF地区で直線的に伸びる溝で、溝内に石列が組まれている。東西方向の伸びており、北西の箇所屈曲する。

規模は、検出長21.8m、幅0.5～0.56m、深さ0.16～0.49mである。

遺構の時期は、江戸時代と判断している。

土坑SK100 調査区北側区画溝SD93の西側肩部において検出した土坑群の1つである。平面形は隅丸長方形である。規模は、長辺0.92m・短辺0.81

m・深さ0.38mである。

出土遺物はないが土坑SK92と同時期であろう。

土坑SK101 調査区北側区画溝SD93の西側肩部において検出した土坑群の1つである。平面形は隅丸長方形である。規模は、長辺1.34m・短辺1.11m・深さ0.42mである。

出土遺物はないが土坑SK92と同時期であろう。

井戸SE104 調査区ほぼ中央部F区B1区において検出した井戸である。井戸は、平面形がほぼ楕円形である。井戸の規模は、径0.98m、深さ0.8m以上である。井戸の断ち割りを実施したところ人頭大の礫が多く投げ込まれていた。

出土遺物には、陶器小碗(37)・陶器皿(38)・陶器片口鉢(39)があり、埋没時期は17世紀代と判断される。

掘立柱建物SB105 第2次調査で確認された掘立柱建物である。調査区中ほどF区C2～D3・4区を中心において検出した桁行3間×梁行2間で西に1間分、廂の出のある側柱建物である。棟方向は、東西棟で北から西に25.5°振れる。規模は、桁行が5.92m、廂2.22m、梁行5.6mを測る。柱間寸法は、桁行が東から西へ1.76m(5尺8寸)、2.04m(6尺8寸)、2.12m(7尺)、廂が2.22m(7尺4寸)、梁行が北から南へ3m(10尺)、2.6m(8尺6寸)である。従って建物全体の復元規模は、桁行5.94m(19尺6寸)、廂2.22m(7尺4寸)、梁行5.58m(18尺6寸)となる。建物の面積は、廂部分を入れて45.198㎡である。

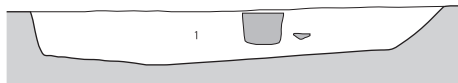
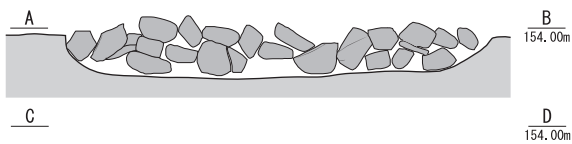
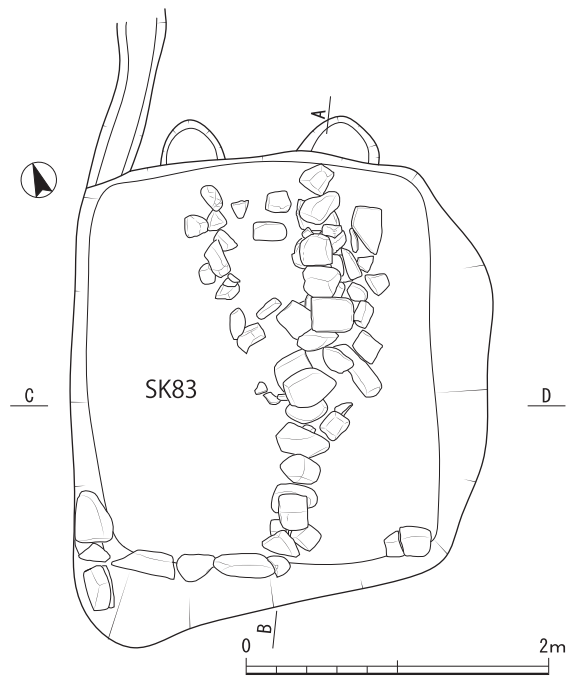
出土遺物には柱穴(発掘調査時は土坑で掘削)から土師器皿(184)・土師器焙烙(185)があり、17世紀中葉前後のものである。

石列SZ112 調査区南端部のE地区P・Q18・19区において検出した石列群である。遺構の平面形は、長楕円形である。遺構の規模は、幅1.35～2.35m、深さ0.03mである。

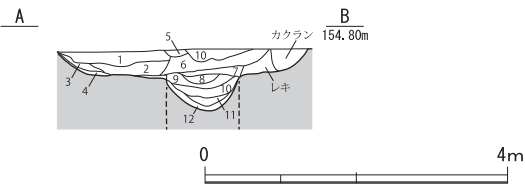
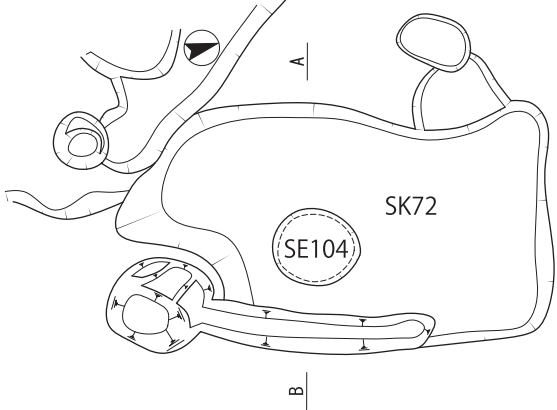
出土遺物に火打金(33)がある。

石列SZ113 調査区やや南端を中心に確認された石列である。ほぼ南北方向に組まれている。田畑の土止めの石垣である。

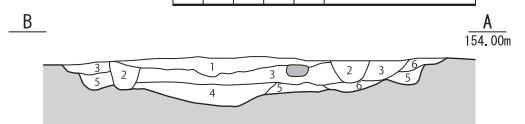
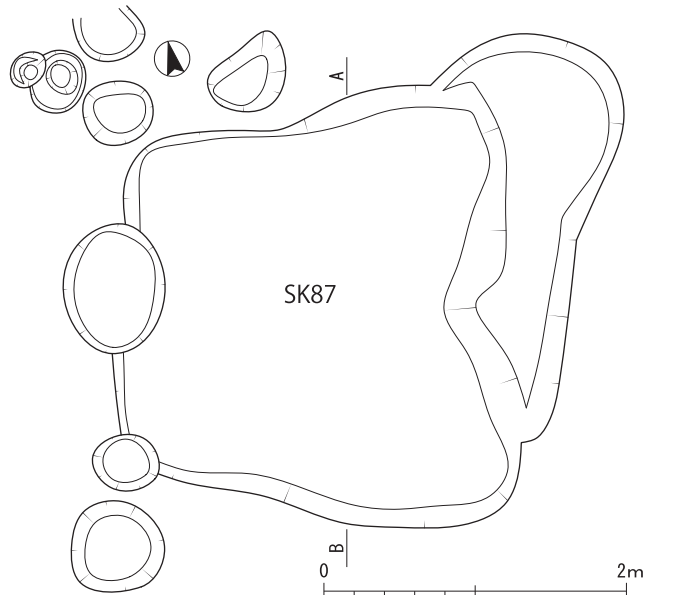
出土遺物には、常滑産の陶器甕(180)・瀬戸産の片口鉢の陶器鉢(181)・美濃の陶器大皿(182)が



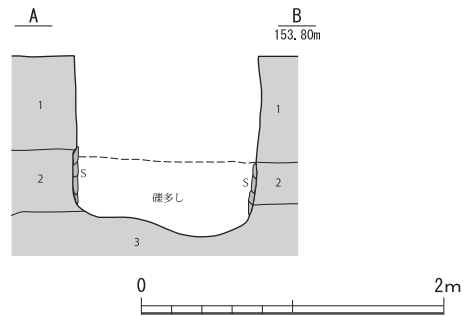
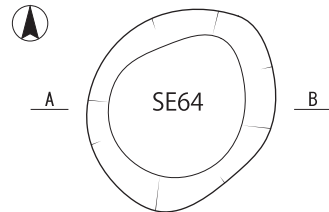
1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 (炭化物含む)



- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 カクラン (礫多く含) | 7 10YR3/3 暗褐色シルト層 |
| 2 カクラン | 8 10YR3/3 暗褐色砂質土層 |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト層 | 9 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層 |
| 4 10YR4/1 褐灰色砂質土層 (小石混) | 10 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト層 |
| 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト層 | 11 10YR2/3 暗褐色シルト層 |
| 6 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト層 | 12 10YR3/3 暗褐色シルト層 (小石混) |



- 1 カクラン
- 2 10YR4/2 灰黄褐色砂質土層
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土層 (小石混)
- 4 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂層
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土層 (小石混)
- 6 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土層 (小石混)



- 1 砂利層
- 2 細砂層
- 3 砂利層

第11図 土坑SK72・83・87・井戸SE64・104実測図 (1/50・1/100)

あり、埋没時期は、17世紀中葉以降と判断している。

土坑SK115 調査区南端のE地区O・P22区において検出した土坑である。平面形は、円形である。規模は、長径0.96m、短径0.95m、深さ0.46mである。内部には常滑の土師質甕が埋設されていた。そこで、トイレ遺構の可能性を想定し甕内部の土を分析したが、残存状態が良好でなく、寄生虫は確認されなかった。分析結果からは判断がつかなかったが、出土状況からはトイレ遺構または肥溜めと考えている。

(4) 時期不明

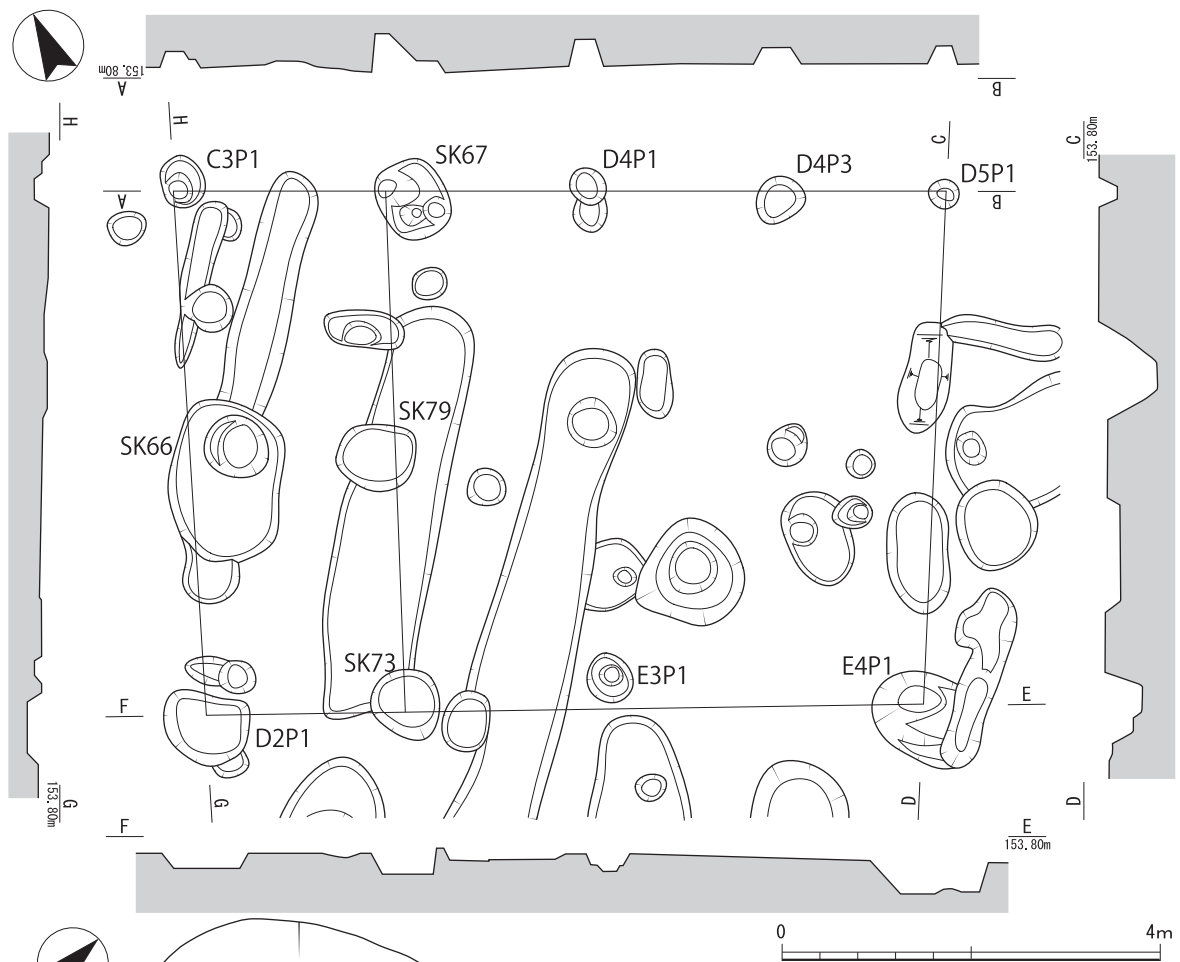
掘立柱建物SB114 第4次調査で確認された掘立柱建物である。調査区西側に伸びるため、全体規模は不明である。調査区南西隅で1間以上×1間以上で南東隅が浅い土坑状の遺構を留める。南東隅に土坑を有する掘立柱建物の可能性がある。鎌倉時代から室町時代の建物の可能性もあろう。(萩原義彦)

【註】

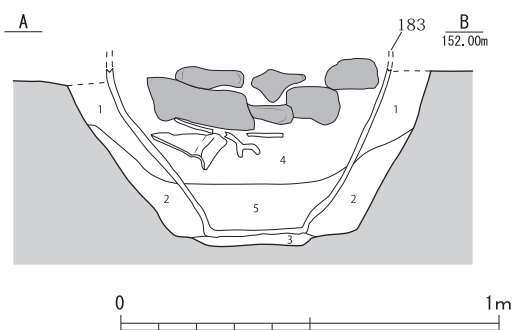
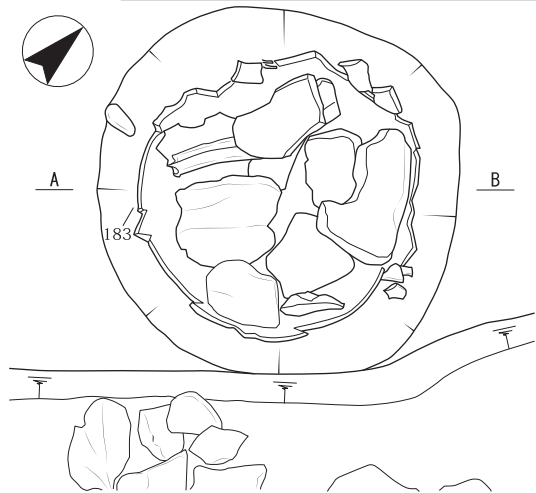
①畝間溝の表記については、旧来耕作溝と呼ばれていた遺構である。

遺構番号	グリッド	ピット番号	建物時期	規模	主軸	方位	備考
SB105	C3	Pit1	江戸時代	桁行5.94m 梁行5.58m 建物面積45.198㎡	東西棟	N25.5° E	
	D2	Pit1					
		SK73					
		SK67					
	D4	Pit1					
		Pit3					
	D5	Pit1					
	E3	Pit1					
		SK66					
		SK79					
	E4	Pit1					

第2表 掘立柱建物一覧表



第12図 掘立柱建物SB105実測図(1/80)



- 1 7.5YR3/1 黒褐色粘質土層
- 2 2.5Y4/1 黄灰色細砂層
- 3 2.5Y4/1 黄灰色粗砂層
- 4 7.5YR2/2 黒褐色土層
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色土層

第13図 土坑SK115実測図(1/20)

遺構略記号	調査次数	報告遺構番号	旧調査番号	性格	大地区名	小地区名	時期	規模	備考
SK	第2次	1	SK1	土坑	E区	D21	近世	長径1.36m・短径0.9m・深さ0.25m	平面形：楕円形
—	第2次	欠番	SK2	—	—	—	—	—	
—	第2次	欠番	SK3	—	—	—	—	—	
SK	第2次	4	SK4	土坑	E区	A22	中世～近世	長径0.95m・短径0.85m・深さ0.25m	平面形：円形
SD	第2次	5	SD5	溝	B区	Q21～W20	中世～近世	幅0.87～1.5m・深さ0.21～0.26m	
SD	第2次	6	SD6	溝	B区	S22～W20	中世～近世	幅0.91～1.67m・深さ0.15～0.23m	
SD	第2次	7	SD7	溝	B区	T22～X20	中世～近世	幅1.54～2.45m・深さ0.33～0.46m	
SD	第2次	8	SD8	溝	E区	A20～B21	中世～近世	幅0.82～1.26m・深さ0.05～0.22m	
SK	第2次	9	SK9	土坑	E区	E23	中世～近世	長径0.7m・短径0.67m・深さ0.24～0.3m	平面形：円形
SK	第2次	10	SK10	土坑	E区	A22・23	中世～近世	長径1.56m・短径1.08m・深さ0.33m	平面形：楕円形
SK	第2次	11	SK11	土坑	E区	B20～C21	中世～近世	長辺3.2m・短辺3m・深さ0.38m	平面形：隅丸方形
—	第2次	欠番	SK12	—	—	—	—	—	
SD	第2次	13	SK13	溝	E区	A23・24	中世～近世	幅1.28m・深さ0.07～0.12m	SD57と同一遺構
SK	第2次	14	SK14	土坑	E区	C～D21・22	中世～近世	長辺5m・短辺2.76m・深さ0.54～0.63m	平面形：隅丸長方形
SD	第2次	15	SD15	溝	E区	E24・F23～24	中世～近世	幅0.79～1.3m・深さ0.28～0.55m	
SK	第2次	16	SK16	土坑	E区	C22	近世	長辺0.97m・短辺0.81m以上・深さ0.03m	平面形：隅丸方形
SK	第2次	17	SK17	土坑	E区	C23・D23・24	中世～近世	—	SK18と同一遺構の可能性もある。
SK	第2次	18	SK18	土坑	E区	D22・23・E23	中世～近世	長辺5.6m・短辺3.4m・深さ0.46m	平面形：隅丸方形
SK	第2次	19	SK19	土坑	E区	F22・23	近世	長径2.93m・短径1.3m以上・深さ0.33m	平面形：不定円形
SK	第2次	20	SK20	土坑	E区	E・F23	中世～近世	長径1.24m・短径1.2m・深さ0.38m	平面形：円形
SK	第2次	21	SK21	土坑	E区	F23	近世	長径1.4m・短径1.23m・深さ0.42m	平面形：不定楕円形
SK	第2次	22	SK22	土坑	E区	C25	中世～近世	長辺0.98m・短辺0.64m・深さ0.19m	平面形：隅丸長方形
SK	第2次	23	SK23	土坑	E区	C・D25	中世～近世	長径1.78m・短径1.23m・深さ0.02m	平面形：楕円形
SK	第2次	24	SK24	土坑	E区	C・D24	中世～近世	長径2.82m・短径2.53m・深さ0.45～0.63m	平面形：不定楕円形
—	第2次	欠番	SK25	—	—	—	—	—	SK11と同一遺構
SD	第3次	31	SD31	溝	E区	K・L19他	近世	幅1.62m以上・深さ0.1～0.15m	
SD	第3次	32	SD32	溝	E区	H19～他	中世～近世	幅1.45m・深さ0.13～0.38m	石列を含む
SK	第3次	33	SZ33	土坑	E区	F・G22・23～	中世～近世	長軸2.9m・短軸2.85m・深さ0.43m	石囲を含む
SK	第3次	34	SK34	土坑	E区	E～G20他	中世～近世	規模不明	平面形：円形・トレンチ掘削の際に消滅
SK	第3次	35	SK35	土坑	E区	G・H21	中世～近世	長径1.8m・短径1.35m以上・深さ0.1～0.18m	平面形：楕円形
SD	第3次	36	SZ36	溝	E区	E～K19～20	中世～近世	幅1.2m以上・深さ0.09m	水田の段差の土止用石垣
SZ	第3次	37	SD37	溝	E区	H・I・J22他	近世	幅4.7m以上・深さ0.9m	水田の段差の土止用石垣
SK	第3次	38	SK38	土坑	E区	F・G～22・23	中世～近世	長辺2.35m・短辺1.6m以上・深さ0.11m	平面形：隅丸方形
SK	第3次	39	SK39	土坑	E区	F21	中世～近世	長径1.55m・短径1.3m以上・深さ0.23m	平面形：楕円形
SK	第3次	40	SK40	土坑	E区	F21	中世～近世	長辺1.1m・短辺0.75m・深さ0.1m	平面形：不定長方形
SK	第3次	41	SK41	土坑	B～C区	S25～S1	中世～近世	長軸2.3m・短軸1.7m以上・深さ0.35m	平面形：隅丸方形
SD	第3次	42	SD42	溝	C区	T1～3	中世～近世	幅0.56～0.82m・深さ0.19～0.33m	
SK	第3次	43	SK43	土坑	B区	R・S23・24	中世～近世	長辺6.2m以上・短辺3.5m以上・深さ0.06～0.32m	平面形：不定形
SD	第3次	44	SD44	溝	B区	S22・23	中世～近世	幅0.85～1.05m・深さ0.44～0.52m	
SD	第3次	45	SD45	溝	C区	U～V4	中世～近世	幅1.18～1.36m・深さ0.1～0.29m	
SK	第3次	46	SK46	土坑	B区	T24	中世～近世	長径2.2m・短径1.4m・深さ0.17～0.32m	平面形：楕円形
SD	第3次	47	SD47	溝	B～C区	S23～T2	中世～近世	幅1.9m・深さ0.04～0.28m	
SD	第3次	48	SD48	溝	C区	U3	中世～近世	幅0.56～0.96m・深さ0.21～0.5m	
—	第3次	欠番	SD49	—	—	—	—	—	SD7と同一遺構
SD	第3次	50	SD50	溝	B～C区	T23	中世～近世	幅0.53～1.83m・深さ0.2～0.5m	
SK	第3次	51	SK51	土坑	C区	W2	近世	長辺0.83m・短辺0.95m・深さ0.3m	平面形：隅丸三角形・階段状のビット
SD	第3次	52	SD52	溝	B～C区	V25～2	中世～近世	幅0.48～0.81m・深さ0.07～0.16m	
SX	第3次	53	SK53	土坑墓	B区	W23・24	中世～近世	長辺2.65m・短辺0.98m・深さ0.25m	平面形：隅丸長方形
SK	第3次	54	SK54	土坑	B区	W24	中世～近世	長径1.4m・短径0.9m・深さ0.27m	平面形：不定楕円形
SD	第3次	55	SD55	溝	B～C区	V23～1	中世～近世	幅0.86m・深さ0.16～0.18m	
SK	第3次	56	SK56	土坑	C区	X2	近世	長径2.2m・短径2.12m・深さ0.14～0.16m	平面形：不定円形
—	第3次	欠番	SD57	—	—	—	—	—	SD13と同一遺構
SK	第3次	58	SK58	土坑	B・E区	Y24～A25	中世～近世	長辺1.99m・短辺0.7m・深さ0.04～0.17m	平面形：長方形
SK	第3次	59	SK59	土坑	B～C区	Y25～1	古代	長径1.9m・短径1.6m・深さ0.01～0.02m	平面形：不定円形
SK	第3次	60	SK60	土坑	F区	B1	中世～近世	長径1.25m・短径0.85m以上・深さ0.12m	平面形：楕円形？
SK	第3次	61	SK61	土坑	F区	C2	中世～近世	長径2m・短径0.5m・深さ0.03～0.1m	平面形：長楕円形
SK	第3次	62	SK62	土坑	F区	E3・4	近世	長径1.05m・短径1.06m・深さ0.33m	平面形：ほぼ円形
SK	第3次	63	SK63	土坑	F区	C2	中世～近世	長辺4.58m・短辺1.68m・深さ0.02～0.03m	平面形：不定長方形
SE	第3次	64	SK64	井戸	F区	C5	中世～近世	長径1.34m・短径1.16m・深さ1.17m	平面形：円形
SK	第3次	65	SK65	土坑	F区	C3	中世～近世	長径1.53m・短径1.06m・深さ0.3m	平面形：不定円形

第3表 遺構一覧表(1)

遺構略記号	調査回数	報告遺構番号	旧調査番号	性格	大地区名	小地区名	時期	規模	備考
SK	第3次	66	SK66	土坑	F区	D2・3	近世	長径1.68m・短径1.18m・深さ0.37m	SB105の柱穴・土坑内にビット・平面形：楕円形
SK	第3次	67	SK67	土坑	F区	C3	近世	長径0.86m・短径0.72m・深さ0.41m	SB105の柱穴・平面形：円形
SK	第3次	68	SK68	土坑	F区	F4・5	中世～近世	長径1.56m・短径1.46m・深さ0.24m	平面形：楕円形
SK	第3次	69	SK69	土坑	F区	D2	中世～近世	長径0.62m・短径0.56m・深さ0.11m	平面形：隅丸方形
SD	第3次	70	SD70	溝	E～F区	B25～C1	中世～近世	幅1.4m・深さ0.19～0.33m	
SK	第3次	71	SK71	土坑	E区	C25	中世～近世	長径1.4m・短径1.1m・深さ0.26m	平面形：楕円形
SK	第3次	72	SK72	土坑	F区	B1～C1	中世～近世	長径5.7m・短径2.87m・深さ0.19～0.23m	平面形：長方形
SK	第3次	73	SK73	土坑	F区	E3	不明	長径0.72m・短径0.72m・深さ0.22m	SB105の柱穴・平面形：円形
SK	第3次	74	SK74	土坑	F区	E5	中世～近世	長径1.94m・短径1.28m・深さ0.14m	平面形：隅丸長方形
SK	第3次	75	SK75	土坑	F区	F4	中世～近世	長径1.86m・短径0.98m・深さ0.25m	平面形：円形・階段状の掘形
SK	第3次	76	SK76	土坑	F区	B5	中世～近世	長径1.18m・短径0.8m以上・深さ0.15m	平面形：円形？
SK	第3次	77	SK77	土坑	B区	Y25	近世	長径0.9m・短径0.62m・深さ0.13m	平面形：隅丸三角形
SK	第3次	78	SK78	土坑	E区	C25	中世～近世	規模不明・深さ0.11m	平面形：不明
SK	第3次	79	SK79	土坑	F区	D3	不明	長径0.82m・短径0.72m・深さ0.08m	平面形：隅丸長方形
SD	第3次	80	SD80	溝	F区	G4	中世～近世	幅1.62m以上・深さ0.16m	
SD	第3次	81	SD81	溝	F区	D・E3	中世～近世	幅0.8～1.48m・深さ0.07～0.1m	
SK	第3次	82	SK82	土坑	F区	B6	中世～近世	長径0.98m・短径0.84m・深さ0.25m	平面形：楕円形
SK	第3次	83	SK83	土坑	C～F区	Y6～A6	中世～近世	長径3m・短径2.78m・深さ0.41m	平面形：方形
SK	第3次	84	SK84	土坑	F区	A8	中世～近世	長径2.12m・短径2.1m・深さ0.23m	平面形：不定円形
SK	第3次	85	SK85	土坑	C区	Y5	中世～近世	長径0.86m・短径0.68m・深さ0.17m	平面形：楕円形
SK	第3次	86	SK86	土坑	C区	Y5	中世～近世	長径2.67m・短径1.2m以上・深さ0.2m	平面形：長楕円形？
SK	第3次	87	SK87	土坑	C区	Y5	中世～近世	長径2.8m・短径2.64m・深さ0.32m	平面形：方形
SK	第3次	88	SK88	土坑	F区	A4	中世～近世	長径2.4m・短径1.27m・深さ0.36m	平面形：方形？
SK	第3次	89	SK89	土坑	F区	A8	中世～近世	長径1.08m・短径1m・深さ0.18m	平面形：楕円形
SD	第3次	90	SD90	溝	F区	D1・2	中世～近世	幅0.58～0.78m・深さ0.17～0.27m	区画溝の可能性もある。
SZ	第3次	91	SZ91	石列	C区	T5他	中世～近世	幅0.46～0.6m・深さ0.05～0.68m	
SK	第3次	92	SK92	土坑	C区	V5	中世～近世	長径1.26m・短径0.96m・深さ0.37m	平面形：隅丸長方形
SD	第3次	93	SD93	溝	C区	W4	近世	幅2～2.8m・深さ0.01～0.06m	
SK	第3次	94	SK94	土坑	C区	W5	中世～近世	長径2.2m・短径1.64m・深さ0.09～0.24m	平面形：不定長方形
SK	第3次	95	SK95	土坑	C区	V7	中世～近世	長径1.7m・短径1.64m・深さ0.09～0.12m	平面形：隅丸方形
SD	第3次	96	SD96	溝	C区	U6～	近世	幅0.7～2.86m・深さ0.19～0.41m	
SK	第3次	97	SK97	土坑	C区	V8	中世～近世	長径1.49m・短径0.88m・深さ0.33m	平面形：楕円形
SK	第3次	98	SK98	土坑	C区	T3	不明	長径3.12m・短径2.18m以上・深さ0.53m	平面形：不定方形
SK	第3次	99	SK99	土坑	C区	V3	中世～近世	長径2.66m・短径1.22m・深さ0.17～0.44m	平面形：楕円形？
SK	第3次	100	SK100	土坑	C区	U5	不明	長径0.92m・短径0.81m・深さ0.38m	平面形：隅丸長方形
SK	第3次	101	SK101	土坑	C区	U5	不明	長径1.34m・短径1.11m・深さ0.42m	平面形：隅丸長方形
SZ	第3次	102		石列	F区	A3他	中世～近世	幅0.38～0.58m・深さ0.16～0.28m	
SZ	第3次	103		石列	F区	A4他	中世～近世	幅0.5～0.56m・深さ0.16～0.49m	
SE	第3次	104	SE104	井戸	F区	B1	近世	径0.98m・深さ0.8m以上	井戸
SB	第3次	105	SB105	掘立柱建物	F区	C2他	中世～近世	3間×2間・廂出1間	側柱建物
SR	第4次	111	NR111	自然流路	E区	O21・22～	中世～近世	幅2.16～2.84m・深さ0.24m	
SZ	第4次	112	SZ112	石列	E区	P・Q18・19	近世？	幅1.35～2.35m・深さ0.03m	
SZ	第4次	113	SZ113	石列	E区	O22・23～	近世	幅0.48～0.58m・深さ0.08～0.15m	水田の段差の土止用石垣
SB	第4次	114	SB114	掘立柱建物	E区	Q・R18	中世？	1間以上×1間以上	東南隅に土坑を有する掘立柱建物？
SK	第4次	115	SK115	土坑	E区	O・P22	近世	長径0.96m・短径0.95m・深さ0.46m	

第4表 遺構一覧表(2)

IV 調査成果（遺物）

縄文時代の石鏃から弥生時代前期・中期の土器、鎌倉時代から江戸時代の陶器・磁器・金属製品が出土している。遺物の総量はコンテナバット53箱で、重量が112.6kgである。以下に各遺構の出土遺物について概略する。遺物の詳細なデータについては、遺物観察表（第5表～第12表）を参照されたい。

なお、灰釉陶器の編年は齋藤孝正氏^①、東海系無釉陶器椀（山茶椀）の編年は藤澤良祐氏^②、尾張産焙烙の編年は金子健一氏^③、中北勢系土師器群の編年は伊藤裕偉氏^④、瀬戸・美濃産陶器の編年は藤澤良祐氏^⑤、常滑産陶器の編年は中野晴久氏^⑥のものを用いた。

1 縄文時代～弥生時代

1は、表土から出土した石鏃である。全体形が正三角形状で脚端部がやや丸みを帯びているものである。脚端部は欠損している。

2は、弥生時代前期の甕の口縁部である。3は弥生時代中期の壺の底部である。

2 平安時代以降

中世墓S X 53（4～11） 4～10は土師器皿、11は瀬戸の天目茶椀である。9の土師器皿には焼成後穿孔がある。供献用に仮器化したものであろう。11は古瀬戸後Ⅳ期のもので15世紀後半である。

土坑S K 11（12） 12は天目茶椀で瀬戸のもので、時期は登窯第4小期の17世紀中葉のものである。

土坑S K 14（13～26） 13は四耳壺で古瀬戸後期Ⅰ・Ⅱ期のもので14世紀後半から15世紀初頭のものである。14・15は灰釉陶器皿である。15は黒笹90窯式のもので10世紀前半、14は猿投のもので折戸53号窯式の10世紀後半とみられる。16・17は土師器皿である。18～21は中北勢系土師器羽釜である。それぞれ口縁端部は丸くまとまるものや上方に伸びるものである。伊藤編年Ⅱb段階の16世紀中葉前後のものである。22・23は茶釜の耳である。煤が耳の下部まで付いている。24・25は常滑の片口鉢でⅡ類、第8型式の14世紀後半のものである。26は、常滑の甕で

第11型式の16世紀後半のものである。

土坑S K 17（27） 27は天目茶椀である。瀬戸美濃で大窯4期後半の17世紀初頭のものである。

土坑S K 18（28～30） 28は灰釉陶器椀の底部である。黒笹90号窯式のもので10世紀前半である。29は常滑の片口鉢Ⅱ類で、第7型式の14世紀前半のもの。30は磁器皿で景德鎮のもので大窯の併行期である。

土坑S K 33（31・32） 31は陶器皿の山皿である。尾張型第6型式のもので13世紀前半のものである。32はタタキ石、先端部分が丸く擦れている。

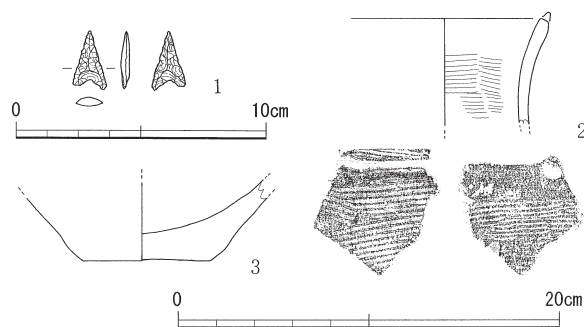
石列S Z 112（33） 33は火打金の翼部の一部である。錆化著しい。

土坑S K 46（34～36） 34～36は中北勢系土師器羽釜である。口縁部が上方に尖り気味にまとめられる。伊藤編年の第Ⅱb段階であろうか。16世紀中葉前後であろう。

井戸S E 104（37～39） 37は陶器小椀、38は陶器皿、39は、陶器片口鉢である。37・38は美濃、39は瀬戸で、37は登窯第5・6小期の18世紀前後のもの、38は菊皿で登窯第3・4小期の17世紀第3四半期のもの、39は、登窯第1～4小期の17世紀中葉である。

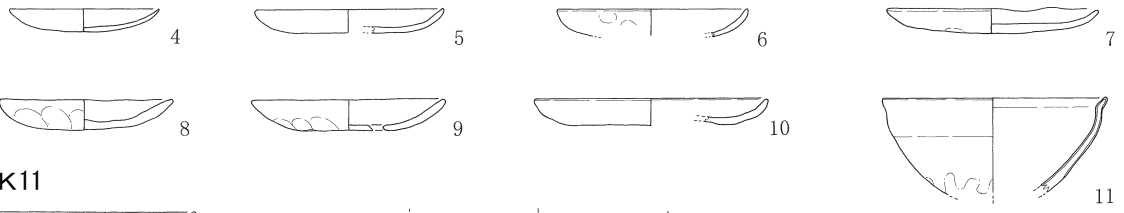
区画溝S D 5（40・41） 40は瀬戸の陶器丸椀である。口縁部はなく底部から体部にかけての部分が残る。登窯第5・6小期の18世紀前後のもの。41は常滑の片口鉢で、Ⅱ類の第8型式の14世紀後半のものである。

区画溝S D 6（42） 42は瀬戸の陶器播鉢で、大窯第1段階の16世紀前後のものである。

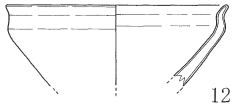


第14図 出土遺物実測図（1）

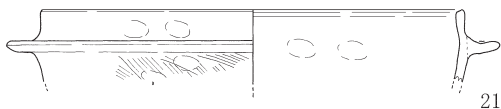
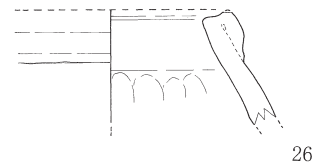
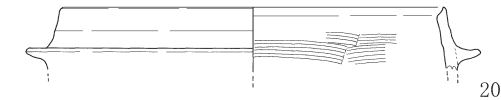
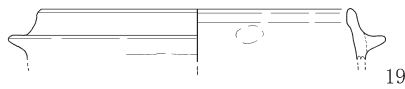
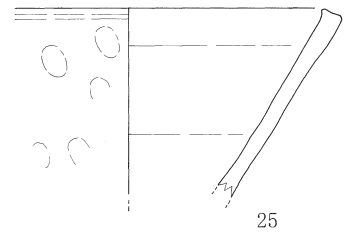
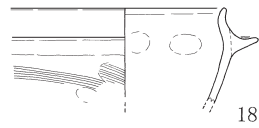
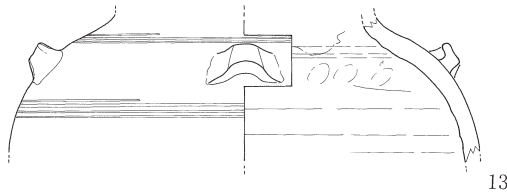
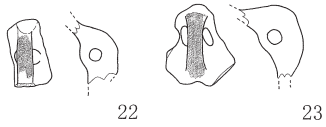
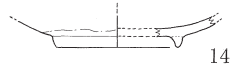
中世墓S X53



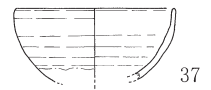
土坑SK11



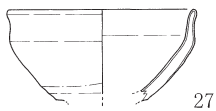
土坑SK14



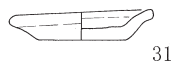
井戸SE104



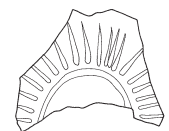
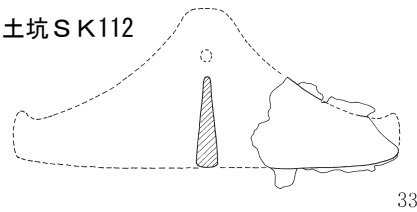
土坑SK17



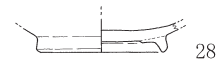
土坑SK33



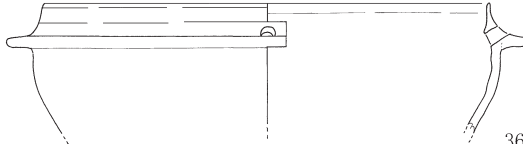
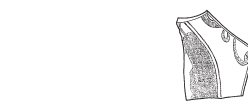
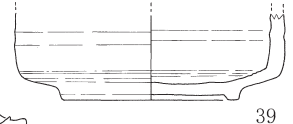
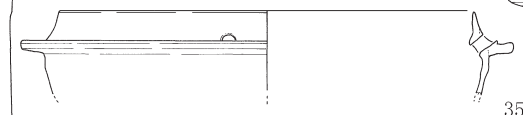
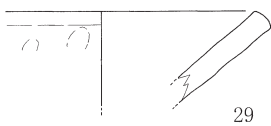
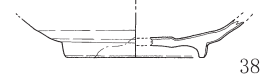
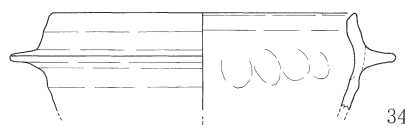
土坑SK112



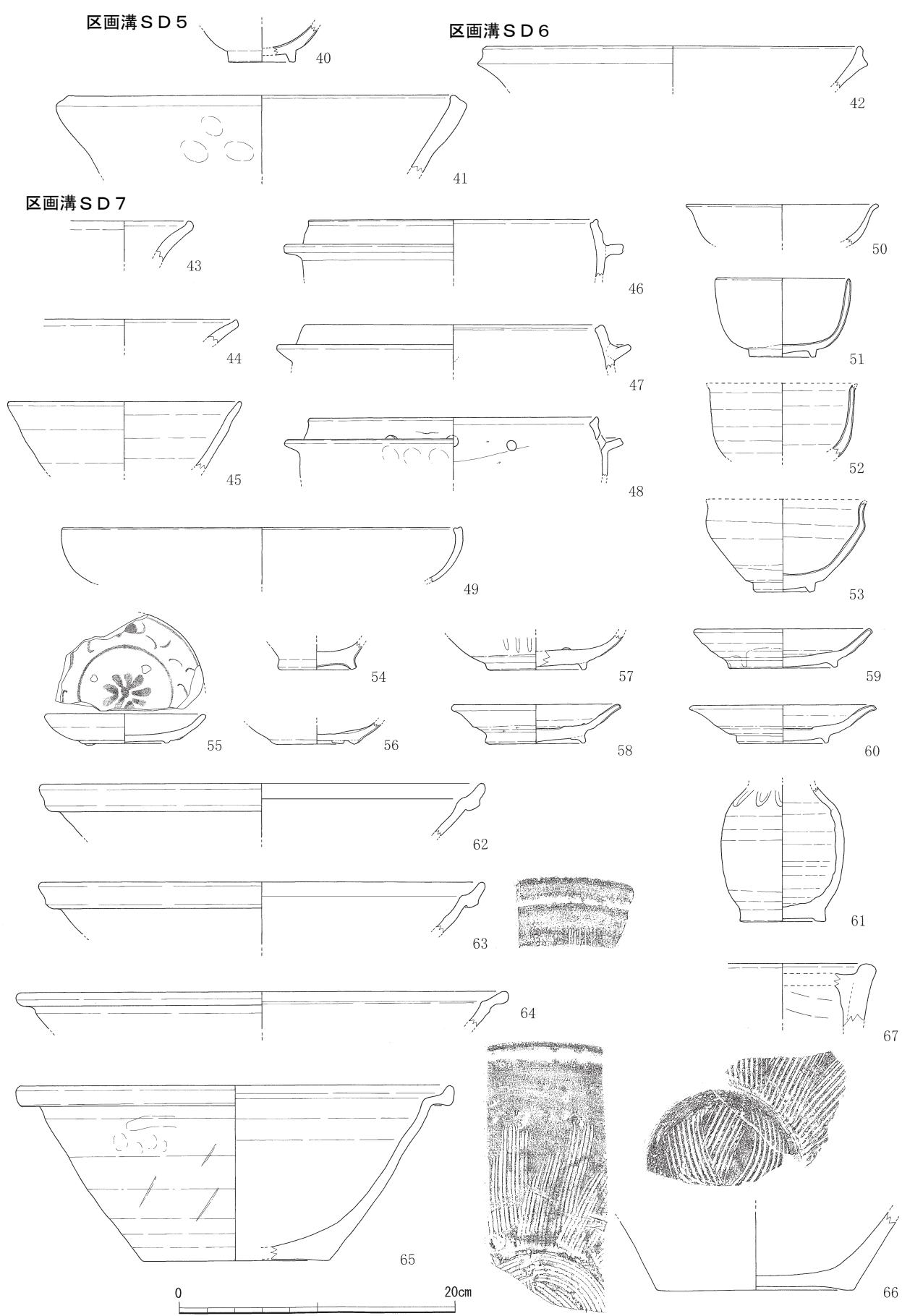
土坑SK18



土坑SK46

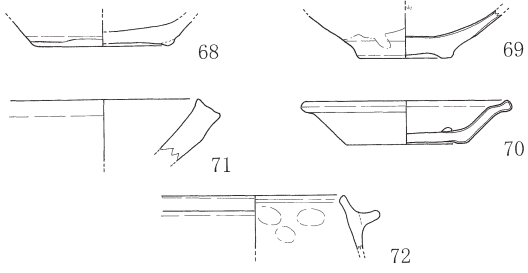


第15図 出土遺物実測図(2)

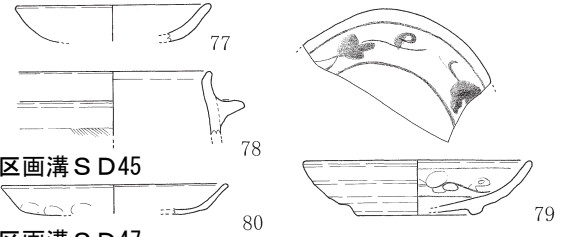


第16図 出土遺物実測図(3)

区画溝SD15

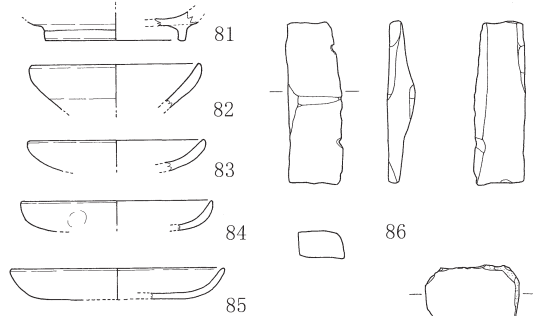


区画溝SD44



区画溝SD45

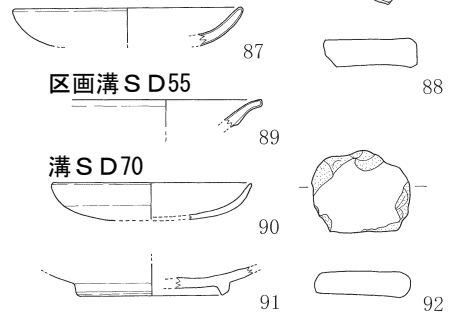
区画溝SD47



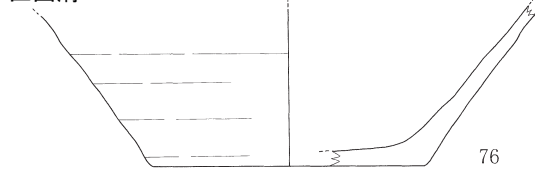
区画溝SD50

区画溝SD55

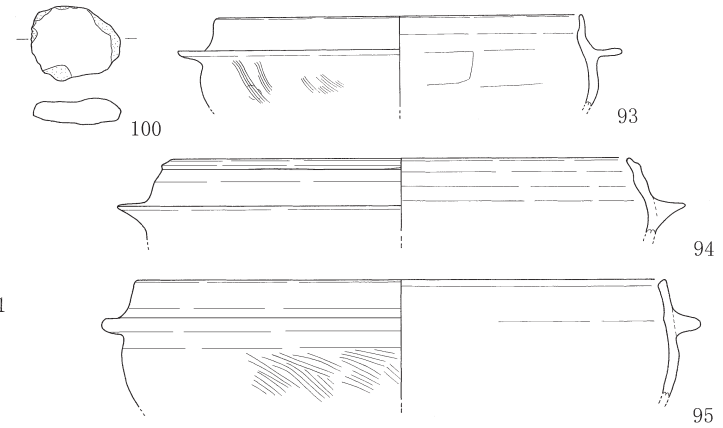
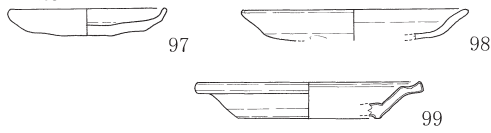
溝SD70



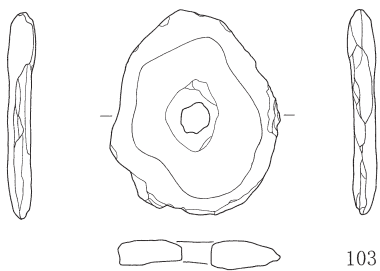
区画溝SD49



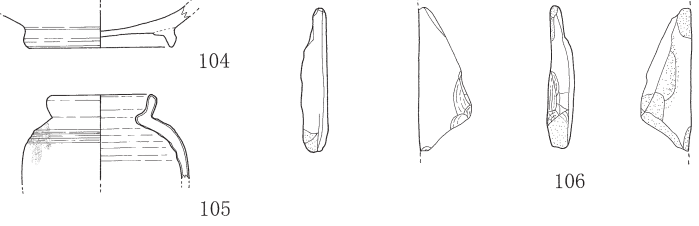
区画溝SD13



区画溝SD93



区画溝SD96



第17图 出土遺物実測図(4)

区画溝SD7 (43~67) 43・44は土師器甕の口縁端部片、飛鳥~奈良時代のもの。45は陶器碗の山茶碗で尾張型第6型式の13世紀前半のもの。46~48は中北勢系土師器羽釜で伊藤編年の第II a段階の16世紀前葉のもの。49は、土師器焙烙で尾張のもので口縁端部が平坦な面をもつもので金子編年A2類の16世紀末とみられる。50は、白磁碗である。貿易陶磁器で景德鎮の生産品である。時期は、明代の16世紀後半のもの。51は陶器丸碗で瀬戸の登窯第7小期の18世紀中葉のもの。52・53は天目茶碗、52は登窯第3~4小期の17世紀中葉~後葉にかけてのもの。53の天目茶碗は瀬戸の登窯第4小期の17世紀中葉のものである。54は美濃の陶器徳利で登窯第6・7小期の18世紀中葉前後のもの。55~60は陶器皿、55は瀬戸の鉄絵皿で登窯第1小期の17世紀初頭のもの。56は内禿皿、57は、美濃の菊皿登窯第4~5小期の17世紀後葉のものである。58~60は輪禿皿、58は登窯第1小期、他は登窯第5小期でそれぞれ17世紀初頭、17世紀末のものである。61は陶器花瓶で瀬戸の登窯第3・4小期の17世紀後半のもの。62・63は陶器挿鉢、瀬戸の登窯第6小期の18世紀前葉のものである。64も美濃の陶器鉄絵皿で登窯第6小期の18世紀前葉のもの。65・66は、瀬戸の陶器挿鉢で登窯第3小期の17世紀中葉のもの。67は陶器甕、常滑のものである。

区画溝SD15 (68~75) 68は陶器碗で山茶碗である。尾張型第6型式で13世紀前半である。69は、陶器碗で唐津の17世紀初頭のものである。70は陶器皿で折縁皿、瀬戸美濃の大窯第4型式の16世紀第4四半期のもの。71・75は常滑の片口鉢で71はII類、第8型式の14世紀後葉のものである。75はII類の第6b型式の13世紀第3四半期のもの。72・73は中北勢系土師器羽釜で72は口縁部が四角くまとまり、73は口縁端部が外方に引き出されているもの。伊藤編年の第II a~b段階の16世紀前葉のものであろう。74は常滑の甕で、第11型式の16世紀前半のものである。

区画溝SD49 (76) 76は陶器挿鉢。瀬戸で登窯第5~7小期の18世紀代のものである。

区画溝SD44 (77~79) 77は土師器皿。全体的に厚みのあるもの。78は中北勢系土師器羽釜、伊藤

編年II b段階の16世紀中葉のもの、79は陶器皿、瀬戸の鉄絵皿で登窯第1小期の17世紀前半のもの。

区画溝SD45 (80) 80は土師器皿である。

区画溝SD47 (81~86) 81は灰釉陶器碗の底部で黒笹90号窯式の10世紀前半のもの。82~85は土師器皿、86は砥石、砥面は4面である。

区画溝SD50 (87・88) 87は陶器丸皿。瀬戸大窯第3小期で16世紀第3四半期のもの。88は加工円盤、常滑の陶器甕を加工している。

区画溝SD55 (89) 89は陶器皿、瀬戸の輪禿皿で登窯第5小期の17世紀末のものである。

溝SD70 (90~96) 90は土師器皿。91は灰釉陶器皿で折戸53号窯式の10世紀後半のもの。92は加工円盤、陶器片口鉢からの転用品。93~95は中北勢系土師器羽釜、口縁部が上方に摘みあげられるものが多い。96は常滑の陶器甕、中野編年の第12型式で16世紀後半のものである。

区画溝SD13 (97~102) 97・98は、土師器皿、99は陶器皿の折縁皿で、大窯第4型式前半の16世紀後半のもの。100は陶器甕を転用した加工円盤。101・102は瀬戸の陶器甕、101は登窯第8小期の18世紀末、102は登窯第8~9小期の18世紀末~19世紀初頭のものである。

区画溝SD93 (103) 103は石製品の薬研である。薬研の出土例はなく、県内で今回が初例である。

区画溝SD96 (104~106) 104は灰釉陶器碗、東濃型で黒笹90号窯式の10世紀前半のもの。105は美濃の陶器汁注、登窯第5~6小期の18世紀前後のもの。106は石硯、割れてしまっており、大きさは不明。海・陸部分についても不明である。

土坑SK43 (107) 107は常滑の片口鉢、II類の第6b型式で13世紀第4四半期のものである。

土坑SK23 (108~110) 108は陶器碗で、109は常滑の片口鉢である。108は山茶碗で尾張型第3型式の12世紀前後のものである。109はII類の第7型式の14世紀前半のものである。110は鉄製品の鍵である。紐通し穴は円形、鍵部の「H」の部分は「エ」の字に近い。平城京出土例に似かよる^⑧。

土坑SK9 (111・112) 111は常滑の片口鉢でII類、第8型式の14世紀後半のものである。112は常滑の片口鉢の加工円盤である。5.3×5.1cmの中型

品である。

土坑SK22 (113~115) 113は中北勢系土師器羽釜、口縁部は摘みあげられている。伊藤編年第Ⅱb段階であろう。114は常滑の片口鉢を転用した加工円盤で長径6.75cmのもので大型品である。115は常滑の甕で、中野編年の第9型式の15世紀後半のものである。

土坑SK19 (116・117) 116は播鉢で瀬戸のもの。登窯7小期の18世紀中葉のもの。117は常滑の土師質甕である。底部のみが残る。土坑SK115の土師質甕と同様の18世紀中葉のものである。

土坑SK10 (118) 118は陶器丸椀で美濃の登窯第7小期の18世紀中葉のものである。

土坑SK16 (119) 119は仏餉具、美濃の登窯第7小期の18世紀中葉のものである。

土坑SK56 (120) 120は陶器椀、瀬戸の端反椀で登窯第5小期の17世紀後半のものである。

土坑SK24 (121~123) 121は中北勢系土師器羽釜で、口縁端部が上方に摘みあげられているもので16世紀後半のもの。122は陶器椀で瀬戸の糸目椀、登窯8・9小期の17世紀末~18世紀初頭のものである。123は常滑の甕体部の加工円盤である。3.6cm×4.33cm×1.55cmの小型品である。

土坑SK35 (124) 124は陶器筒形香炉、登窯第6・7小期の18世紀中葉前後のものである。

土坑SK84 (125) 125は陶器皿、瀬戸の志野皿で登窯第2小期の17世紀中葉のものである。

土坑SK98 (126) 126は陶器皿、端反丸皿で大窯1~2型式の16世紀前半のものである。

土坑SK88 (127・128) 127は天目茶椀で、瀬戸の登窯第4小期の17世紀第3四半期のものである。128は茶臼である。

土坑SK75 (129・130) 129・130は、共に砥石である。それぞれ1面砥面をもつ。

土坑SK61 (131) 131は土師器皿、全体的に厚みをもっている。

土坑SK73 (132) 132は陶器水滴である。美濃のもので17世紀代のものである。

土坑SK78 (133~136) 133は陶器、134~136は中北勢系土師器羽釜、口縁部は上方に伸びるもの、丸くまとまるものである。

土坑SK83 (137) 137は石臼である。播面は8分割している。

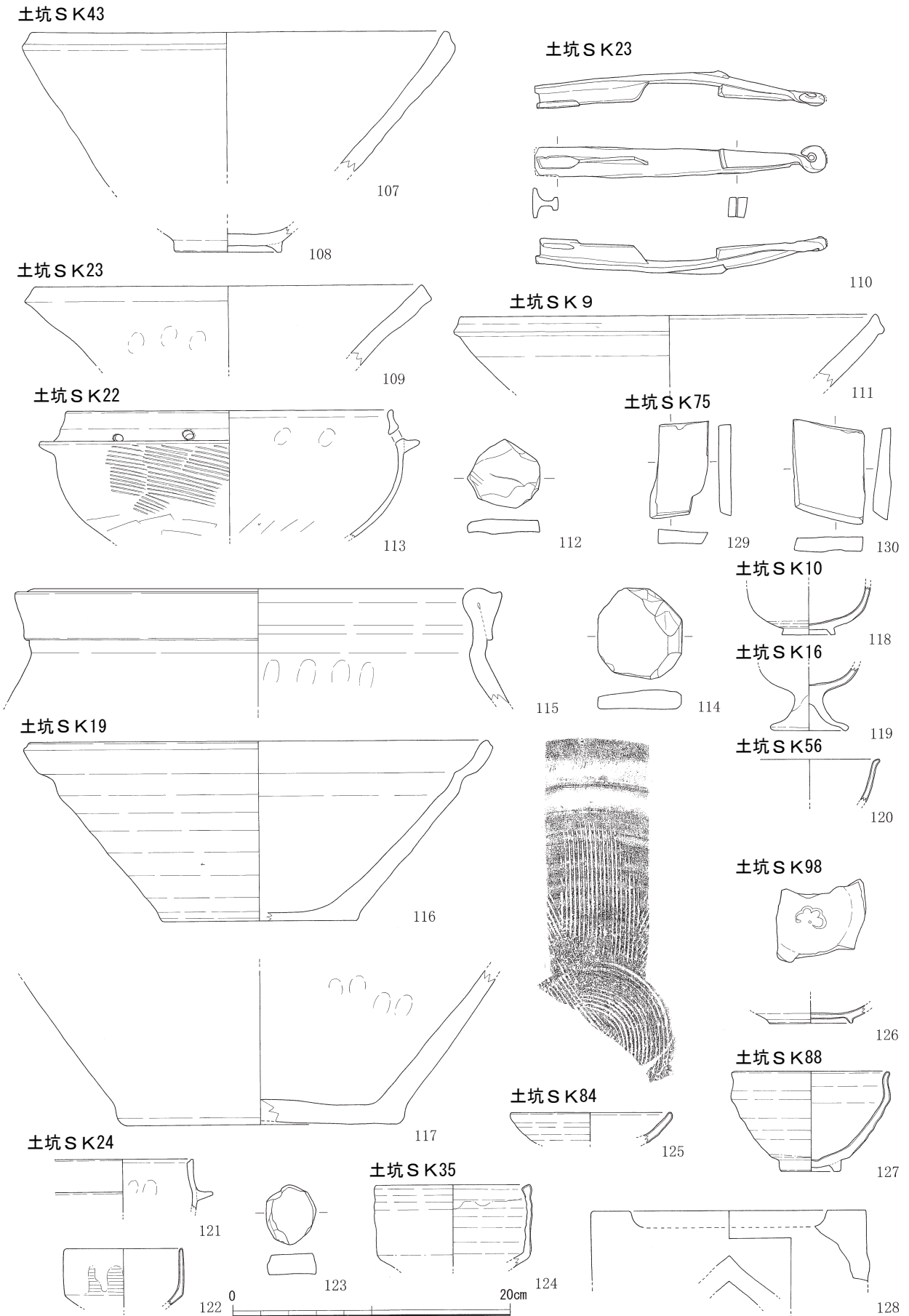
溝SD31 (138) 138は陶器椀で瀬戸の丸椀、登窯第8小期の18世紀第3四半期である。

溝SD32 (139~143) 139は南伊勢系土師器茶釜で16世紀前半のもの、140は尾張型の焙烙で金子編年A4類の17世紀後半のもの、141・142は陶器椀で共に瀬戸の湯呑で登窯第8小期の18世紀後半のもの、143は陶器皿で瀬戸の輪禿皿、登窯第5小期の17世紀第4四半期のものである。

石列SZ37 (144・145) 144・145は土師器皿、145は、全体的に厚みがあるだけでなく、硬質の焼成である。

溝SD36 (146~179) 146・147は土師器皿、146は口縁部に煤が付く。148は土師器焙烙、149は、内耳の痕跡を留めるが尾張産でない器形を示している。150・151は天目茶椀でそれぞれ150が登窯第5小期、151が登窯第2小期で17世紀第4四半期と17世紀第2四半期のもの。152は陶器皿で端反皿、美濃で登窯第4~5小期の17世紀後半のもの。153~163は陶器椀で153・154は瀬戸の腰鍔椀で登窯第7小期の18世紀中葉のもの、155・156は美濃の糸目椀で登窯第8・9小期の19世紀前後するもの、157・163は、丸椀で全て登窯第8小期の18世紀後半のもの、158~162は湯呑椀で登窯第8小期の18世紀後半のものである。162は美濃で他は瀬戸である。164・165・167は陶器片口鉢で164・167は美濃で登窯第6小期、165は瀬戸の登窯第8・9小期の19世紀を前後するものである。166は常滑の鉢とみられる。168は陶器灯明具で美濃の登窯第6小期の18世紀初頭のものである。169は仏餉具の脚部で登窯第9小期の19世紀前半のもの。170~172は、陶器甕で常滑のものである。173~176は陶器播鉢、173~175は登窯第8小期、176は登窯第6小期で、それぞれ18世紀後半、18世紀初頭である。177・178は、陶器鉢で瀬戸の鉄絵鉢、177の緑釉の斑点は、釉を振りかけたものであろう。笠原鉢で登窯第1~2小期の17世紀前半のものである。179は五輪塔で火輪である。

石列SZ113 (180~182) 180は常滑の陶器甕、181は、陶器片口鉢で瀬戸の登窯第5~7小期の18世紀前半のもの。182は陶器大皿で美濃の登窯2~



第18图 出土遺物実測図(5)

4 小期の17世紀中葉前後のものである。

土坑S K115 (183) 183は常滑の土師質甕である。18世紀前半のものである[®]。

掘立柱建物S B105 (184・185) 184は土師器皿、185は土師器焙烙である。17世紀前葉から中葉にかけてのものである。

X 5 Pit 1 (186) 186は土師器皿である。口縁端部はやや尖り気味である。

U23Pit 2 (187) 187は土師器皿である。全体的に厚みがある。

D 4 Pit 2 (188) 188は土師器皿である。

B20Pit 1 (189) 189は陶器小壺で、瀬戸の大窯3期の16世紀中葉～後葉にかけてのものである。

G22Pit 1 (190) 190は陶器香炉、美濃の筒形香炉で登窯第7小期の18世紀中葉のものである。

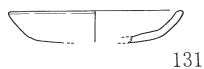
X25Pit 1 (191・192) 191・192は片口鉢で常滑のもの。Ⅱ類で第11型式の16世紀前半である。

K24Pit 1 (193) 193は陶器甕の口縁部である。常滑の17世紀後半のものとみられる。

N19Pit 1 (194) 194は土師質甕の口縁部、土坑S K115出土と同様のものである。

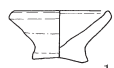
包含層 (195～262) 195は土錘、196は土師器甕、飛鳥～奈良時代のもの。197は灰釉陶器椀の底部で、東山72号窯式併行の11世紀前半のもの。198はロクロ土師器椀の底部である。全体的に磨滅している。199～201は、青磁椀である。199・200は雷文が口縁部を巡る。15世紀中葉を前後するもの[®]。202・203は、山茶椀で、202が尾張型第4型式の12世紀中葉のもの。203が尾張型第6型式の13世紀前半のもの。204～207は、土師器皿、204は小型で厚ぼったいもの。208～217は中北勢系土師器羽釜である。口縁端部はバリエーションに富む。16世紀後葉を前後するとみられる。218は、中北勢系土師器茶釜。耳が欠けている可能性が高い。219・220は、219は瓦質焙烙、220は土師器焙烙である。221は陶器皿で唐津産の17世紀代のものであろう。222は摺絵皿で菊水の絵柄で美濃の登窯第6小期の18世紀第2四半期のもの。223は、瀬戸の志野丸皿で登窯第3小期の17世紀第

土坑S K61



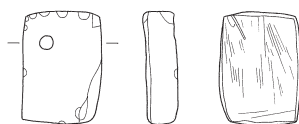
131

土坑S K78



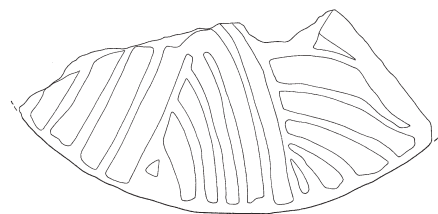
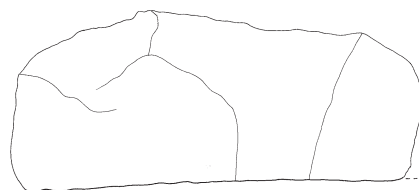
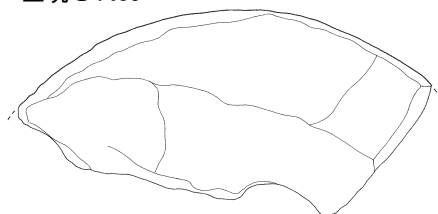
133

土坑S K73



132

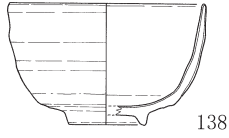
土坑S K83



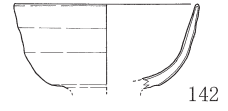
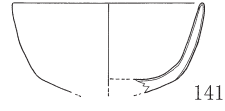
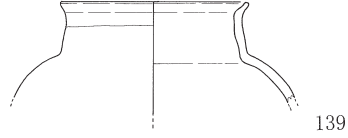
137

第19図 出土遺物実測図(6)

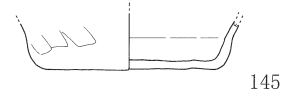
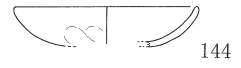
溝SD31



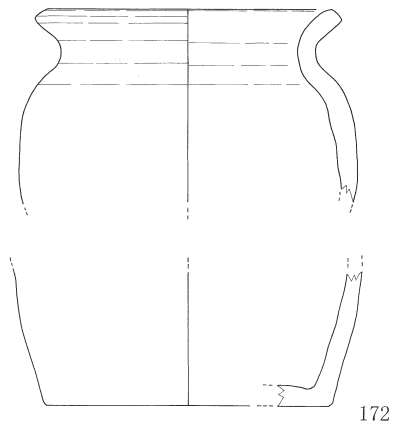
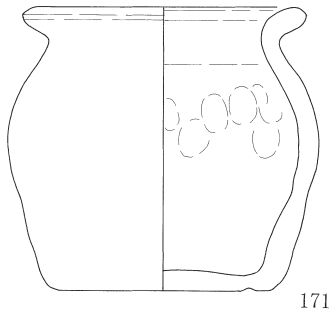
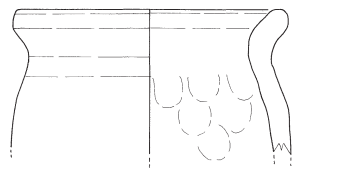
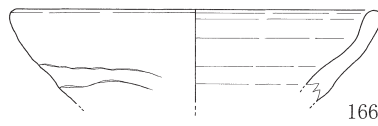
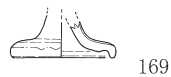
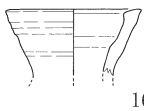
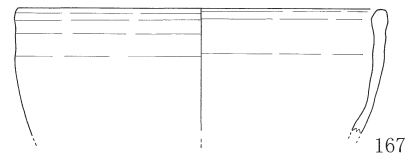
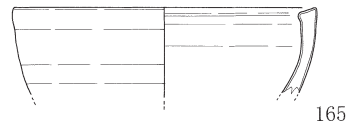
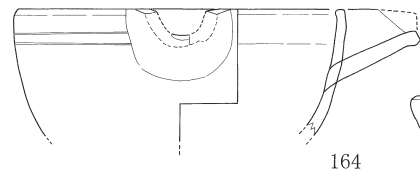
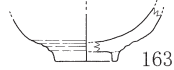
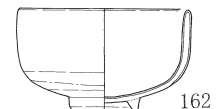
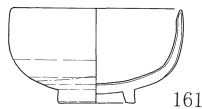
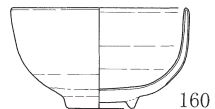
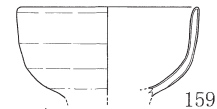
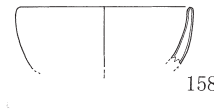
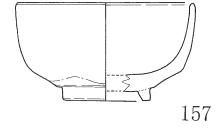
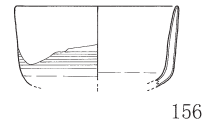
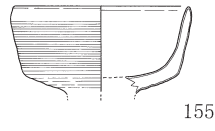
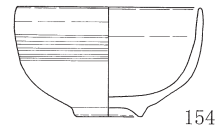
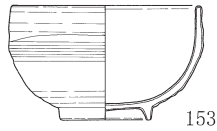
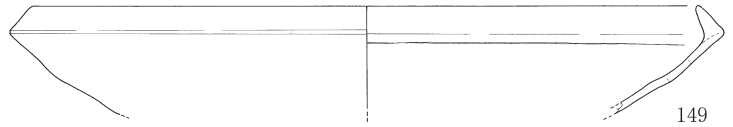
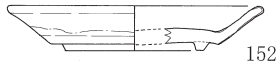
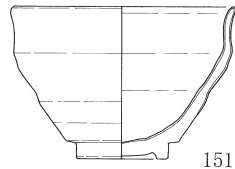
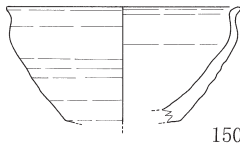
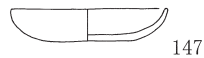
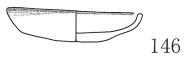
溝SD32



石列SZ37

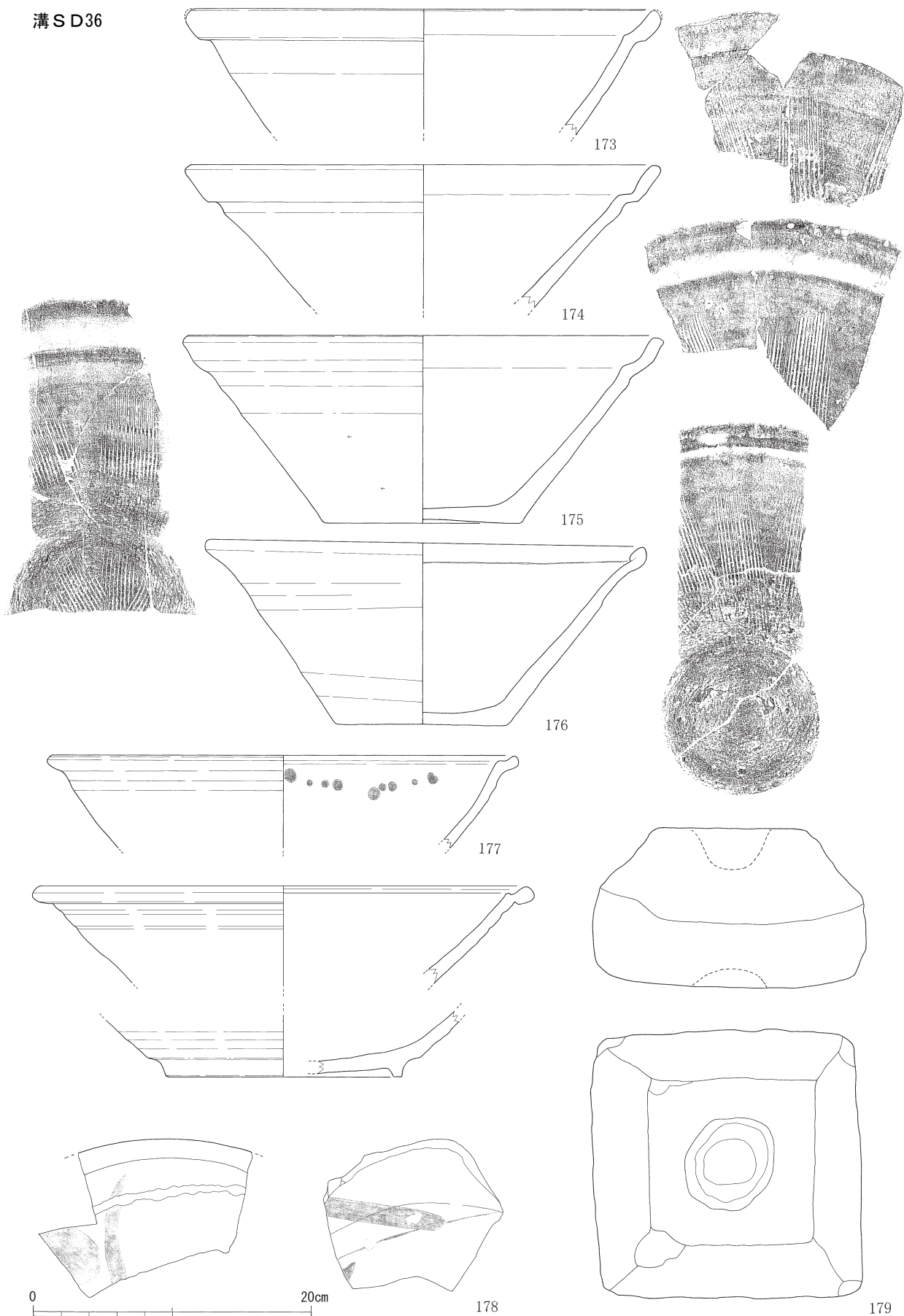


溝SD36



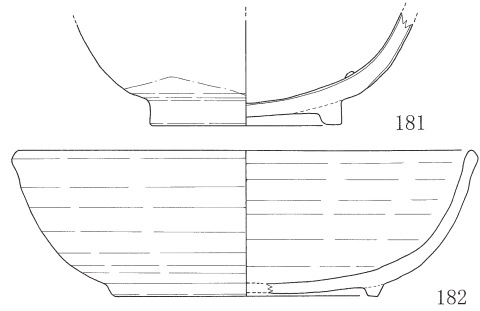
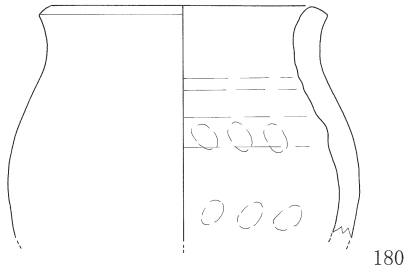
第20図 出土遺物実測図(7)

溝SD36

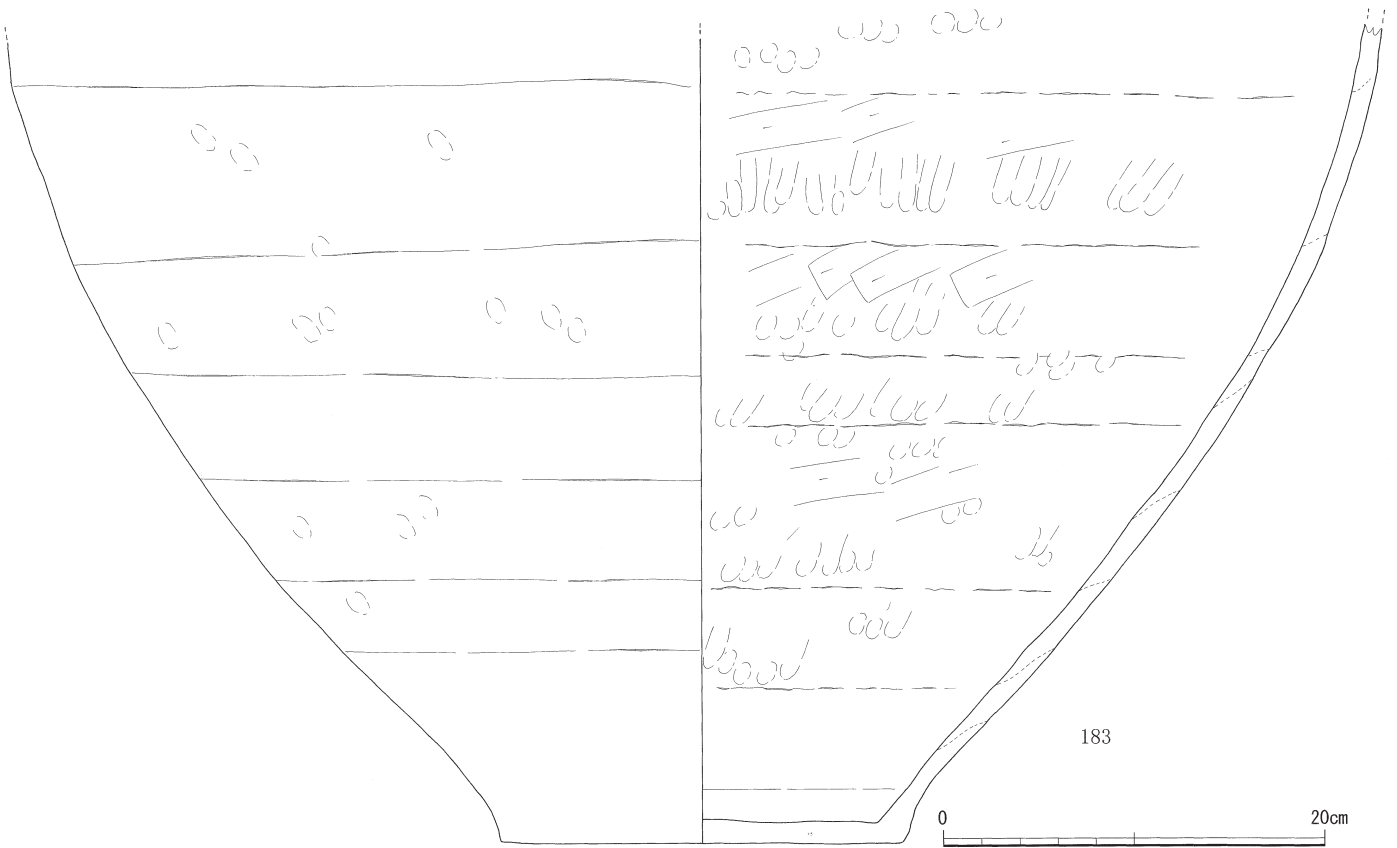
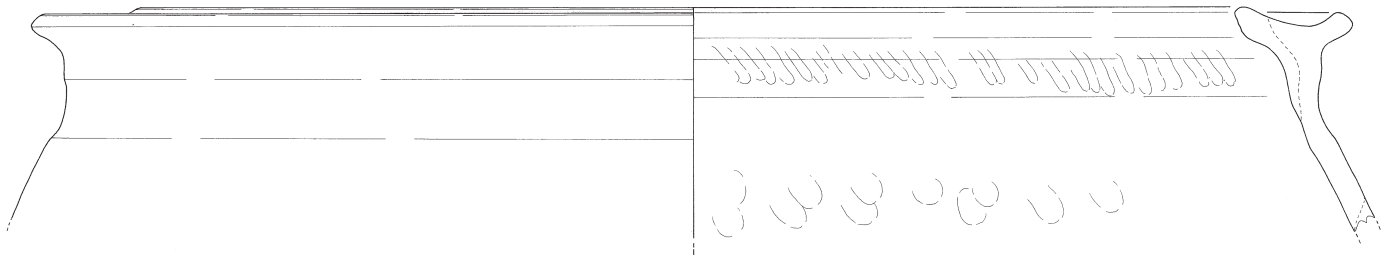


第21図 出土遺物実測図(8)

石列SZ113



土坑SK115

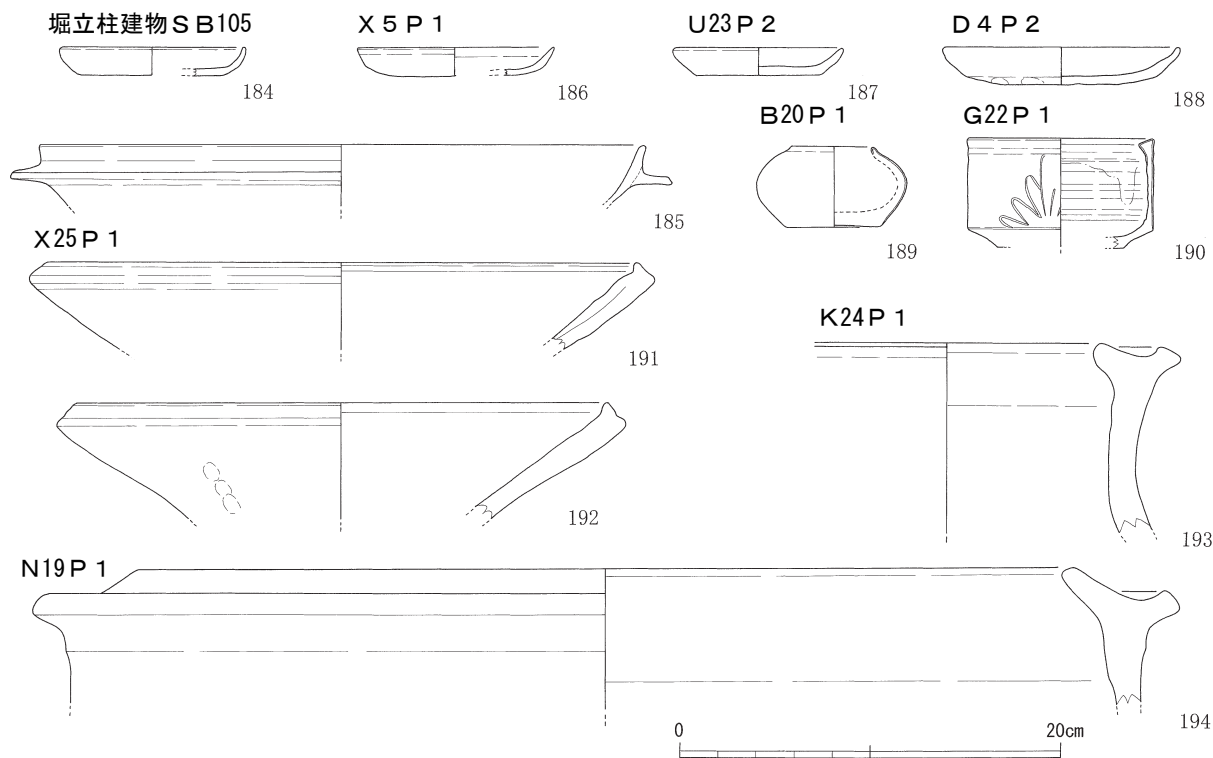


第22図 出土遺物実測図(9)

3 四半期のもの。224は美濃の摺絵皿で登窯第5・6小期の18世紀前後のもの。225は鉄絵皿で草花文が描かれる。瀬戸の登窯第3小期の17世紀第3四半期のもの。226は、美濃の丸皿で登窯第2小期の17世紀第2四半期のもの。227は瀬戸美濃の折縁皿で大窯第4型式前半の16世紀後半のもの。228は瀬戸の鉄絵皿で穴田窯の登窯第3小期の17世紀第3四半期のもの。229は、美濃の灯明皿、登窯第5小期の17世紀第4四半期のもの。230・231は瀬戸の輪禿皿で登窯第5・6小期の18世紀前後のもの。232は、瀬戸の志野皿で登窯第2小期の17世紀第2四半期のもの。233は美濃の陶器小杯で登窯第2小期の17世紀第2四半期のもの。234～237は陶器椀で、234は瀬戸の丸椀で登窯第8小期の18世紀後半のもの。235は瀬戸の湯呑椀で登窯第8小期の18世紀後半のもの。236は美濃の湯呑椀で登窯第4・5小期の17世紀後半のもの。237は天目茶椀で大窯第1型式の16世紀中葉のもの。238～240は陶器香炉。238は美濃のもので登窯第7小期の18世紀中葉のもの。239・240も美濃で登窯第5小期の17世紀第4四半期のもの。241は陶器小壺で古瀬戸後期の15世紀中葉のものであろう。242・243は陶器鉢、242は波状の口縁部で瀬戸

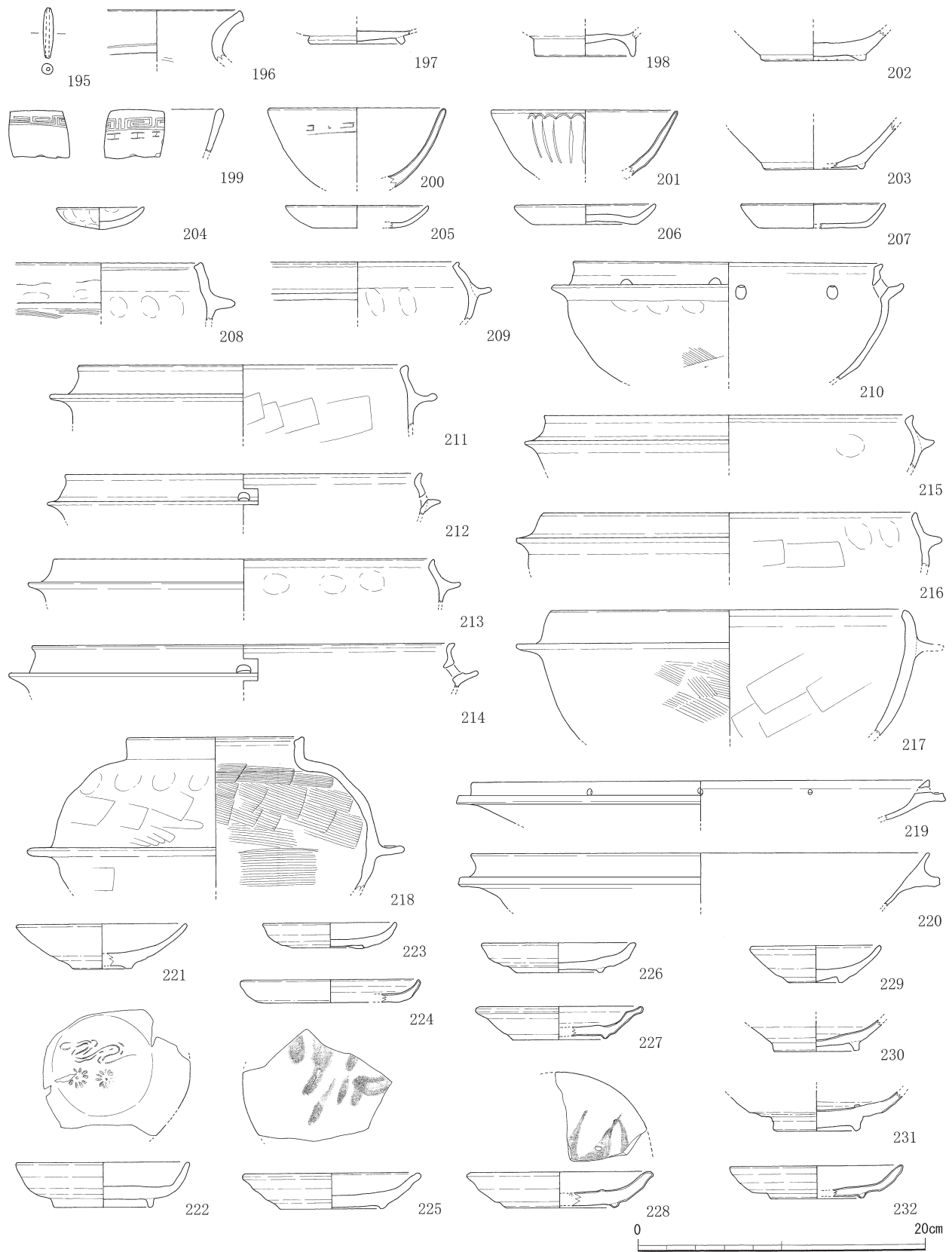
の登窯第8小期の18世紀第3四半期のもの。243は美濃で登窯第7・8小期の18世紀第3四半期のもの。244は瀬戸の蓋物身で登窯第7小期の18世紀中葉のもの。245は灯明受皿で美濃の登窯第9小期の19世紀初頭のものである。246は常滑の鉢。247は瀬戸の輪禿鉢で登窯第7小期の18世紀中葉のもの。248は桶ないし壺の底部で古瀬戸後期IV期の15世紀中葉のもの。249は常滑の甕、250は美濃の徳利の底部で登窯第7・8小期の18世紀第3四半期のもの。251は瀬戸の練鉢の底部で登窯第8小期の18世紀第3四半期のもの。252～254は陶器甕、252・253は常滑のもので口縁部、254は、中世信楽の甕の底部。255は常滑の片口鉢Ⅱ類で第9型式の14世紀前半のもの。256・257は瀬戸の播鉢。256は登窯第2小期の17世紀第2四半期のもの。257は登窯第8小期の18世紀第3四半期のもので、窯記号が残る。258・259は、加工円盤。258は常滑の甕、259は常滑の片口鉢を転用。260は陶器甕で常滑の第10型式の15世紀後半のもの。261は陶器甕で信楽のもの。262は磁器椀、肥前の伊万里のものである。

その他 (263～276) 263は土師器皿。264は陶器皿で瀬戸の輪禿皿で登窯第5小期の17世紀第3四半



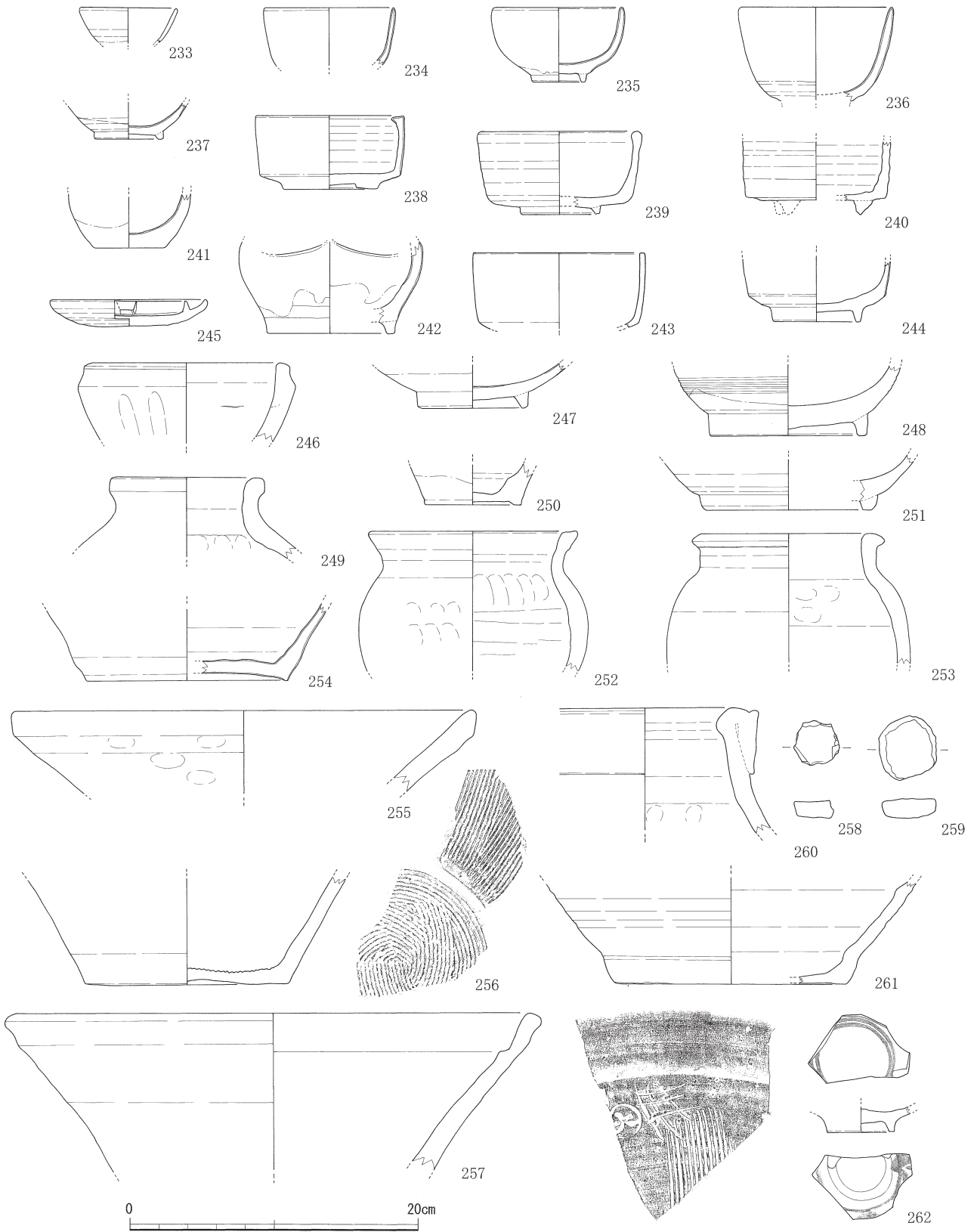
第23図 出土遺物実測図 (10)

包含層



第24図 出土遺物実測図 (11)

包含層



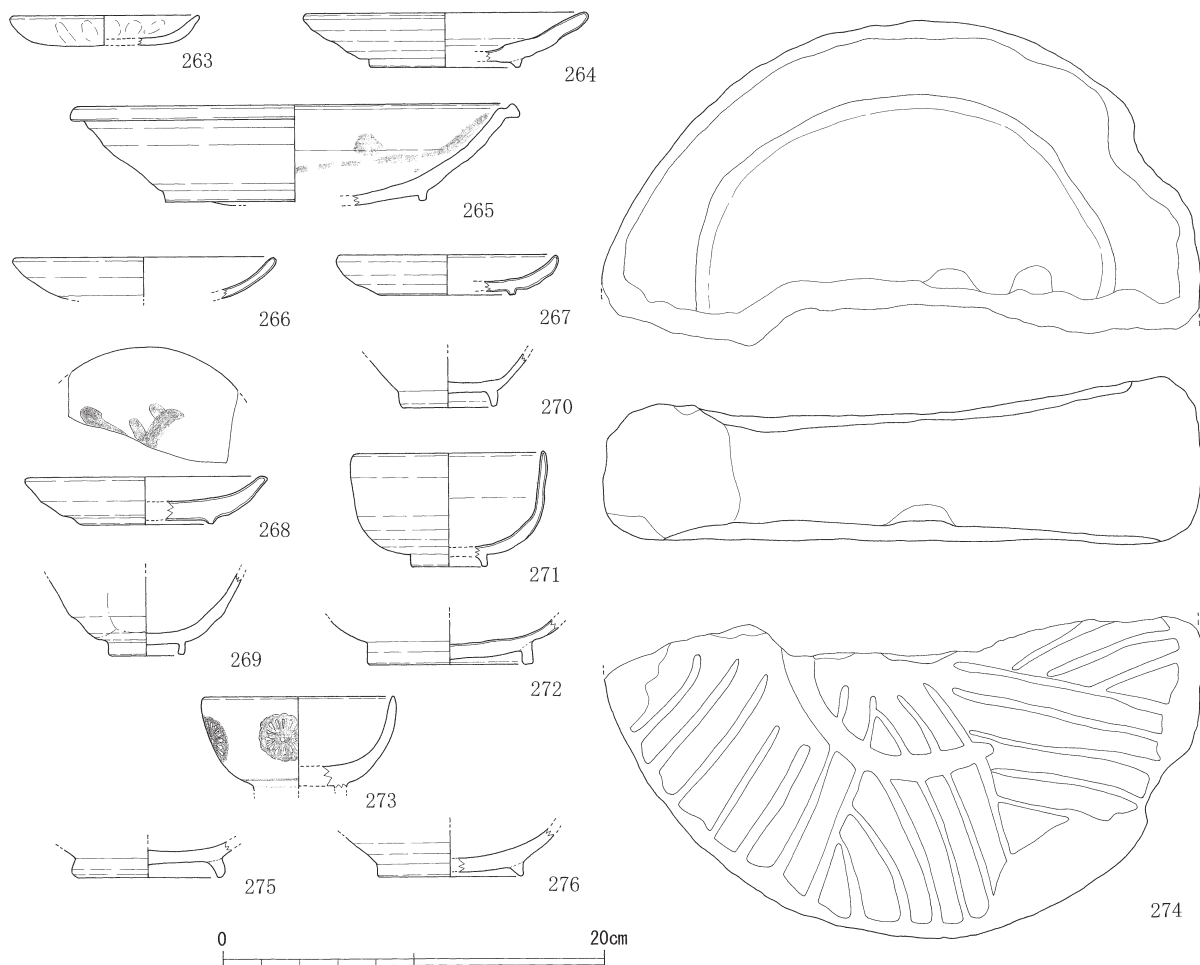
第25図 出土遺物実測図 (12)

期のものである。265は陶器鉢で黄瀬戸系の登窯第1小期の17世紀第1～2四半期のものである。266～268は陶器皿。266～268は全て瀬戸のもの。266は輪禿皿で登窯第2・3小期の17世紀中葉のもの。267は志野皿で登窯第3小期の17世紀第3四半期のもの。268は鉄絵皿で草花文が描かれる。登窯第3小期の17世紀第3四半期のもの。269～271は陶器椀である。269は美濃の掛分茶椀で登窯第3・4小期の17世紀第3四半期のもの。270は瀬戸の平椀で登窯第8小期の18世紀第3四半期のもの。271は瀬戸の湯呑椀で登窯第8小期の18世紀第3四半期のもの。272は美濃の片口鉢で登窯第6小期の18世紀初頭のもの。273は磁器椀で肥前の伊万里のもの。18世紀第1四半期のものであろう。274は石臼である。播面は8分割されている。275は陶器椀で山茶椀の尾張型第3型式の12世紀前半で、276は灰釉陶器椀の

黒笹90号窯式から折戸53号窯式併行期の10世紀前後のものである。

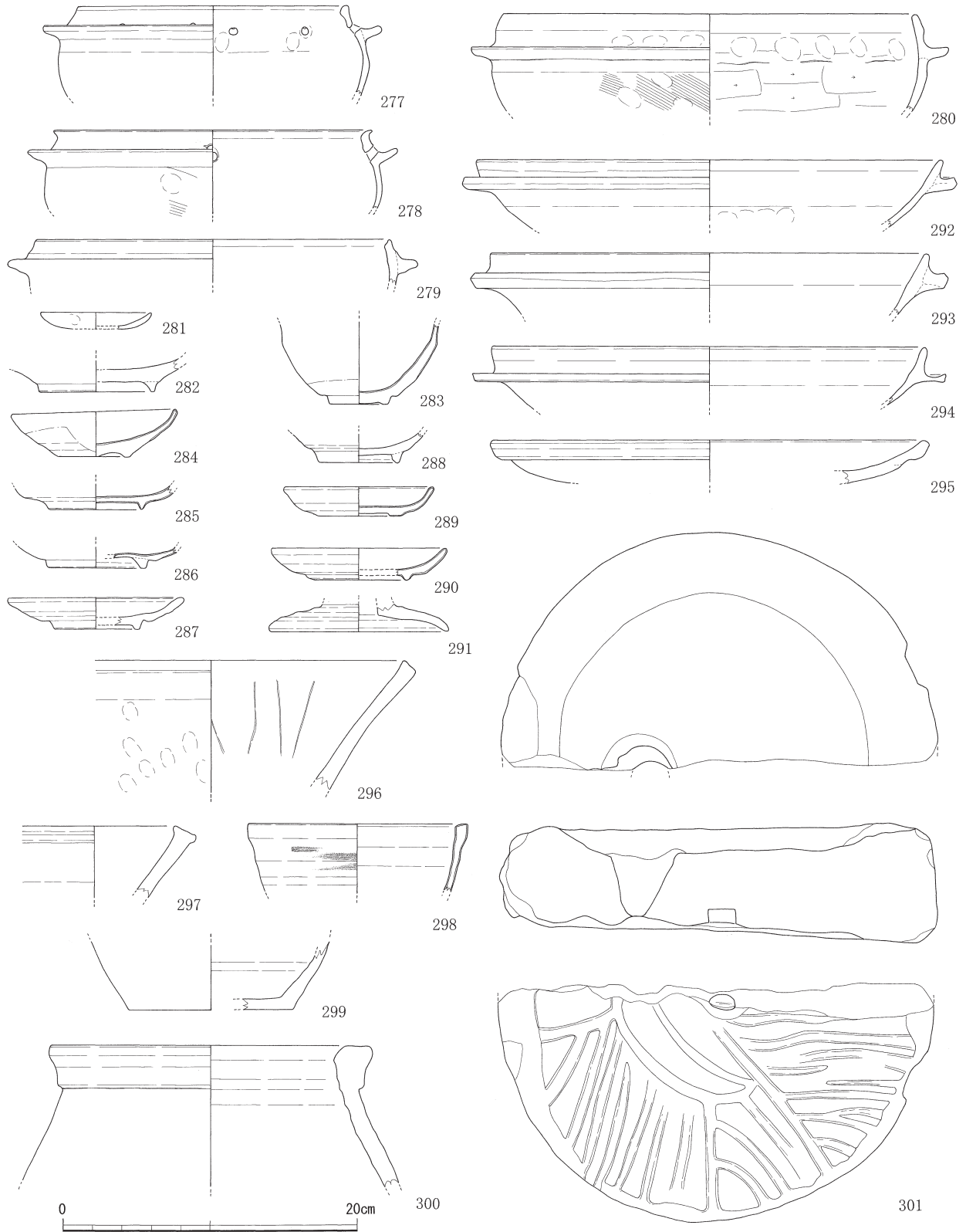
表土(277～301) 281は土師器皿、277～280は、中北勢系土師器羽釜で、口縁端部が丸くまとまるものと外方に引き出されるものがある。282は陶器椀で山茶椀の尾張型第4型式の12世紀中葉のもの。283は天目茶椀で美濃のもの。登窯第1小期の17世紀初頭のもの。284は陶器灰釉皿の唐津で17世紀代のものである。285～287・289・290は陶器皿。285は美濃の御深井皿で登窯第7小期の18世紀中葉のもの。286は瀬戸の摺絵皿で登窯第7小期の18世紀中葉のもの。287は美濃の丸皿で登窯第4小期の17世紀第2四半期のもの。289は瀬戸美濃の輪禿皿で登窯第3小期の17世紀第3四半期のもの。290は美濃の丸皿で登窯第1小期の17世紀第2四半期のもの。288は美濃の片口で登窯第8小期の18世紀第3四半期の

その他



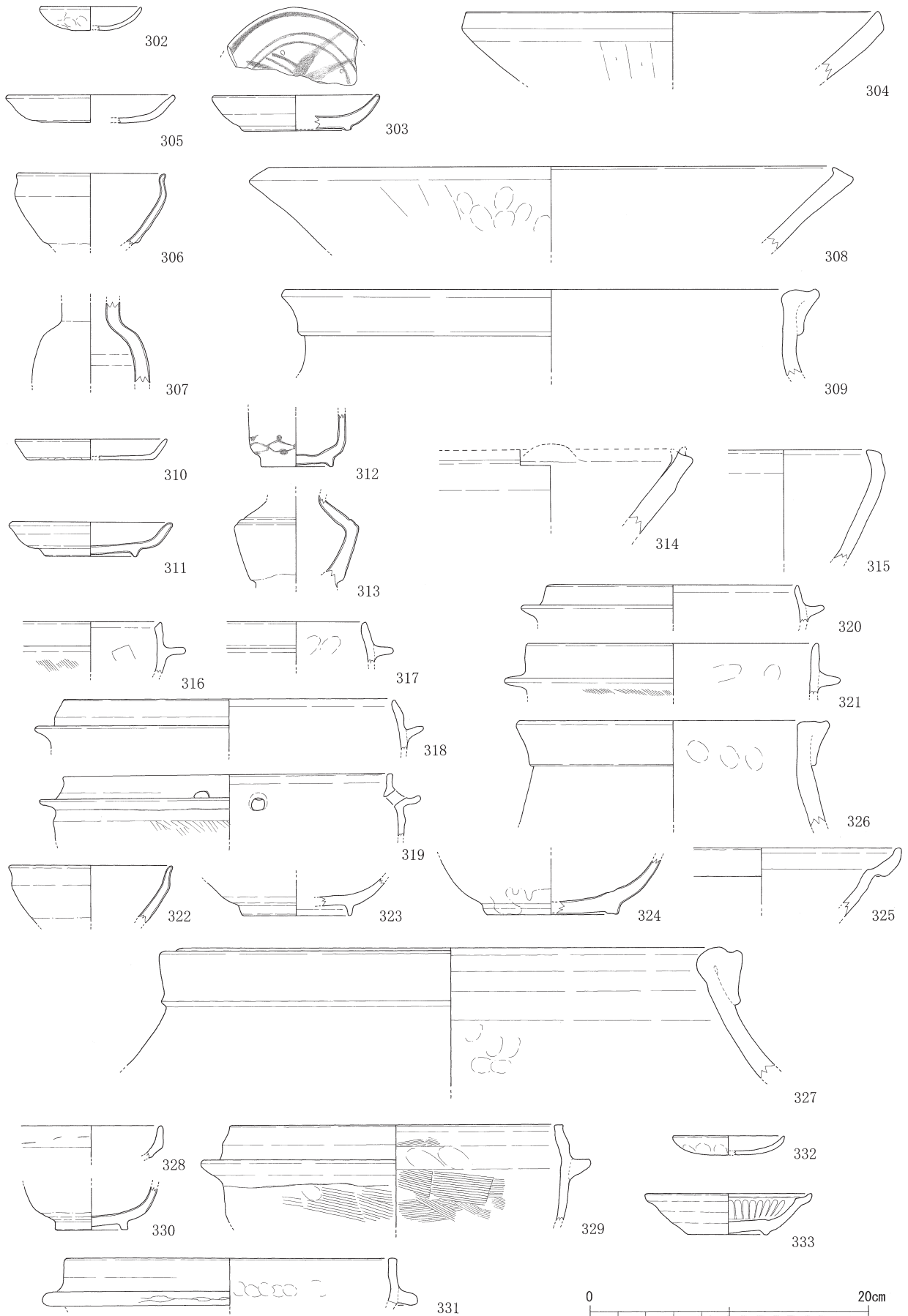
第26図 出土遺物実測図(13)

表土



第27図 出土遺物実測図 (14)

範圍確認調査坑



第28図 出土遺物実測図 (15)

もの。291は美濃の盃台の台部。登窯第5・6小期の18世紀前後のもの。292～295は土師器焙烙。295は鏝部がないもの。296・297は常滑の片口鉢Ⅱ類で、296は第8型式の14世紀後半のもの。297は第10型式の15世紀後半のもの。298は瀬戸の陶器片口鉢で登窯第8・9小期の19世紀前後のもの。299は陶器甕底部で信楽のもの。300は常滑の陶器甕で第11型式の16世紀前半のもの。301は石臼である。播面は8分割されている。

T 1 (302～304) 302は土師器皿。303は鉄絵皿である。瀬戸の穴田窯の登窯第2小期の17世紀前葉から中葉にかけてのものである。304は片口鉢、常滑のものⅡ類で第7型式の14世紀後半のものである。

T 2 (305～309) 305は土師器皿、306は天目茶碗で登窯第3・4小期の17世紀第3四半期のもの。307は美濃の花瓶で登窯第3～4小期の17世紀中葉～後葉のものである。308は常滑の片口鉢でⅡ類、第10型式の15世紀後半のもの。309は陶器甕で第10型式の15世紀後半のものである。

T 3 (310～315) 310は土師器皿、直線的なつくりでやや硬質のものである。311は瀬戸の志野丸皿で登窯第1小期の17世紀初頭のもの。312は織部の汁注で登窯第1小期の17世紀初頭のもの。313は美濃の花瓶で登窯第5～6小期の18世紀前後のもの。314は常滑の片口鉢Ⅱ類で第8型式の14世紀後半のもの。315は常滑の鉢である。

T 4 (316～327) 316～321は中北勢系土師器羽釜で口縁端部が丸くまとまるものや面をもつものである。322は天目茶碗で大窯第3型式後半の16世紀第3四半期のもの。323は陶器皿で美濃の登窯第4・5小期の17世紀第4四半期のもの。324は美濃の片口鉢で登窯第8～9小期の19世紀前後である。325は瀬戸の陶器挿鉢で登窯第6小期の18世紀第2四半期のもの。326・327は陶器甕、両方とも常滑で326が第11型式で16世紀前半のもの。327が第10型式の15世紀後半のものである。

T 5 (328～330) 328は土師器焙烙、あまり見ない口縁部の焙烙である。畿内系とみられる。329は中北勢系土師器羽釜で、口縁端部は中央部がやや窪んだ平坦な面を持っている。330は瀬戸の陶器碗、丸碗で登窯第5・6小期の18世紀前後のものである。

T 6 (331) 331は中北勢系土師器羽釜である。口縁端部は329と同様のものである。

T 11 (332・333) 332は、土師器皿である。333は陶器皿で折縁皿の大窯第4型式前半の16世紀第3四半期のものである。(萩原義彦)

【註】

- ① 植崎彰一・斉藤孝正「猿投窯編年の再検討について」『平安時代の土器・陶器』（愛知県陶磁資料館 1981年）
- ② 愛知県史編さん委員会『愛知県史別編窯業2 中世・近世瀬戸系』（2007年）
藤澤良祐『瀬戸窯跡群』（同成社 2005年）
- ③ 第4回東海考古学フォーラム『鍋と甕 そのデザイン』（1996年）
- ④ 三重県『三重県史資料編考古2』（2008年）
伊藤裕偉「中世後期の中北勢系土師器群に関する覚書」『研究紀要 第8号』（三重県埋蔵文化財センター 1999年）
- ⑤ 愛知県史編さん委員会『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』（2012年）
- ⑥ 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究No.2』（日本貿易陶磁研究会 1982年）
- ⑦ 合田芳正『古代の鍵』（ニュー・サイエンス社 1998年）
- ⑧ 土坑SK115の土師質甕については、愛知学院大学中野晴久氏の助言を頂いた。

【参考文献】

- 中世土器研究会『第35回中世土器研究会 貿易陶磁器研究の現状と土器研究』（2017年）
- 江戸陶磁土器研究グループ『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』（1996年）
- 関西近世考古学研究会『歴史資料としての近世貿易陶磁』（2016年）
- 貿易陶磁器については、東京大学堀内秀樹氏の助言をいただいたが最終判断は文責者が行った。
- 中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』（真陽社 1995年）
- 三輪茂雄『臼』（法政大学出版局 1978年）

報告番号	登録番号	器種	遺構出土位置	最大長口径 (cm)	最大幅器高 (cm)	最大厚その他 (cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	022-06	石織	E-F23表土	2.4×1.3×0.4	—	0.6 g	—	—	—	—	—	—
2	016-06	弥生土器 甕	T2包含層	—	—	—	内面：ツマミ、ナデ、ハケ 外面：ツマミ、タタキ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	にぶい黄褐色 10YR5/3	口縁部小片	—
3	044-03	弥生土器 壺	E-G22SD32下層	—	—	6.8	全体風化著しい	粗（～4mm砂粒含む）	良	橙 7.5YR6/6	底部4/12	—
4	053-02	土師器 皿	B-W24SX53	8.0	1.2	—	内外面：ナデ	密	良	灰白 10YR8/2	3/12	—
5	053-05	土師器 皿	E-W24SX53	10.0	—	—	内外面：ナデ	密	良	灰白 2.5Y8/1	口縁部3/12	—
6	064-07	土師器 皿	B-W24SX53	10.0	—	—	内外面：ナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	2/12	取り上げNo.3
7	053-08	土師器 皿	B-W24SX53	11.2	1.3	—	内面：ナデ 外面：ナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄 2.5Y7/3	ほぼ完存	取り上げNo.2
8	048-03	土師器 皿	B-W24SX53	9.2	1.7	—	内面：ナデ 外面：ユビオサエ後ナデ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	灰白 2.5Y8/2	ほぼ完存	取り上げNo.1
9	048-01	土師器 皿	B-W24SX53	10.2	1.7	—	内面：ナデ 外面：ナデ、ユビオサエ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	灰白 2.5Y8/2	ほぼ完存	外面煤付着 穿孔1箇所 取り上げNo.4
10	051-01	土師器 皿	B-W24SX53	12.2	1.4	—	内外面：ユビオサエ後ナデ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	口縁部2/12	取り上げNo.5
11	048-04	陶器 椀 (天目茶椀)	B-W24SX53	12.0	—	—	内面：施軸 外面：施軸、ロクロケズリ	密	良	素地：にぶい黄橙 10YR7/4 釉：暗褐色 7.5YR3/4 灰 4/	口縁部6/12	瀬戸
12	005-05	陶器 椀 (天目茶椀)	E-B20SK11	11.6	—	—	内外面：施軸	密	良	素地：灰白 10YR8/1 釉：灰黄褐色 10YR4/2	口縁部2/12	瀬戸美濃
13	006-03	陶器 四耳壺	E-C22SK14	—	—	—	内面：ユビオサエ、ロクロナデ 外面：ロクロナデ、櫛描文、貼り付けナデ	密	良	素地：灰白 7.5Y8/1 釉：浅黄 5Y7/3	肩部残	古瀬戸
14	071-02	灰軸陶器 皿	E-C22SK14	—	—	6.3	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ	やや密（～1mm砂粒含む）	良	灰白 2.5Y7/1	底部1/12以下	猿投・折戸53号窯式
15	007-07	灰軸陶器 皿	E-C22SK14	—	—	—	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ	密	良	灰白 5Y7/1	底部1/12	黒笹90号窯式
16	007-02	土師器 皿	E-C22SK14	—	—	—	内外面：ユビオサエ、ナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁部小片	内面煤付着
17	007-01	土師器 皿	E-C22SK14	—	—	—	内外面：ユビオサエ、ナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁部小片	—
18	008-04	土師器 羽釜	E-C22SK14	—	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ後ハケ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部小片	外面煤付着 中北勢系土師器
19	008-01	土師器 羽釜	E-C22SK14	16.2	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部1/12	外面煤付着 中北勢系土師器
20	008-03	土師器 羽釜	E-C22SK14	20.0	—	—	内面：ヨコナデ、ハケ 外面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	鈔部1/12	外面煤付着 中北勢系土師器
21	008-02	土師器 羽釜	E-C22SK14	22.1	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ後工具ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ後ハケ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部1/12	外面煤付着 中北勢系土師器
22	007-03	土師器 茶釜	E-C22SK14	—	—	—	内面：ユビオサエ 外面：ユビオサエ、ナデ	密	良	橙 5YR7/6	把手のみ	煤付着 中北勢系土師器
23	007-04	土師器 茶釜	E-C22SK14	—	—	—	内面：ユビオサエ 外面：ユビオサエ、ナデ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	橙 7.5YR7/6	把手のみ	煤付着 中北勢系土師器
24	006-01	陶器 片口鉢	E-C21SK14	—	—	—	内外面：ロクロナデ	密（～2mm砂粒含む）	良	浅黄橙 7.5YR8/6	口縁部小片	常滑
25	007-05	陶器 片口鉢	E-C22SK14	—	—	—	内面：ナデ 外面：ユビオサエ	やや密（～5mm砂粒含む）	良	黒褐色 7.5YR3/2	口縁部小片	常滑
26	007-06	陶器 甕	E-C22SK14	—	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ	やや密	良	灰オリーブ 5Y6/2	口縁部小片	常滑
27	010-04	陶器 椀 (天目茶椀)	E-C23SK17	9.8	—	—	内面：施軸 外面：施軸、ロクロケズリ	密	良	素地：灰白 2.5Y8/2 釉：極暗褐色 7.5YR2/3	口縁部2/12	瀬戸美濃
28	010-05	灰軸陶器 椀	E-D22SK18	—	—	6.4	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ、ナデ	密	良	灰白 5Y7/1	底部2/12	黒笹90号窯式～折戸53号窯式
29	010-06	陶器 片口鉢	E-D22SK18	—	—	—	内外面：ナデ後ユビオサエ	密	良	橙 7.5YR7/6	口縁部小片	常滑
30	010-07	磁器 皿	E-D22SK18	—	—	8.0	内外面：施軸	密	良	白地に藍	底部2/12	景徳鎮
31	048-07	陶器 皿 (山皿)	E-G23SK33	7.6	1.6	4.7	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕	やや粗	良	緑灰 7.5GY6/1	5/12	尾張型第6型式
32	066-05	石製品 敲石	E-F23SK33	23.5×4.3×3.9	—	499.6 g	—	—	—	—	—	—
33	075-01	鉄製品 火打金	D8SZ112	3.8×2.5	—	11.0 g	—	—	—	—	—	—
34	052-05	土師器 羽釜	B-T24SK46	16.2	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ後工具ナデ	密	良	橙 5YR6/6	口縁部3/12	中北勢系土師器
35	063-02	土師器 羽釜	B-T24SK46	21.8	—	—	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部2/12	中北勢系土師器 穿孔あり 外面煤付着
36	047-03	土師器 羽釜	B-T24SK46	23.6	—	—	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、貼り付けナデ	粗（～2.5mm砂粒含む）	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部3/12	中北勢系土師器 外面煤付着
37	052-03	陶器 小椀	F-B1SE104	8.5	—	—	内外面：ロクロナデ、ロクロケズリ	密（～1mmの砂粒含む）	良	素地：浅黄 2.5Y7/4 釉：灰白 2.5Y8/1	口縁部1/12	美濃
38	047-01	陶器 皿 (菊皿)	F-B1SE104	—	—	7.2	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ	やや密（～1mm砂粒含む）	良	素地：灰白 5Y7/2 釉：明緑灰 10GY7/1	底部6/12	美濃
39	044-01	陶器 片口	E-B1SE104	—	—	9.3	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、削り出し高台、ケズリ	密	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：黒褐色 7.5YR2/2	底部9/12	瀬戸
40	062-04	陶器 丸椀	B-T21SD5	—	—	4.8	内面：施軸 外面：施軸、ケズリ	やや粗	良	灰白 2.5Y8/2	底部3/12	瀬戸
41	062-05	陶器 片口鉢	B-T21SD5	28.1	—	—	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ	密	良	橙 2.5YR6/8	口縁部1/12以下	常滑
42	001-01	陶器 掃鉢	B-T21SD6	27.2	—	—	内外面：ロクロナデ	やや密（～1mm砂粒含む）	良	素地：浅黄色 2.5Y7/4 釉：褐色 7.5YR4/1	口縁部1/12以下	瀬戸

第5表 遺物観察表(1)

報告番号	登録番号	器種	遺構出土位置	最大長口径 (cm)	最大幅高 (cm)	最大厚その他 (cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
43	004-02	土師器 甕	B-W21 SD7	-	-	-	内外面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10Y R7/4	口縁部小片	
44	001-05	土師器 甕	B-U22 SD7	-	-	-	内外面:ヨコナデ	やや粗 (~2mm砂粒含む)	良	にぶい黄橙色 10Y R7/3	口縁部小片	
45	004-03	陶器 椀 (山茶椀)	B-W21 SD7	16.8	-	-	内外面:ロクロナデ	密 (~2mm砂粒含む)	良	灰白 2.5Y7/1	口縁部1/12以下	尾張
46	062-06	土師器 羽釜	B-W21 SD7	20.9	-	-	内面:ケズリ 外面:ヨコナデ	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	にぶい黄橙 10Y R7/4	口縁部1/12以下	中北勢系土師器
47	002-03	土師器 羽釜	B-W21 SD7	21.5	-	-	内面:ナデ 外面:ナデ	やや密	良	浅黄橙 10Y R8/3	口縁部1/12以下	孔一部残 中北勢系土師器
48	002-02	土師器 羽釜	B-W21 SD7	20.9	-	-	内面:ナデ、ケズリ 外面:ナデ	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	橙 5Y R6/6	口縁部1/12	孔2個残 中北勢系土師器
49	001-04	土師器 焙烙	B-U22 SD7	29.1	-	-	内外面:ナデ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	にぶい黄橙色 10Y R7/4	口縁部1/12	尾張
50	002-04	白磁 椀	B-V22 SD7	13.6	-	-	内外面:施軸	密	良	素地:白 釉:白	口縁部1/12以下	貿易磁器
51	002-05	陶器 椀 (丸椀)	B-V22 SD7	9.6	5.8	4.7	内面:施軸 外面:施軸、ケズリ	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	素地:灰白 7.5Y8/1 釉:にぶい赤褐 5Y R4/4	2/12	瀬戸
52	005-01	陶器 椀 (天目茶椀)	B-W21 SD7	-	-	-	内外面:施軸	密	良	素地:灰白7.5Y R8/1 釉:黒褐 10Y R2/2	口縁部3/12	瀬戸美濃
53	005-02	陶器 椀 (天目茶椀)	B-U22 SD7	-	-	-	内面:施軸 外面:施軸、ロクロケズリ、ロクロナデ、削り出し高台	密	良	素地:淡黄 2.5Y8/3 釉:黒褐 10Y R2/3	9/12	瀬戸
54	062-07	陶器 徳利	U-22 SD7	-	-	5.4	内外面:ロクロナデ	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	灰白 7.5Y8/1	底部(ほぼ完存)	美濃
55	003-03	陶器 皿 (鉄絵皿)	B-W21 SD7	11.5	2.3	6.4	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ、ケズリ	やや粗 (~2mm砂粒含む)	良	素地:灰白 2.5Y8/2 釉:灰黄褐 10Y R4/2	3/12	瀬戸
56	004-04	陶器 皿 (内壳皿)	B-W21 SD7	-	-	5.8	内面:施軸、ロクロナデ 外面:施軸	密	良	素地:灰黄 2.5Y7/2 釉:オリーブ灰 10Y5/2	底部完存	瀬戸
57	003-04	陶器 皿 (菊皿)	B-V22 SD7	-	-	6.8	内外面:ロクロナデ	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	灰白 2.5Y8/2	底部6/12	美濃
58	003-06	陶器 皿 (輪壳皿)	B-U22 SD7	12.1	3.0	7.0	内面:施軸、ロクロナデ 外面:施軸、ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	灰白 2.5Y8/2	6/12	瀬戸
59	003-07	陶器 皿 (輪壳皿)	B-U22 SD7	12.6	2.9	7.6	内面:施軸、ロクロナデ 外面:施軸、ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	淡黄 2.5Y8/3	5/12	瀬戸
60	003-05	陶器 皿 (輪壳皿)	B-U22 SD7	13.1	2.9	6.4	内面:施軸 外面:施軸、ロクロナデ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	淡黄 2.5Y8/3	5/12	瀬戸
61	003-02	陶器 花瓶	B-U22 SD7	-	-	6.3	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	灰黄 2.5Y7/2	底部6/12	肩部輪花・瀬戸
62	001-03	陶器 描鉢	B-V22 SD7	32	-	-	内外面:ロクロナデ	やや粗 (~2mm黒色粒多く含む)	良	素地:にぶい黄橙色 10Y R7/3 釉:灰褐色 5Y R4/2	口縁部1/12以下	瀬戸
63	001-02	陶器 描鉢	B-U22 SD7	32	-	-	内外面:ロクロナデ	やや粗 (~2mm黒色粒多く含む)	良	素地:にぶい黄橙色 10Y R7/3 釉:にぶい赤褐色 5Y R4/3	口縁部1/12以下	瀬戸
64	003-01	陶器 鉢 (鉄絵鉢)	B-V22 SD7	35.3	-	-	内外面:ロクロナデ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	灰白 5Y R7/1	口縁部1/12以下	美濃
65	004-01	陶器 描鉢	B-U22 SD7	31.4	12.9	13.6	内面:ロクロナデ、摺目 外面:ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕	密 (~5mm小石含む)	良	素地:浅黄 2.5Y7/3 釉:褐 7.5Y R4/4	8/12	瀬戸
66	002-01	陶器 描鉢	B-U22 SD7	-	-	14.3	内面:摺目 外面:ケズリ、糸切痕	やや粗 (~1mm黒色粒多く含む)	良	素地:にぶい黄橙 10Y R7/3 釉:灰褐 7.5Y R4/2	底部6/12	瀬戸
67	004-05	陶器 甕	B-W21 SD7	-	-	-	内面:ナデ 外面:ヨコナデ	密	良	橙 2.5Y R7/6	口縁部小片	常滑
68	009-04	陶器 椀 (山茶椀)	E-E24 SD15	-	-	7.0	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ、貼り付け高台、糸切痕	密	良	灰白 5Y7/1	底部3/12	尾張
69	009-02	陶器 椀	E-F24 SD15	-	-	4.8	内面:施 外面:施軸、ロクロナデ、ロクロケズリ、削り出し高台	密	良	素地:灰白 7.5Y7/1 釉:灰オリーブ 7.5Y6/2	底部7/12	唐津
70	009-01	陶器 皿 (折縁皿)	E-E24 SD15	10.6	2.3	6.0	内外面:施軸	密	良	素地:浅黄 2.5Y7/3 釉:オリーブ黄 5Y6/4	4/12	瀬戸美濃
71	010-01	陶器 片口鉢	E-F24 SD15	-	-	-	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ、板ナデ	密	良	橙 7.5Y R7/6	口縁部小片	常滑
72	009-05	土師器 羽釜	E-E24 SD15	-	-	-	内面:ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ 外面:ヨコナデ	密	良	橙 7.5Y R6/6	口縁部小片	外面煤付着 中北勢系土師器
73	009-06	土師器 羽釜	E-F24 SD15	27.6	-	-	内面:ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ 外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	明赤褐 5Y R5/6	口縁部1/12	焼成前穿孔1個残 中北勢系土師器
74	010-02	陶器 甕	E-F24 SD15	27.7	-	-	内面:ナデ後ユビオサエ 外面:ヨコナデ	密	良	にぶい褐 7.5Y R5/3	口縁部1/12以下	常滑
75	009-03	陶器 片口鉢	E-F24 SD15	32.8	-	-	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ	やや密	良	にぶい褐 7.5Y R5/3	口縁部1/12	常滑
76	063-01	陶器 描鉢	B-T22 SD49	-	-	14.4	内面:摺目 外面:ロクロケズリ、ロクロケズリ、糸切痕	密	良	素地:にぶい黄橙 10Y R7/3 釉:褐灰 7.5Y R4/1	底部5/12	瀬戸
77	063-04	土師器 皿	B-T25 SD44	10.0	-	-	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙 10Y R7/3	3/12	
78	063-03	土師器 羽釜	B-T25 SD44	-	-	-	内外面:ヨコナデ	密	良	灰黄褐 10Y R6/2	口縁部小片	中北勢系土師器 外面煤付着
79	039-02	陶器 皿 (鉄絵皿)	E-G21 SD44	11.8	2.9	6.0	内面:施軸 外面:施軸、ロクロケズリ	やや密 (~1mmの小石含む)	良	素地:にぶい黄橙 10Y R7/4 釉:灰白 2.5Y8/2	口縁部3/12	瀬戸
80	050-06	土師器 皿	C-U4 SD45	12.0	-	-	内面:ユビオサエ後ヨコナデ、ナデ 外面:ユビオサエ後ヨコナデ	密	良	浅黄橙 7.5Y R8/3	口縁部2/12	
81	027-02	灰軸陶器 椀	B-S24 SD47	-	-	7.4	内面:ロクロナデ、施軸 外面:ロクロナデ、施軸	密	良	素地:灰黄 2.5Y7/2 釉:明オリーブ灰 2.5GY7/1	底部2/12	黒笹90号窯式
82	064-03	土師器 皿	B-T3 SD47	8.8	-	-	内外面:ヨコナデ	密	良	橙 7.5Y R7/6	口縁部2/12	
83	064-04	土師器 皿	C-T3 SD47	9.2	-	-	内外面:ヨコナデ	密	良	灰黄褐 10Y R5/2	口縁部1/12	
84	064-02	土師器 皿	B-S23 SD47	10.0	-	-	内外面:ヨコナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄橙 7.5Y R8/6	口縁部2/12	
85	050-07	土師器 皿	B-S24 SD47	11.2	1.6	-	内外面:ナデ	密	良	浅黄橙 7.5Y R8/3	口縁部2/12	
86	043-02	石製品 砥石	B-T23 SD47	8.6×2.8×1.4	-	-	-	-	-	-	-	

第6表 遺物観察表(2)

報告書 番号	登録 番号	器種	遺構 出土位置	最大長 口径 (cm)	最大幅 器高 (cm)	最大厚 その他 (cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
87	064-06	陶器 丸皿	B-T23 SD50	12.0	-	-	内外面：施釉	密	良	灰黄 2.5Y7/2	口縁部1/12	瀬戸
88	043-04	陶器 加工円盤	B-T23 SD50	4.7× 5.0× 1.6	-	39.3 g	-	やや密（～1mm砂粒含む）	良	橙 2.5R6/6	完存	常滑鉢転用
89	064-05	陶器 皿 (輪赤皿)	B-V24 SD55	-	-	-	内外面：施釉、ロクロナデ	密	良	浅黄 2.5Y7/3	口縁部小片	瀬戸
90	027-05	土師器 皿	E-B25 SD70	10.6	2.0	-	内面：ナデ 外面：ナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄 2.5Y7/4	2/12	
91	027-04	灰軸陶器 皿	E-B25 SD70	-	-	7.6	内面：施釉、ロクロナデ 外面：施釉、ロクロナデ	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：淡黄 2.5Y8/3	底部2/12	折戸53号窯式
92	050-04	陶器 加工円盤	E-C25 SD70	5.0× 4.4× 1.3	-	34.6 g	-	粗	良	橙 5YR7/6	完存	常滑片口鉢転用
93	052-02	土師器 羽釜	E-B25 SD70	19.4	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ後工具ナデ 外面：貼り付けナデ、ユビオサエ後ハケ	やや密	良	橙 5YR7/8	口縁部1/12	中北勢系土師器 外面煤付着
94	045-03	土師器 羽釜	E-B25 SD70	24.0	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、貼り付けナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部1/12	中北勢系土師器
95	049-04	土師器 羽釜	E-B25 SD70	28.0	-	-	内面：ナデ 外面：ナデ、貼り付けナデ、ハケ	密	良	灰白 10YR8/2	口縁部1/12	中北勢系土師器 外面煤付着
96	046-02	陶器 甕	E-B25 SD70	25.0	-	-	内外面：ヨコナデ	粗（～3mmの砂粒含む）	良	にぶい赤褐 5YR4/3	口縁部3/12	常滑
97	053-04	土師器 皿	E-A24 SD13	8.3	1.5	-	内外面：ナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/6	5/12	
98	005-06	土師器 皿	E-A23 SD13	12.0	-	-	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	口縁部1/12	
99	038-04	陶器 皿 (折縁皿)	E-A25 SD13	11.8	-	7.2	内外面：施釉、ロクロナデ	密	良	素地：浅黄 5Y7/3 釉：オリブ 5Y5/4 淡黄 5Y8/3	1/12	瀬戸美濃
100	050-03	陶器 加工円盤	E-A25 SD13	4.7× 4.0× 1.4	-	27.3 g	-	密	良	暗褐 7.5YR3/4	完損	常滑甕転用
101	042-04	陶器 甕	E-A24 SD13	18.0	-	-	内外面：施釉	やや密（～2mm砂粒含む）	良	素地：灰白 2.5Y8/1 釉：暗褐 7.5YR3/4 黒褐 7.5YR2/2	口縁部2/12	瀬戸
102	053-09	陶器 甕	E-A25 SD13	-	-	11.2	内面：施釉 外面：ロクロナデ	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：黒褐 10YR2/3	底部2/12	常滑
103	050-05	石製品 薬研	C-W4 SD93	10.9× 8.5× 1.4	-	-	-	-	-	-	-	-
104	053-03	灰軸陶器 椀	C-W9 SD96	-	-	7.7	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ、 ロクロズリ	密（～1.5mmの小石含む）	良	灰白 5Y7/1	底部3/12	東濃型 黒底90号窯式
105	047-02	陶器 汁注	C-U6 SD96	5.4	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：浅黄橙 10YR8/3 釉：明黄褐 10YR7/6	口縁部2/12	美濃
106	052-06	石製品 硯	C-V8 SD96	-	-	-	-	-	-	-	-	-
107	051-06	陶器 片口鉢	B-R24 SK43	33.7	-	-	内外面：ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部1/12	常滑
108	014-03	陶器 椀 (山茶椀)	E-C25 SK23	-	-	7.6	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ、 糸切痕	密	良	灰 5Y6/1	底部3/12	尾張
109	015-01	陶器 片口鉢	E-C25 SK23	28.0	-	-	内面：ナデ 外面：ナデ後ユビオサエ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	橙 7.5YR7/6	口縁部2/12	常滑
110	074-01	鉄製品 鍵	E-C23 SK23	10.6× 1.1	-	-	-	-	-	-	-	-
111	006-02	陶器 片口鉢	E-E23 SK9	30.0	-	-	内外面：ロクロナデ	密（～2mm砂粒含む）	良	浅黄橙 10YR8/4	口縁部1/12	常滑
112	005-03	陶器 加工円盤	E-E23 SK9	5.1× 5.3× 1.1	-	34.4 g	ナデ、ユビオサエ	密（～2mm砂粒含む）	良	素地：灰黄 2.5Y6/2 釉：赤灰 2.5Y4/1	-	常滑甕転用
113	013-01	土師器 羽釜	E-C25 SK22	23.6	-	-	内面：ヨコナデ、ナデ後ユビオサエ、 ケズリ 外面：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	密	良	橙 7.5YR6/6	5/12	穿孔2個1対2箇所 中北勢系土師器
114	014-02	陶器 加工円盤	E-C25 SK22	6.1× 6.75× 1.5	-	57.1 g	ナデ、ユビオサエ	密	良	橙 7.5YR7/6	-	常滑片口鉢転用
115	014-01	陶器 甕	E-C25 SK22	32.0	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ	密	良	灰褐 5YR4/2	口縁部1/12	常滑
116	011-01	陶器 掃鉢	E-F23 SK19	33.0	13.1	14.0	内面：ヨコナデ、摺目 外面：ロクロナデ、ロクロズリ、 糸切痕	密	良	素地：浅黄橙 10YR8/4 釉：暗赤灰 7.5YR3/1	6/12	瀬戸
117	012-01	土師質 甕	E-F23 SK19	-	-	19.6	内面：ナデ後ユビオサエ 外面：ナデ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	浅黄橙 10YR8/3	底部6/12	常滑
118	005-04	陶器 椀 (丸椀)	E-A22 SK10	-	-	3.8	内面：施釉 外面：施釉、ロクロズリ、ロクロ ナデ、削り出し高台	密	良	素地：灰白 5Y8/1 釉：灰白 10Y8/1	底部完存	美濃
119	010-03	陶器 仏飯具	E-C22 SK16	-	-	5.2	内面：施釉 外面：施釉、ロクロナデ	密	良	素地：浅黄 2.5Y7/3 釉：灰白 5Y8/2	7/12	美濃
120	064-01	陶器 椀 (端反丸椀)	F-D2 SK56	-	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：灰白 2.5Y7/2 釉：暗褐 10YR3/3	口縁部小片	瀬戸
121	014-05	土師器 羽釜	E-C22 SK24	-	-	-	内面：ヨコナデ、ナデ後ユビオサエ、 ケズリ 外面：ヨコナデ、ナデ	密	良	橙 5YR6/6	口縁部1/12 以下	外面煤付着 中北勢系土師器
122	016-01	陶器 椀 (糸目椀)	E-C22 SK24	8.4	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：灰白 2.5Y8/1 釉：灰白 7.5Y8/1 オリブ褐 2.5Y4/3	口縁部1/12	瀬戸
123	014-04	陶器 加工円盤	E-C22 SK24	3.6× 4.3× 1.55	-	24.0 g	ナデ、ユビオサエ	やや密	良	にぶい褐 7.5YR5/4	-	常滑甕転用
124	034-03	陶器 香炉	E-G21 SK35	11.2	-	-	内面：施釉 外面：施釉、ロクロズリ	密	良	素地：淡黄 2.5Y8/4 釉：橙 7.5YR7/6 黄褐 10YR5/6	2/12	筒形・美濃
125	046-04	陶器 皿 (志野皿)	F-A8 SK84	11.6	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：浅黄橙 10YR8/4 釉：灰白 2.5Y8/2	口縁部5/12	瀬戸
126	052-04	陶器 皿 (端反丸皿)	C-T3 SK98	-	-	6.0	内外面：施釉	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：オリブ黄 7.5Y6/3	底部5/12	瀬戸
127	044-02	陶器 椀 (天目茶椀)	F-A4 SK88	11.2	7.2	4.2	内面：施釉 外面：施釉、ロクロナデ、貼り付け 高台	やや密（～1.5mm砂粒含む）	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：明赤褐 5YR5/8 黒 5YR1.7/1	5/12	瀬戸
128	055-01	石製品 茶臼	F-A4 SK88	-	-	-	-	-	-	-	-	-
129	066-04	石製品 砥石	F-F4 SK75	6.8× 3.7× 1.1	-	48.1 g	-	-	-	-	-	-
130	066-03	石製品 砥石	F-F4 SK75	7.0× 5.2× 1.2	-	77.0 g	-	-	-	-	-	-

第7表 遺物観察表(3)

報告番号	登録番号	器種	遺構出土位置	最大長径(cm)	最大幅器高(cm)	最大厚その他(cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
131	042-03	土師器 皿	F-C2 SK61	9.2	1.7	-	内面: ヨコナデ 外面: ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	橙 5Y R6/6	口縁部3/12	
132	051-04	陶器 水滴	F-E3 SK73	6.0× 4.2× 1.7	-	-	内外面: 施軸のため不明	密	良	素地: 黄灰 2.5Y6/1 釉: 裏葉柳 9GY8.5/3	10/12	美濃
133	053-10	陶器 乗燭	E-B25 SK78	5.1	2.5	-	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロナデ、糸切痕	密	良	素地: 淡黄 2.5Y8/4 釉: 灰白 2.5Y8/2	口縁部10/12	瀬戸
134	039-03	土師器 羽釜	E-B25 SK78	21.2	-	-	内面: ヨコナデ、工具ナデ 外面: ヨコナデ、貼り付けナデ、ハケ	密	良	明褐 7.5Y R5/6	口縁部3/12	中北勢系土師器 外面煤付着
135	039-01	土師器 羽釜	E-B25 SK78	24.3	-	-	内面: ヨコナデ、工具ナデ 外面: ヨコナデ、ハケ、ケズリ	密	良	褐 7.5Y R4/4	口縁部1/12	中北勢系土師器 穿孔2箇所
136	046-01	土師器 羽釜	E-B25 SK78	23.8	-	-	内面: ヨコナデ、工具ナデ 外面: ヨコナデ、ハケ	やや粗 (~2.5mmの小石含む)	良	橙 7.5Y R6/6	口縁部2/12	中北勢系土師器 外面煤付着
137	056-01	石臼	SK83	-	-	-	-	-	-	-	-	-
138	034-01	陶器 丸椀	E-L19 SD31	10.4	6.4	4.0	内面: 施軸 外面: 施軸、貼り付け高台	やや密	良	素地: 灰黄 2.5Y6/2 釉: 暗褐 7.5Y R3/4	1/12	瀬戸
139	035-01	土師器 茶釜	E-G20 SD32	9.9	-	-	内外面: ヨコナデ	密	良	橙 5Y R6/6	口縁部1/12	南伊勢系土師器
140	040-02	土師器 焙烙	E-G20 SD32	30.0	-	-	内面: ヨコナデ 外面: ヨコナデ、ユビオサエ、ケズリ	やや密 (~1.5mmの砂粒含む)	良	浅黄橙 10Y R8/4	口縁部2/12	尾張 外面煤付着
141	047-04	陶器 椀 (湯呑)	E-H20 SD32下層	10.0	-	-	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロナデ	密	良	素地: 淡黄 5Y8/3 釉: 暗赤褐 2.5Y R3/4	口縁部1/12	瀬戸
142	034-06	陶器 椀 (湯呑)	E-G20 SD32	9.8	-	-	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロナデ	やや密	良	素地: 灰白5Y8/2 釉: 灰白 5Y7/2	口縁部1/12	瀬戸
143	048-06	陶器 皿 (輪壳皿)	E-G22 SD32	12.4	3.2	7.2	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	素地: 灰白 2.5Y8/2 釉: 浅黄 5Y4/3	5/12	瀬戸
144	029-01	土師器 皿	E-H21 SZ37下層	9.6	-	-	内外面: ヨコナデ、ナデ	密	良	黄橙 10Y R8/6	口縁部3/12	
145	030-06	土師器 皿	E-I21 SZ37	-	-	10.0	内外面: ユビオサエ後ナデ、工具ナデ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	黄褐 10Y R5/6	底部4/12	
146	053-01	土師器 皿	E-G19 SD36	7.4	1.7	-	内外面: ユビオサエ、ナデ	密	良	橙 7.5Y R6/6	ほぼ完存	口縁部煤付着
147	048-02	土師器 皿	E-G20 SD36	8.2	1.7	-	内面: ヨコナデ、ナデ 外面: ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ	やや密	良	浅黄橙 10Y R8/3	9/12	
148	032-05	土師器 焙烙	E-H20 SD36	-	-	-	内外面: ヨコナデ	やや密	良	明黄褐 10Y R6/6	口縁部1/12 以下	外面煤付着
149	031-01	土師器 焙烙	E-H20 SD36	35.2	-	-	内外面: ヨコナデ	密	良	褐 7.5Y R4/3	口縁部3/12	内耳鍋の系譜
150	029-02	陶器 椀 (天目茶椀)	E-G19 SD36	12.3	-	-	内外面: ロクロナデ、施軸	密	良	素地: 浅黄 2.5Y7/4 釉: 褐 7.5Y4/4 黒 7.5Y1.7/1	口縁部1/12	瀬戸
151	042-01	陶器 椀 (天目茶椀)	E-H19 SD36	11.6	8.05	5.1	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロナデ、削り出し高台	やや密	良	素地: 灰白 5Y7/2 釉: 黒褐 5Y R2/1	5/12	瀬戸
152	041-01	陶器 皿 (端反皿)	E-L22 SD36	13.2	2.3	7.4	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼り付けナデ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	素地: 灰白7.5Y7/2 釉: 灰オリーブ5Y3/2	3/12	美濃
153	032-02	陶器 椀 (腰緒茶椀)	E-G20 SD36	9.9	6.2	4.9	内面: 施軸 外面: 施軸、貼り付けナデ、ロクロナデ	密	良	素地: 灰白 5Y7/2 釉: 極暗赤褐 2.5Y R2/3 暗オリーブ 7.5Y4/3	7/12	瀬戸
154	031-04	陶器 椀 (腰緒茶椀)	E-H19 SD36	9.8	5.9	3.6	内外面: 施軸	密	良	灰 5Y7/2	3/12	瀬戸
155	029-04	陶器 椀 (糸目椀)	E-G20 SD36	9.2	-	-	内外面: 施軸	密	良	素地: 浅黄 2.5Y7/3 釉: 灰白 2.5GY8/1 暗オリーブ褐 2.5Y3/3	口縁部1/12	美濃
156	030-03	陶器 椀 (糸目椀)	E-G20 SD36	8.8	-	-	内外面: 施軸	密	良	素地: 灰白 5Y7/1 釉: 灰オリーブ 7.5Y6/2 暗褐 10Y R3/4	口縁部4/12	美濃
157	027-03	陶器 丸椀	E-F19 SD36	9.2	5.7	4.6	内面: 施軸、ロクロナデ 外面: 施軸、ロクロナデ、貼り付けナデ	密	良	素地: 淡黄 2.5Y8/3 釉: 灰白 7.5Y7/2	底部2/12	瀬戸
158	066-02	陶器 椀 (湯呑)	E-H20 SD36	9.1	-	-	内外面: 施軸	やや粗 (~1mm砂粒含む)	良	素地: 灰白 2.5Y8/2 釉: にぶい赤褐 5Y R5/4	口縁部3/12	瀬戸
159	066-01	陶器 椀 (湯呑)	E-H20 SD36	9.4	-	-	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロナデ	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	素地: 浅黄 2.5Y7/4 釉: にぶい赤褐 5Y R4/3	口縁部2/12	瀬戸
160	032-03	陶器 椀 (湯呑)	E-H20 SD36 石列除去	8.6	5.3	3.0	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロケズリ	密	良	素地: 淡黄 2.5Y8/4 釉: 暗褐 10Y R3/4	4/12	瀬戸
161	048-09	陶器 椀 (湯呑)	E-G19 SD36	4.5	5.0	4.0	内面: 施軸 外面: 施軸、ロクロケズリ	やや密	良	素地: 淡黄 2.5Y8/3 釉: 褐 7.5Y R4/4	3/12	瀬戸
162	032-01	陶器 椀 (湯呑)	E-G20 SD36	8.9	5.5	3.4	内面: 施軸 外面: 施軸、貼り付けナデ、ロクロナデ	密	良	浅黄 5Y7/3	7/12	美濃
163	027-01	陶器 丸椀	E-G20 SD36	-	-	3.6	内面: ロクロナデ 外面: 施軸、ロクロナデ、貼り付けナデ	密	良	素地: 淡黄 2.5Y8/3 釉: 灰白 5Y7/2	底部3/12	瀬戸
164	041-04	陶器 片口鉢	E-H20 SD36	17.4	-	-	内外面: 施軸	やや密 (~1.5mm砂粒含む)	良	素地: 浅黄 2.5Y7/3 釉: 明黄褐 10Y R7/6	口縁部2/12	美濃
165	030-05	陶器 片口鉢	E-G20 SD36	16.0	-	-	内外面: 施軸	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	素地: 灰白 5Y8/1 釉: 灰白 5Y8/2	口縁部2/12	瀬戸
166	030-02	陶器 鉢	E-G20 SD36	19.6	-	-	内外面: ナデ	やや密	良	橙 2.5Y R6/6	口縁部2/12	常滑
167	029-03	陶器 片口鉢	E-G19 SD36	19.4	-	-	内外面: ロクロナデ、施軸	密	良	素地: 淡黄 2.5Y8/4 釉: 褐 7.5Y R3/4	2/12	美濃
168	030-04	陶器 灯篭具	E-F19 SD36	-	-	7.2	内外面: ロクロケズリ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	底部5/12	美濃
169	036-06	陶器 仏餉具	E-H20 SD36	-	-	5.2	内面: ロクロナデ 外面: 施軸	密	良	素地: 灰白 5Y8/2 釉: 黒褐 10Y R2/3 黒 10Y R1.7/1	底部8/12	瀬戸
170	041-02	陶器 甕	E-H20 SD36	14.0	-	-	内面: ロクロナデ、ユビオサエ 外面: ロクロナデ	やや粗 (~2mm砂粒含む)	良	赤褐 5Y R4/6	口縁部5/12	常滑
171	044-05	陶器 甕	E-G19 SD36	13.4	15.0	11.2	内面: ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ 外面: ヨコナデ	粗 (~2mm砂粒含む)	良	明黄褐 10Y R6/6	5/12	常滑
172	032-04	陶器 甕	E-H20 SD36	15.0	-	15.0	内外面: ヨコナデ、ナデ	やや密	良	明褐 7.5Y R5/6	4/12	常滑
173	070-01	陶器 播鉢	E-G19 SD36	33.4	-	-	内面: ロクロナデ、摺目 外面: ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 (~1mm砂粒含む)	良	素地: 浅黄 2.5Y7/3 釉: にぶい赤褐 5Y R4/3	口縁部1/12 以下	瀬戸
174	069-02	陶器 播鉢	E-H20 SD36	33.3	-	-	内面: ロクロナデ、摺目 外面: ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 (~1mm砂粒含む)	良	素地: 淡黄 2.5Y8/3 釉: 褐 7.5Y R4/3	口縁部2/12	瀬戸

第8表 遺物観察表(4)

報告番号	登録番号	器種	遺構出土位置	最大長口径 (cm)	最大幅器高 (cm)	最大厚その他 (cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
175	069-01	陶器 掃鉢	E-H20 SD36	33.8	13.5	14.3	内面：ロクロナデ、摺目 外面：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕	やや粗（～3mm砂粒含む）	良	素地：にぶい黄橙 10Y R7/3 釉：褐 7.5Y R4/3	4/12	瀬戸
176	070-02	陶器 掃鉢	E-G19 SD36	-	-	-	内面：ロクロナデ、摺目 外面：ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗（～1mm砂粒含む）	良	素地：にぶい黄橙 10Y R7/3 釉：明赤褐 2.5Y R3/4	7/12	瀬戸
177	035-03	陶器 鉢（鉄絵鉢）	E-G20 SD36	33.5	-	-	内外面：施釉	密	良	淡黄 2.5Y8/3	口縁部3/12	瀬戸
178	033-01	陶器 鉢（鉄絵鉢）	E-G20 SD36	35.0	-	17.0	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	淡黄 2.5Y8/4	1/12	瀬戸
179	054-01	五輪塔 火輪	E-G19 SD36	-	-	-	-	-	-	-	-	-
180	067-02	陶器 甕	M11 S Z113	13.6	-	-	内外面：ユビオサエ、ナデ	粗（～5mm砂粒含む）	良	にぶい黄橙 10Y R7/4	口縁部3/12	常滑
181	067-01	陶器 片口鉢	M11 S Z113	-	-	10.0	内面：施釉 外面：施釉、ロクロケズリ、貼り付けナデ	密	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：暗褐 10Y R3/3	底部5/12	瀬戸
182	067-03	陶器 大皿	M11 S Z113	24.0	7.7	14.0	内面：施釉 外面：施釉、貼り付けナデ、ふきとり	密	良	素地：灰白 5Y7/2 釉：灰 7.5Y6/1	口縁部2/12	美濃
183	072-01	土師質 甕	L11 S K115	69.8	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ 外面：ヨコナデ、工具ナデ	密（～5mm砂粒含む）	良	黄 2.5Y8/6	10/12	常滑
184	042-06	土師器 皿	F-D3 S K79	10.0	1.5	-	内面：ナデ 外面：ナデ、ユビオサエ	密	良	淡黄 2.5Y8/4	2/12	S B105
185	038-05	土師器 焙烙	F-D4 P1	30.0	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、貼り付けナデ	やや密	良	橙 5Y R7/6	口縁部1/12	
186	027-06	土師器 皿	C-X5 P1	10.4	1.5	-	内外面：ナデ	密	良	浅黄橙 10Y R8/3	2/12	
187	041-05	土師器 皿	B-U23 P2	9.0	1.45	-	内面：ナデ 外面：ナデ、ユビオサエ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	灰白 10Y R8/1	4/12	
188	041-06	土師器 皿	F-D4 P2	12.4	2.0	-	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	橙 5Y R6/6	2/12	
189	017-03	陶器 小壺	E-B20 P1	4.4	4.3	5.0	内面：施釉 外面：施釉、糸切痕	密	良	素地：にぶい黄橙 10Y R7/4 釉：オリーブ黄 5Y6/3	11/12	瀬戸美濃
190	034-07	陶器 香炉	E-G22 P1	9.8	-	-	内面：施釉、ロクロナデ 外面：施釉、ロクロナデ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	素地：灰黄 2.5Y6/2 釉：オリーブ褐 2.5Y4/6	口縁部3/12	筒形美濃
191	045-02	陶器 片口鉢	B-X25 P1	32.9	-	-	内外面：ユビオサエ後ナデ	やや粗（～3mm砂粒含む）	やや不良	赤褐 5Y R4/8	口縁部2/12	常滑
192	049-03	陶器 片口鉢	B-X25 P1	30.0	-	-	内外面：ナデ	粗	良	明黄褐 10Y R7/6	口縁部1/12	常滑
193	015-03	陶器 甕	E-K24 P1	-	-	-	内外面：ヨコナデ	密	良	にぶい赤褐 5Y R5/3	口縁部小片	常滑
194	071-01	土師質 甕	E-N19 P1	49.4	-	-	内外面：ロクロナデ	やや粗（～4mm砂粒含む）	良	浅黄橙 10Y R8/4	口縁部1/12以下	常滑
195	071-05	土製品 土鏝	E-F24 包含層	3.6×0.8×0.8	-	1.7g	ナデ	やや密（～3mm砂粒含む）	良	橙 7.5Y R6/6		ほぼ完存
196	018-03	土師器 甕	B-T21 包含層	-	-	-	内面：ヨコナデ、ハケ 外面：ヨコナデ、工具痕	粗（～1mm砂粒含む）	良	にぶい橙 7.5Y R7/4	口縁部小片	
197	018-04	灰釉陶器 椀	B-T21 包含層	-	-	6.2	内面：ロクロナデ 外面：貼り付けナデ	密	良	浅黄 2.5Y7/3	底部3/12	内面研磨・東山72号窯式
198	049-02	ロクロ土師器 椀	C-V9 包含層	-	-	7.0	風化のため、磨滅著しい	密	良	橙 7.5Y R6/6	底部6/12	
199	051-05	青磁 椀	B-S24 包含層	-	-	-	内外面：ロクロナデ	密	良	素地：灰白 5Y8/2 釉：薄緑 1.5G8.5/4	口縁部1/12	
200	068-01	青磁 椀	D11 包含層	12.2	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：灰 10Y6/1 釉：オリーブ灰 10Y6/2	口縁部2/12	
201	034-02	青磁 椀	E-J21 包含層	13.0	-	-	内外面：施釉	密	良	オリーブ灰 2.5G Y6/1	口縁部1/12	
202	019-02	陶器 椀（山茶椀）	E-E23 包含層	-	-	6.4	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ、糸切痕	やや密	良	灰白 5Y8/1	底部6/12	尾張型第4型式
203	051-02	陶器 椀（山茶椀）	B-V25 包含層	-	-	6.8	内外面：ロクロナデ	粗（～3mmの小石含む）	良	灰白 5Y7/1	底部1/12	尾張型第6型式
204	018-06	土師器 皿	E-C20 包含層	6.0	1.6	-	内外面：ナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄橙 7.5Y R8/3		ほぼ完存
205	036-02	土師器 皿	E-J21 包含層	10.0	-	-	内外面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10Y R7/3	口縁部2/12	煤付着
206	034-05	土師器 皿	E-I21 包含層	9.8	1.4	-	内外面：ナデ	やや粗（～2.5mmの小石含む）	良	橙 5Y R6/6	2/12	
207	050-02	土師器 皿	B-T22 包含層	10.0	-	-	内外面：ナデ	密	良	明黄褐 10Y R7/6	2/12	
208	020-03	土師器 羽釜	E-L24 包含層	-	-	-	内外面：ヨコナデ、ユビオサエ	やや密（～1mm砂粒含む）	良	にぶい橙 7.5Y R7/3	口縁部小片	外面煤付着 中北勢系土師器
209	020-02	土師器 羽釜	E-M23 包含層	-	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10Y R8/4	口縁部小片	外面煤付着 中北勢系土師器
210	019-05	土師器 羽釜	E-E24 包含層	21.6	-	-	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、ハケ、ケズリ	密	良	橙 5Y R6/6	口縁部3/12	焼成前穿孔2個1対 外面煤付着 中北勢系土師器
211	034-08	土師器 羽釜	E-I21 包含層	13.0	-	-	内外面：ヨコナデ、工具ナデ	やや密（～1.5mmの小石含む）	良	橙 5Y R6/6	口縁部2/12	外面煤付着
212	036-01	土師器 羽釜	E-J21 包含層	24.9	-	-	内外面：ヨコナデ	やや粗（～2mmの小石含む）	良	にぶい黄橙 10Y R6/4	口縁部4/12	中北勢系土師器 外面煤付着
213	037-04	土師器 羽釜	E-I21 包含層	26.6	-	-	内外面：ヨコナデ	やや密（～1.5mmの小石含む）	良	橙 7.5Y R7/6	口縁部2/12	中北勢系土師器 外面煤付着
214	036-04	土師器 羽釜	E-I21 包含層	29.6	-	-	内外面：ナデ	やや密（～1mm小石含む）	良	にぶい黄橙 10Y R6/4	口縁部1/12	中北勢系土師器 外面煤付着
215	037-05	土師器 羽釜	E-I21 包含層	25.7	-	-	内外面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10Y R6/4	口縁部2/12	中北勢系土師器 外面煤付着
216	040-01	土師器 羽釜	E-I21 包含層	26.0	-	-	内面：ヨコナデ、工具ナデ 外面：ヨコナデ、ハケ	やや密（～2mm砂粒含む）	良	橙 5Y R6/8	口縁部2/12	中北勢系土師器
217	037-01	土師器 羽釜	E-I21 包含層	24.7	-	-	内面：ヨコナデ、工具ナデ 外面：ヨコナデ、貼り付けナデ、ハケ	やや密（～1.5mmの小石含む）	良	黄褐 2.5Y5/3	口縁部1/12以下	中北勢系土師器 外面煤付着
218	035-02	土師器 茶釜	E-I22 包含層	12.2	-	-	内面：ヨコナデ、工具ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ後工具ナデ、ケズリ	密	良	橙 5Y R6/6	口縁部4/12	中北勢系土師器 外面煤付着

第9表 遺物観察表（5）

報告番号	登録番号	器種	遺構出土位置	最大長径 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚その他 (cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
219	020-01	瓦質 焙烙	E-L24 包含層	31.9	-	-	内外面：ロクロナデ	密	良	灰 5Y4/1	口縁部2/12	焼成前穿孔2個1対
220	045-01	土師器 焙烙	E-B25 包含層	34.0	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、貼り付けナデ	密	良	橙 5YR7/6	口縁部1/12	
221	071-04	陶器 皿	B-E20 包含層	11.7	3.1	4.2	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、ロクロナデ	密 (～1mm砂粒含む)	良	素地：にぶい橙 7.5YR6/4 釉：灰オリーブ 5Y6/2	3/12	唐津
222	048-05	陶器 皿 (摺絵皿)	C-U3 包含層	12.4	3.2	7.0	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、ロクロナデ	やや密	良	素地：灰白 10YR8/2 釉：灰白5Y7/1 暗オリーブ7.5Y4/3	5/12	美濃
223	071-03	陶器 皿 (志野皿)	B-E20 包含層	9.2	1.8	5.0	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ケズリ	やや密 (～1mm砂粒含む)	良	淡黄 2.5Y8/3	7/12	瀬戸
224	041-03	陶器 皿 (摺絵皿)	E-G23 包含層	12.8	1.6	-	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ	密 (～1mm砂粒含む)	良	灰白 5Y7/2	口縁部2/12	美濃
225	038-06	陶器 皿 (鉄絵皿)	E-G21 包含層	12.2	2.5	7.2	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、削り出し高台	密	良	浅黄 2.5Y7/4	5/12	瀬戸
226	022-03	陶器 皿	E-M23 包含層	10.5	2.1	6.0	内面：施軸、ロクロナデ 外面：施軸、ロクロナデ	やや粗 (～1mm砂粒含む)	良	浅黄 2.5Y7/3	底部5/12	美濃
227	040-05	陶器 皿 (折絵皿)	F-B8 包含層	11.6	2.6	6.0	内面：施軸、ロクロナデ 外面：施軸	やや密	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：浅黄 5Y7/3	3/12	瀬戸美濃
228	019-03	陶器 皿 (鉄絵皿)	E-O25 包含層	12.4	2.5	7.4	内面：施軸 外面：施軸、貼り付け高台	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：オリーブ灰 5Y5/3 灰白 5Y7/2	3/12	瀬戸
229	031-02	陶器 灯明皿	E-K20 包含層	9.1	2.6	3.6	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、削り出し高台	密	良	素地：灰 5Y6/1 釉：オリーブ褐 2.5Y4/3	7/12	美濃
230	030-01	陶器 皿 (輪軸皿)	E-G22 包含層	-	-	6.0	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、貼り付けナデ	やや密	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：淡黄 5Y8/2	底部8/12	瀬戸
231	019-01	陶器 皿 (輪軸皿)	E-K22 包含層	-	-	5.5	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、削り出し高台	密	良	素地：灰白 5Y7/2 釉：灰白 5Y8/1	底部完存	瀬戸
232	038-01	陶器 皿 (志野皿)	F-D3 包含層	17.0	2.3	6.2	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y7/2	3/12	瀬戸
233	022-05	陶器 小杯	F-G1 包含層	6.5	-	-	内外面：施軸	密	良	淡黄 2.5Y8/3	口縁部2/12	美濃
234	022-04	陶器 椀	F-I1 包含層	9.0	-	-	内外面：施軸	やや密 (～1mm砂粒含む)	良	素地：5Y8/1 釉：褐 7.5YR4/3	口縁部2/12	瀬戸
235	031-05	陶器 椀 (湯呑)	E-F20 包含層	9.0	5.2	3.6	内面：施軸 外面：施軸、貼り付けナデ、ロクロナデ	やや密	良	浅黄 2.5Y7/4	5/12	瀬戸
236	022-01	陶器 椀 (湯呑茶椀)	F-F1 包含層	10.5	-	-	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、ロクロナデ	やや密 (～1mm砂粒含む)	良	素地：灰白 2.5Y8/2 釉：暗オリーブ褐 2.5Y3/3	2/12	美濃
237	048-08	陶器 椀 (天目茶椀)	E-B25 包含層	-	-	4.7	内面：施軸 外面：施軸、貼り付けナデ	密	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：暗褐 10YR3/3 にぶい赤褐 5YR4/4	底部8/12	瀬戸美濃
238	018-05	陶器 香炉	E-A23 包含層	10.2	5.2	6.4	内面：施軸、ロクロナデ 外面：施軸、ロクロナデ、削り出し高台	密	良	素地：灰白 2.5Y8/2 釉：灰白 N8/	底部完存	美濃
239	031-03	陶器 香炉	E-I21 包含層	11.0	5.8	5.4	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、貼り付けナデ	やや密	良	浅黄 2.5Y7/4	2/12	筒形美濃
240	049-01	陶器 香炉	B-S24 包含層	-	-	-	内面：施軸、ロクロナデ 外面：施軸、ロクロナデ、ロクロナデ	やや密 (～1mm砂粒含む)	良	素地：浅黄 2.5Y7/4 釉：褐 10YR4/4 にぶい赤褐2.5YR4/4	底部2/12	筒形美濃
241	044-04	陶器 小壺	C-U3 包含層	-	-	5.0	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ、糸切痕	密	良	素地：浅黄 2.5Y7/3	底部6/12	漆入れ
242	021-03	陶器 鉢	E-L24 包含層	-	-	-	内外面：施軸	やや密 (～2mm砂粒含む)	良	素地：浅黄 2.5Y7/3 釉：灰白 5Y8/2	底部1/12	瀬戸
243	018-07	陶器 鉢	E-C21 包含層	12.0	-	-	内外面：施軸	密	良	素地：灰黄 2.5Y6/2 釉：にぶい褐 7.5YR5/4	口縁部5/12	美濃
244	038-02	陶器 蓋物身	C-V8 包含層	-	-	6.0	内面：ロクロナデ 外面：施軸、ロクロナデ	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：淡黄 2.5Y8/3	底部6/12	瀬戸
245	042-02	陶器 灯明受皿	E-F20 包含層	11.0	1.9	-	内外面：施軸	密	良	素地：灰黄 2.5Y6/1 釉：黄褐 10YR5/6	ほぼ完存	美濃
246	020-06	陶器 鉢	E-M23 包含層	13.0	-	-	内外面：ヨコナデ	やや粗 (～2mm砂粒含む)	良	にぶい褐 7.5YR5/3	口縁部1/12	常滑
247	022-02	陶器 鉢 (輪軸鉢)	E-M23 包含層	-	-	7.8	内面：施軸 外面：ロクロナデ、ロクロナデ	やや密 (～1mm砂粒含む)	良	灰白 2.5Y8/2	底部7/12	瀬戸
248	028-06	陶器 桶	E-G20 包含層	-	-	10.8	内面：ロクロナデ、施軸 外面：ロクロナデ、施軸、貼り付け高台	やや粗 (～2.5mmの小石含む)	良	素地：浅黄 2.5Y7/4 釉：暗褐 7.5YR3/4	底部3/12	古瀬戸後期IV期
249	020-05	陶器 甕	E-L24 包含層	10.2	-	-	内面：ロクロナデ、ユビオサエ後ヨコナデ 外面：ロクロナデ	やや粗 (～3mm砂粒含む)	良	灰褐 7.5YR4/2	口縁部2/12	常滑
250	030-07	陶器 徳利	E-I21 包含層	-	-	6.8	内外面：施軸、ロクロナデ	密	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：灰白 7.5Y7/1	底部5/12	美濃
251	028-03	陶器 鉢鉢	E-G21 包含層	-	-	11.6	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ	密	良	素地：浅黄 2.5Y7/4 釉：オリーブ黄 5Y6/3	底部3/12	瀬戸
252	019-04	陶器 甕	E-L24 包含層	14.4	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ	やや密 (～2mm砂粒含む)	良	にぶい赤褐 5YR5/4	頸部1/12	常滑
253	021-02	陶器 甕	E-M23 包含層	12.0	-	-	内外面：ロクロナデ	やや密 (～1mm砂粒含む)	良	にぶい橙 5YR6/4	口縁部2/12	常滑
254	037-02	陶器 甕	E-I21 包含層	-	-	14.0	内外面：施軸、ロクロナデ	やや密 (～1mmの小石含む)	良	素地：灰白 5Y7/2 釉：にぶい赤褐 2.5YR4/4	底部2/12	信楽
255	020-04	陶器 片口鉢	E-M23 包含層	31.8	-	-	内外面：ユビオサエ後ナデ	やや粗 (～2mm砂粒含む)	軟	浅黄橙 7.5YR8/6	口縁部1/12	常滑
256	021-01	陶器 掃鉢	E-L24 包含層	-	-	14.3	内面：指目 外面：ロクロナデ、ナデ	やや粗 (～3mm砂粒含む)	良	にぶい赤褐 5YR4/3	底部1/12	瀬戸
257	065-01	陶器 掃鉢	E-G19 包含層	35.6	-	-	内面：指目 外面：ロクロナデ後施軸	密	良	素地：浅黄 2.5Y7/3 釉：褐 7.5Y4/4	口縁部2/12	瀬戸 窯刻印有り
258	043-03	陶器 加工円盤	C-U3 包含層	3.2× 3.2× 1.35	-	14.72	-	密	良	橙 2.5Y6/6	完存	常滑鉢転用
259	034-04	陶器 加工円盤	E-K20 包含層	4.5× 4.4× 1.4	-	24.09	-	やや密	良	浅黄橙 10YR8/4	完形	土師質製の転用
260	018-08	陶器 甕	E-E24 包含層	-	-	-	内面：ロクロナデ、ユビオサエ後ナデ 外面：ロクロナデ	やや粗 (～1mm砂粒含む)	良	褐灰 5YR4/1	口縁部小片	常滑
261	050-01	陶器 甕	C-X7 包含層	-	-	16.0	内外面：ユビオサエ後ナデ	粗	良	暗赤褐 10R6/12	底部6/12	信楽

第10表 遺物観察表 (6)

報告番号	登録番号	器種	遺構出土位置	最大長径(cm)	最大幅高(cm)	最大厚その他(cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
262	029-05	磁器 椀	E-G19 石列除去	-	-	4.6	内外面：施釉	密	良	白地に藍	底部5/12	肥前
263	062-03	土師器 皿	E-M16 トレンチ	9.8	1.6	-	内外面：ユビオサエ後ナデ	密	良	浅黄橙 10Y R8/3	1/12	
264	053-06	陶器 皿 (輪赤皿)	東壁	14.8	2.4	7.8	内面：ロクロナデ、施釉 外面：施釉、貼り付けナデ、ロクロナデ	密 (~1.5mmの小石含む)	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：灰白 5Y8/2	口縁部1/12	瀬戸
265	038-03	陶器 鉢 (鉄絵鉢)	E-G19 トレンチ	22.9	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：灰白 5Y7/2 釉：浅黄 5Y7/3 暗オリーブ灰5GY4/1	2/12	美濃 黄瀬戸系
266	046-03	陶器 皿 (輪赤皿)	C-X10 試掘坑	13.7	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：灰白 2.5Y8/3 釉：灰白 2.5Y8/2	口縁部2/12	瀬戸
267	053-07	陶器 皿 (志野皿)	C-X10 試掘坑	11.4	2.1	7.0	内外面：施釉	密	良	灰白 2.5Y8/2	3/12	瀬戸
268	067-04	陶器 皿 (鉄絵皿)	M11 カクラン	12.2	2.5	6.6	内外面：施釉	密	良	素地：浅黄 2.5Y7/3 釉：灰白 5Y8/2 黒褐 10Y R3/2	3/12	瀬戸
269	051-03	陶器 椀 (掛分茶椀)	F-B4 カクラン溝	-	-	3.8	内面：施釉 外面：施釉、ロクロケズリ	密	良	素地：灰白 5Y8/2 釉：灰白 5Y7/2 黒褐 10Y R3/1 オリーブ黒 5Y3/1	底部充存	美濃
270	037-03	陶器 平椀	E-H20 カクラン	-	-	5.0	内外面：施釉、ロクロナデ	密	良	素地：オリーブ黄 5Y6/3 釉：灰オリーブ 5Y5/2	底部充存	瀬戸 高台部研磨
271	042-05	陶器 椀 (湯呑)	F-B2 カクラン	10.0	6.0	4.0	内面：施釉 外面：施釉、ロクロナデ	やや密 (~2mm砂粒含む)	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：暗褐 7.5Y R3/4 黒 7.5Y R2/1	2/12	瀬戸
272	043-01	陶器 片口鉢	F-B4 カクラン溝	-	-	8.6	内面：施釉 外面：施釉、ロクロナデ	密	良	素地：淡黄 2.5Y8/3 釉：オリーブ褐 2.5Y4/6	底部充存	美濃
273	028-04	磁器 椀	E-J21 東側壁	10.0	-	-	内外面：施釉	密	良	白地に藍	口縁部2/12	肥前
274	057-01	石臼	C-W10 カクラン	-	-	-	-	-	-	-	-	-
275	060-04	陶器 椀 (山茶椀)	表採	-	-	7.6	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付け高台、糸切痕	密	良	灰白 5Y7/1	底部4/12	尾張型第3型式
276	060-03	灰釉陶器 椀	表採	-	-	7.6	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付け高台、糸切痕	密	良	黄灰 2.5Y6/1	底部3/12	黒笹90号～折戸53号窯式
277	024-01	土師器 羽釜	表土	18.1	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ 外面：ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙 10Y R6/4	口縁部5/12	焼成前穿孔2個1対 中北勢系土師器
278	023-02	土師器 羽釜	表土	21.6	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケ	やや密 (~6mm砂粒含む)	良	橙 5Y R6/6	口縁部1/12	穿孔1個 外面煤付着 中北勢系土師器
279	024-03	土師器 羽釜	表土	24.0	-	-	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	やや密 (~4mm砂粒含む)	良	にぶい橙 5Y R7/4	口縁部1/12	外面煤付着 中北勢系土師器
280	023-01	土師器 羽釜	表土	28.1	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ、ケズリ 外面：ヨコナデ、貼り付けナデ、ユビオサエ後ハケ	やや粗 (~3mm砂粒含む)	良	にぶい赤褐 5Y R5/4	口縁部1/12	外面煤付着 中北勢系土師器
281	025-07	土師器 皿	表土	7.5	1.1	-	内外面：ユビオサエ、ナデ	密	良	にぶい黄橙 10Y R6/4	口縁部1/12	
282	068-02	陶器 椀 (山茶椀)	表土	-	-	7.6	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、貼り付けナデ、糸切痕	密	良	灰白 2.5Y7/1	底部2/12	尾張型第4型式
283	025-06	陶器 椀 (天目茶椀)	表土	-	-	4.0	内面：施釉 外面：施釉、ロクロケズリ、削り出し高台	密	良	素地：浅黄 2.5Y7/3 釉：黒褐 10Y R2/2	底部充存	美濃
284	025-04	陶器 皿	表土	11.0	3.1	4.8	内面：施釉 外面：施釉、ロクロナデ	密	良	素地：灰褐 7.5Y R5/3 釉：灰 7.5Y6/1	8/12	唐津
285	052-01	陶器 小皿 (御深井皿)	表土掘削	-	-	7.2	内外面：施釉	密	良	素地：にぶい黄 2.5Y6/3 釉：灰白 7.5Y7/2	底部3/12	美濃
286	036-03	陶器 皿 (摺絵皿)	表土掘削	-	-	6.6	内外面：施釉、ロクロナデ	やや粗 (~3mm小石含む)	良	黄褐 2.5Y5/3	底部ほぼ充存	瀬戸
287	040-03	陶器 丸皿	表土掘削	12.0	2.2	5.8	内外面：施釉、ロクロナデ	やや密	良	素地：灰黄 2.5Y6/2 釉：灰オリーブ 5Y6/2	4/12	美濃 高台部研磨
288	028-05	陶器 片口	A地区 表土掘削	-	-	5.4	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、施釉	やや密 (~1mm砂粒含む)	良	素地：浅黄 2.5Y7/4 釉：にぶい黄 2.5Y6/4	底部充存	美濃
289	040-04	陶器 皿 (輪赤皿)	表土掘削	10.2	2.0	5.2	内面：施釉、ロクロナデ 外面：施釉	密	良	素地：灰白 10Y R8/2 釉：灰オリーブ 7.5Y5/3 灰白 7.5Y7/2	4/12	瀬戸美濃
290	025-02	陶器 皿	表土	11.8	2.2	6.2	内面：施釉 外面：施釉、ロクロケズリ、削り出し高台	密	良	素地：灰黄 2.5Y6/2 釉：灰黄 2.5Y7/2	口縁部1/12	美濃
291	028-02	陶器 盃台	A地区 表土掘削	12.0	1.95	-	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、施釉	密	良	素地：にぶい黄褐 10Y R5/3 釉：オリーブ褐 2.5Y4/6	口縁部2/12	美濃
292	068-04	土師器 焙烙	表土	31.6	-	-	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	密	良	橙 5Y R6/6	口縁部2/12	中北勢系土師器 外面煤付着
293	068-03	土師器 焙烙	表土	29.8	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ケズリ、ナデ	密	良	橙 7.5Y R6/6	口縁部1/12	中北勢系土師器 外面煤付着
294	028-01	土師器 焙烙	A地区 表土掘削	29.6	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、貼り付けナデ	やや密 (~1.5mmの小石含む)	良	にぶい黄橙 10Y R6/3	口縁部1/12	外面煤付着
295	039-04	土師器 焙烙	表土掘削	29.6	-	-	内外面：ロクロナデ	密	良	橙 7.5Y R7/6	口縁部1/12	
296	026-01	陶器 片口鉢	表土	-	-	-	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ	やや粗 (~7mm砂粒含む)	良	にぶい褐 7.5Y R5/4	口縁部小片	常滑
297	025-08	陶器 片口鉢	表土	-	-	-	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、ナデ	やや粗 (~1mm砂粒含む)	良	明赤褐 5Y R5/6	口縁部小片	常滑
298	025-01	陶器 片口鉢	表土	14.9	-	-	内外面：施釉	密	良	素地：黄褐 2.5Y5/6 釉：灰白 5Y7/1	口縁部1/12	瀬戸
299	036-05	陶器 甕	表土掘削	-	-	11.2	内外面：施釉、ロクロナデ	密	良	素地：浅黄橙 10Y R8/3 釉：灰白 7.5Y7/1	底部2/12	信楽
300	043-05	陶器 甕	表土	21.8	-	-	内外面：ロクロナデ	密	良	にぶい赤褐 2.5Y R5/4	口縁部1/12	常滑
301	058-01	石臼	表土掘削	-	-	-	-	-	-	-	-	-
302	059-06	土師器 皿	T1 包含層	-	-	-	内外面：ナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄橙 7.5Y R8/3	2/12	
303	016-05	陶器 皿 (鉄絵皿)	T1 SK1	11.8	2.6	7.2	内外面：施釉	密	良	灰白 2.5Y8/2	4/12	瀬戸
304	015-02	陶器 片口鉢	T1 SK1	29.6	-	-	内面：使用による磨耗 外面：ヨコナデ、工具ナデ	密	良	橙 7.5Y R7/6	口縁部2/12	常滑片口鉢
305	016-03	土師器 皿	T2 包含層	12.0	2.0	-	内外面：ヨコナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄橙 10Y R8/3	口縁部3/12	

第11表 遺物観察表(7)

報告番号	登録番号	器種	遺構出土位置	最大長口径 (cm)	最大幅器高 (cm)	最大厚その他 (cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
306	016-04	陶器 椀 (天目茶椀)	T 2 包含層	10.4	—	—	内面：施軸 外面：施軸、ロクロケズリ	密	良	素地：灰白 2.5Y8/2 釉：黒 2.5Y2/1	口縁部2/12	瀬戸美濃
307	017-01	陶器 花瓶	T 2 包含層	—	—	—	内外面：施軸	密	良	灰白 7.5Y8/2	体部3/12	美濃
308	059-02	陶器 片口鉢	T 2 SK 1	40.8	—	—	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、板ナデ、ユビオサエ	密	良	赤灰 2.5Y R5/1	口縁部1/12	常滑
309	059-01	陶器 甕	T 2 SK 1	38.0	—	—	内外面：ヨコナデ	密	良	黒褐 10Y R3/1	口縁部1/12	常滑
310	016-02	土師器 皿	T 3 SK 1	10.8	1.5	—	内外面：ヨコナデ、ユビオサエ	やや密	やや良	灰白 2.5Y8/1	5/12	
311	018-02	陶器 皿 (志野丸皿)	T 3 包含層	11.3	2.5	6.2	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	素地：灰白 7.5Y8/1 釉：灰白 5Y8/1	6/12	瀬戸
312	017-04	陶器 汁注	T 3 包含層	—	—	5.0	内外面：施軸	密	良	素地：灰オリーブ 5Y6/2 釉：灰白 7.5Y7/1	底部完存	織部
313	017-02	陶器 花瓶	T 3 包含層	—	—	—	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ	密	良	素地：にぶい橙 7.5Y R7/4 釉：黄褐 10Y R5/6	体部6/12	美濃
314	018-01	陶器 片口鉢	T 3 包含層	—	—	—	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、ナデ	やや密 (～5mm砂粒含む)	良	にぶい橙 5Y R6/4	口縁部小片	常滑
315	015-04	陶器 鉢	T 3 SD 2	—	—	—	内外面：ロクロナデ	やや密 (～3mmの小石含む)	良	にぶい橙 5Y R6/3	口縁部小片	常滑
316	059-05	土師器 羽釜	T 4 SD 2	—	—	—	内面：ヨコナデ、工具ナデ 外面：ヨコナデ、ハケ	密	良	橙 5Y R6/6	口縁部小片	中北勢系土師器
317	059-04	土師器 羽釜	T 4 SK 2	—	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ	密	良	灰黄 2.5Y7/2	口縁部小片	中北勢系土師器
318	061-02	土師器 羽釜	T 4 SD 2	23.6	—	—	内外面：ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10Y R6/3	口縁部2/12	中北勢系土師器 外面煤付着
319	024-02	土師器 羽釜	T 4 表土	23.6	—	—	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、ハケ	やや密 (～2mm砂粒含む)	良	橙 5Y R6/6	口縁部2/12	焼成前穿孔1個残 中北勢系土師器
320	061-03	土師器 羽釜	T 4 SD 2	18.0	—	—	内外面：ヨコナデ	密	良	明赤褐 5Y R5/6	口縁部2/12	中北勢系土師器 外面煤付着
321	060-02	土師器 羽釜	T 4 包含層	20.8	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ、ハケ	密	良	にぶい黄橙 10Y R7/2	口縁部2/12	中北勢系土師器 外面煤付着
322	061-04	陶器 椀 (天目茶椀)	T 4 包含層	11.6	—	—	内面：施軸 外面：施軸、ロクロナデ	密	良	素地：にぶい褐 7.5Y R5/3 釉：にぶい黄褐 10Y R5/3	口縁部3/12	
323	025-05	陶器 皿	T 4 表土	—	—	7.6	内面：施軸 外面：施軸、ロクロケズリ、貼り付け高台	密	良	素地：灰白 7.5Y7/1 釉：灰白 7.5Y7/2	底部2/12	美濃
324	025-03	陶器 片口鉢	T 4 表土	—	—	9.4	内面：施軸 外面：施軸、削り出し高台	密	良	素地：灰白 7.5Y7/1 釉：灰オリーブ 7.5Y R6/2	底部5/12	美濃
325	061-05	陶器 播鉢	T 4 SX 1	—	—	—	内外面：ロクロナデ	密	良	にぶい赤褐 5Y R5/4	口縁部小片	瀬戸
326	061-01	陶器 甕	T 4 SK 2	22.0	—	—	内面：ユビオサエ、ナデ 外面：ヨコナデ	密	良	灰褐 7.5Y R4/2	口縁部1/12	常滑
327	026-02	陶器 甕	T 4 表土	39.0	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ 外面：ヨコナデ	やや粗 (～2mm砂粒含む)	良	灰褐 7.5Y R4/2	口縁部2/12	常滑
328	062-02	土師器 焙烙	T 5 包含層	—	—	—	内外面：ヨコナデ	やや密 (～1mm砂粒含む)	良	にぶい黄橙 10Y R7/3	口縁部小片	外面煤付着
329	024-05	土師器 羽釜	T 5 表土	23.8	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケ 外面：ヨコナデ、ユビオサエ後ハケ	密	良	浅黄 2.5Y7/3	罅部1/12	中北勢系土師器
330	062-01	陶器 椀 (湯呑)	T 5 包含層	—	—	5.2	内面：施軸 外面：施軸、ケズリ	やや粗 (～2mm砂粒含む)	良	灰白 2.5Y8/2	底部7/12	瀬戸
331	024-04	土師器 羽釜	T 6 包含層	23.8	—	—	内面：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 外面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10Y R7/3	罅部1/12	外面煤付着 中北勢系土師器
332	060-01	土師器 皿	T 11 黒褐色粘質土	8.0	1.4	—	内外面：ナデ、ユビオサエ	密	良	浅黄橙 10Y R8/4	3/12	
333	059-03	陶器 皿 (折縁皿)	T 11 SD 2	12.0	3.0	5.8	内面：施軸 外面：施軸、削り出し高台	密	良	素地：にぶい黄橙 10Y R7/2 釉：浅黄 5Y7/3	10/12	

第12表 遺物観察表 (8)

V 自然科学分析 小社遺跡の寄生虫卵分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

小社遺跡において近世の便槽と推測される甕が出土した。この推測の妥当性を判断する目的で寄生虫卵分析を行った。

2 試料と分析方法

分析試料は、L11区SK115から出土した土師質甕内から採取された砂礫混じりオリブ黒色(5Y3/2)シルト2点(上層、底部)である。これらの試料について、以下の手順にしたがって寄生虫卵分析を試みた。

乾燥させ計量した試料に10%の水酸化カリウム溶液を加え、10分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、この残渣に適量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

$$X = BD/AC$$

X: 試料1g中の寄生虫卵含有数、A: 分析に用いた試料の重量(g)、B: 濃縮試料+グリセリンの重量(g)、C: 濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D: プレパラート中の寄生虫卵数

3 分析結果

計量し、検鏡した結果を第13表に示す。プレパラート全面を検鏡した結果、寄生虫卵は1個体も検出されなかった。なお、プレパラート全面を検鏡する間に検出された花粉を第14表に示す。

4 考察

上記したように今回の分析試料には寄生虫卵は含まれていなかった。寄生虫卵はキチン質の卵殻をも

つが、湿乾を繰り返す環境や乾燥した環境で分解される(金原, 2004)。そのため、寄生虫卵が検出されない理由としては、分析試料が酸化的環境に晒された状況に置かれていたため、寄生虫卵が分解された可能性が挙げられる。また、第14表で示したように花粉も十分な量が含まれておらず、残存状況が良好とはいえない。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境に堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境や保存環境では花粉化石が残りにくい。このように花粉の残存状況からも分析試料が酸化的環境に晒されていたと推測できる。また、寄生虫卵が検出されない理由については上記した事柄以外に、もともと含まれていなかった状況などが考えられるが、いずれにしろ、今回の分析結果から甕が便槽である可能性について言及するのは難しい。

【引用文献】

金原正明(2004) 寄生虫卵分析. 安田喜憲編「環境考古学ハンドブック」: 419-429, 朝倉書店.

第13表 寄生虫卵分析に用いた試料の計量値

	上層	底部
分析に用いた試料(g)	3.7554	3.2516
残渣+グリセリン(g)	0.9029	1.0144
封入に用いた量(g)	0.0573	0.0800
寄生虫卵個数	0	0

第14表 産出花粉孢子一覧表

学名	和名	上層	底部
樹木			
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	6	2
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	1	3
<i>Carpinus-Ostrya</i>	クマンデ属-アサダ属	1	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	5	5
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	-	1
<i>Castanea</i>	クリ属	1	-
<i>Ilex</i>	モチノキ属	1	-
草本			
Gramineae	イネ科	12	8
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	-
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	-
Leguminosae	マメ科	1	-
<i>Haloragis</i>	アリノトウグサ属	-	1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	1
<i>Tubuliflorae</i>	キク亜科	-	1
シダ植物			
monolete type spore	単条溝孢子	10	6
trilete type spore	三条溝孢子	16	3
Arboreal pollen	樹木花粉	16	11
Nonarboreal pollen	草本花粉	15	11
Spores	シダ植物孢子	26	9
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	57	31
unknown	不明	1	2

VI まとめ

出土遺物は、縄文時代から江戸時代まで多岐にわたる。遺構は区画溝・土坑・井戸があり、室町時代から江戸時代が中心である。以下、時代順に遺跡全体をまとめていきたい。

1 縄文時代

遺物には石鏃1点(1)があるが、遺構はない。

2 弥生時代

前期の土器が1点(2)、中期土器が1点(3)出土したが遺構はない。

3 平安時代

灰釉陶器碗・皿やロクロ土師器が出土している。遺構は、土坑を1基確認した。

4 鎌倉時代

山茶碗が出土しており、判別はつかないが検出した遺構の中にはこの時期からはじまるものもあろう。

5 室町時代～江戸時代

遺構は、区画溝・土坑・井戸・中世墓があり、遺物には瀬戸・美濃産陶器、貿易陶磁器、土師器などがある。遺構・遺物共に当該時期のものが中心である。本遺跡が集落として形成されたのは、この時期といってよいであろう。

(1) 遺構

a 屋敷地

区画溝SD5・6・7・8・13・15・31・44・47・48・50・55・80・93・96によって長方形ないし正方形の区画が形成されている。

屋敷地1 区画は、溝SD7・8・44・47・48で形成される。中世墓や区画内に柱穴が多くみられることから屋敷地と推測される。規模は、東西約20m・南北約23mのやや不整形な長方形である。

屋敷地2 屋敷地1の東側で、溝SD80・93・96によって区画が形成される。この区画内には、方形土坑が2基みられることから、屋敷地と推測される。

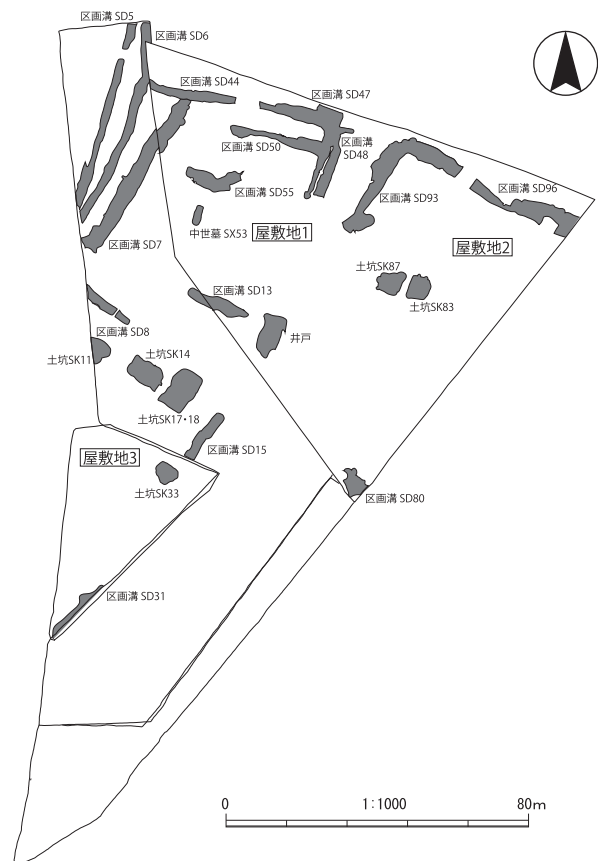
規模は、南北約40m・東西約25mの長方形である。

屋敷地3 屋敷地1の南側で、溝SD8・15・31によって区画が形成される。この区画内には、方形土坑を4基確認している。規模は、南北約40m前後・東西約23m以上とみられる。

屋敷地3の東側は遺構が希薄なため、断定できないが、その南側で掘立柱建物を検出していることから、別の屋敷地が存在していた可能性が考えられる。

屋敷地1と2の間には4mの空地があり、その部分について道路と推測した。なお、第一次調査の結果から西側には遺構を確認できなかったことで溝SD5が集落全体と集落外を分けているとみられる。

これらの屋敷地は、区画溝の埋没時期や出土遺物全てを考慮するとほぼ同時期に存在したと考えられる。また、溝の方位は、全体的に北から東に15～17°前後に振れているため、地形に沿って形成された集落と言えそうである。



第29図 遺跡概略図

さて、このような溝によって区画された屋敷地が、城館に発展していったとも考えられる。当初は、溝による区画は、溝の掘削土によって小さい土塁状遺構を生み出して、その区画が集合して集落を形成していったとみられる。城館は、この区画内の中で有力者だけが区画溝を広く且つ深く掘削することで、より強固な防御性を持つ屋敷地を築いたと想定できるのではなかろうか。

この小社遺跡では、城館に発展しなかったものの、鍋川右岸に存在する小岐須城跡は、鍋川や安楽川によって形成された谷を利用する方法で城館が築かれたとみられる。本遺跡から北側に位置する山本城跡は、小高くなった開析扇状地の尾根上に築かれて、周囲は集落が形成されている。本遺跡では、城館になるための地形的陰阻さに欠けていたことが考えられる一方、区画を形成した集落に有力者を持たなかったことも考えられる。

最後に、溝S D32・36・石列S Z37・113は、水田や畑地のための土止めの石垣群や用水路とみられる。江戸時代以降には、石垣を利用した棚田が広がっていったとみられる。

b 方形土坑

方形土坑S K11・14・18・33・83・87・石列S Z112を確認している。土坑の中には、底辺に四角く石によって組まれているものもあり、基盤層の高さまで石組がなされていたと推測される。周囲に柱穴をもたない堅穴建物とも考えられるが、堅穴建物とした場合は全てC類に属しているとみられる^①。

変遷順序は、出土遺物から土坑S K14⇒土坑S K18⇒土坑S K11（屋敷地3）、土坑S K83⇒土坑S K87（屋敷地2）とみられる。

屋根・壁・石組基礎によってなる堅穴建物については鍛冶工房ないし倉の可能性を示唆する研究がある^②。今回の調査でも、周辺遺構や方形土坑から遺物に金属製品が出土しているため、これら一連のものは鍛冶工房の建物と推測することもできる。

なお、隣接する山本町・大久保町には、小字名で鍛冶垣内や鍛冶屋垣内が存在する。これは、集落単位で鍛冶が行われていたことを示しているのではなかろうか。

c 中世墓

中世墓S X53を確認している。出土遺物には、土師器皿（4～10）・天目茶碗（11）がある。規模は、長辺2.65m・短辺0.98m・深さ0.25mで、木棺墓の可能性はある。

この中世墓は、屋敷地1の敷地内に設けられている。鍛冶工房と推測される方形土坑が屋敷地1内に存在しないことや、柱穴が集中して建物としてまとまりをみせており母屋的な建物があった可能性がある。これらから屋敷地1が集落の中心であったと考えておきたい。

d 井戸

井戸S E64・104の2基を確認している。S E64は単独であるが、S E104は土坑S K72を伴って検出された。井戸に土坑が付く例は、三重県亀山市金森遺跡S K125・S K123がある^③。

e 畝間溝群

屋敷地2では、溝S D81・90・S K61・63などの畝間溝（耕作するために掘削された溝）が複数条、確認された。屋敷地内において耕作がされて何らかの生産物があったとみられる。なお、周辺の菰野町大久保遺跡^④における自然科学分析では、イネ科の植物花粉が多くみられることから、当遺跡でもイネ科の植物を栽培することに力が注がれていたのかもしれない。

（2）遺物

a 貿易陶磁器

青磁碗が2点（199・200）あり、共に口縁部に雷文が施されている。三重県内の出土例は、鈴鹿市郡山遺跡群^⑤と松阪市出間町服部遺跡^⑥（報告番号40・41）の中世墓や松阪市小津町小津遺跡^⑦（報告番号891・1415）の溝からのものがある。

出土した青磁雷文碗は、15世紀中葉前後のものと判断しており、これまで国内の出土例では、近畿域の紀淡海峡を中心とした地域で多く出土が認められる^⑧。そのため、本遺跡と、どの様なルートでの繋がりがあったのか、興味深い。

次に、室町時代後期の貿易陶磁器を2点（30・50）確認した^⑨。1点は白磁碗、もう1点は染付皿で共に中国明代の景德鎮のものである。2点確認できたことは、当遺跡の流通を考えるうえで重要である。

b 中北勢系土師器群

本遺跡で出土した中北勢系土師器^㉑は、16世紀後葉を中心として出土している。なお、中北勢系土師器と対照される南伊勢系土師器は、本遺跡からは、数点しか出土していない。

土師器羽釜は、総数42点（実測点数）出土した。口縁部の形状は、上部につまみあげられるもの、外方に引き出されるもの、平坦面をもつものがあり、伊藤編年のⅠb段階からⅡb段階の範囲内とみられる。個別遺構からの出土は、少ないため変遷を追うことは難しい。

土師器茶釜（22・23・218）は、3点出土した。津市安濃津遺跡^㉒（報告番号621）、津市南所遺跡^㉓（報告番号39）、四日市市中尾山遺跡^㉔（報告番号14）、津市雲出島貫遺跡^㉕（228）、津市六大B遺跡A地区^㉖（報告番号400）出土のものとはほぼ同系譜である（第31図）。

出土例からの変遷は第31図に示すが、器形の変化は、体部が球形のものから円み帯びた楕円形状に変化し、中尾山遺跡の様なややいびつな形状をしてバリエーションが豊かになり、また球形状に戻る。本遺跡出土の茶釜は、16世紀後葉と判断される。

また、伊藤氏の研究の中で中北勢系土師器羽釜は、「金属器模倣という要素は希薄であること」と「国人領主である長野・関氏の関与した可能性がある」という指摘があり、唐突に出現した土器群である。

こうしてみると金属器の鍋・羽釜が本遺跡で出土していないことによってその証明がなされているのではなかろうか。

c 焙烙

中北勢系土師器羽釜の系統を引くと考えられる焙烙^㉗は、焼成の質的に土師器・瓦質の2つに分類される。本遺跡では、土師器焙烙（148・185・220・292～294）が6点、瓦質焙烙（219）が1点出土している。

土師器焙烙は、亀山市山城遺跡^㉘（報告番号419）・亀山市正知浦遺跡^㉙（報告番号634・692・693・694）・亀山市糶屋垣内遺跡^㉚（報告番号131）・津市六大B遺跡A地区^㉛（報告番号66・154）・津市大石遺跡^㉜（報告番号361）・津市下川遺跡^㉝（報告番号89・90）・松坂市市場庄遺跡^㉞（報告番号537・572）の7遺跡13例がある。（第30・32図）

瓦質焙烙は、津市森山東遺跡^㉟（報告番号282）・津市六大B遺跡B～I地区^㊱（報告番号207・208・396～399・431・432・1658）・津市安濃津遺跡^㊲（報告番号1676・1712）・津市雲出島貫遺跡^㊳（報告番号140・219・243・279・326・453）・松阪市筋違遺跡^㊴（報告番号236）・志摩市真名井神社裏包含地^㊵（報告番号45）の6遺跡20例がある。

17世紀から19世紀に至る大まかな変遷概念を第32図に示した。

土師器のものは、17世紀に入って焙烙へと変化したと考えられる。出現時期が微妙に遅れる瓦質のものは、土師器のものから発展したと考えてよい。

器形変遷は、中北勢系土師器羽釜の口縁部から口を広げて、体部は球形であったものがレンズ形になくなっていき、器高が浅くなる変化を示す。

円孔は、2個1対のものから、1個1対になり、最終的には、貫通しなくなるものである。あるいは、円孔そのものが消失する。

また、鏝部は、翼状に付くものから四角く貼り付けられたもの（下川遺跡報告番号89・90）の様になり、最終的には、本報告書の報告番号295のような形に変化していくと考えられる。

鏝部の機能は、形骸的な部分もあろうが、鏝部下部までに煤が付くものと口縁部まで煤が付くものがあるため、手に火傷を負わないような工夫とみなすことができるのではなかろうか。

他にも中北勢系土師器とは異なるものが4点ある（49・140・149・328）。49・140は、口縁部が内側に屈曲する尾張産^㉞のものである。149は、口縁部が緩やかな逆「く」の字形をしており、畿内系土師器焙烙^㉟の可能性が高い。328は、口縁部が逆「く」の字形をしているが、先端部分は丸くまとめられ、内側に耳が付いていた痕跡を留める。中北勢系土師器内耳鍋から焙烙に変化した可能性も考えられる。

県内においては、正知浦遺跡^㊱（報告番号668）や上野城下町遺跡（第5次）^㊲（報告番号58）・浄土近世墓地^㊳（報告番号29）においても尾張産・畿内産のものが混在した遺跡がある。これら出土した焙烙から判断すると多種類もの焙烙が混在していることは、本遺跡の性格を考えるうえで重要な要素である。

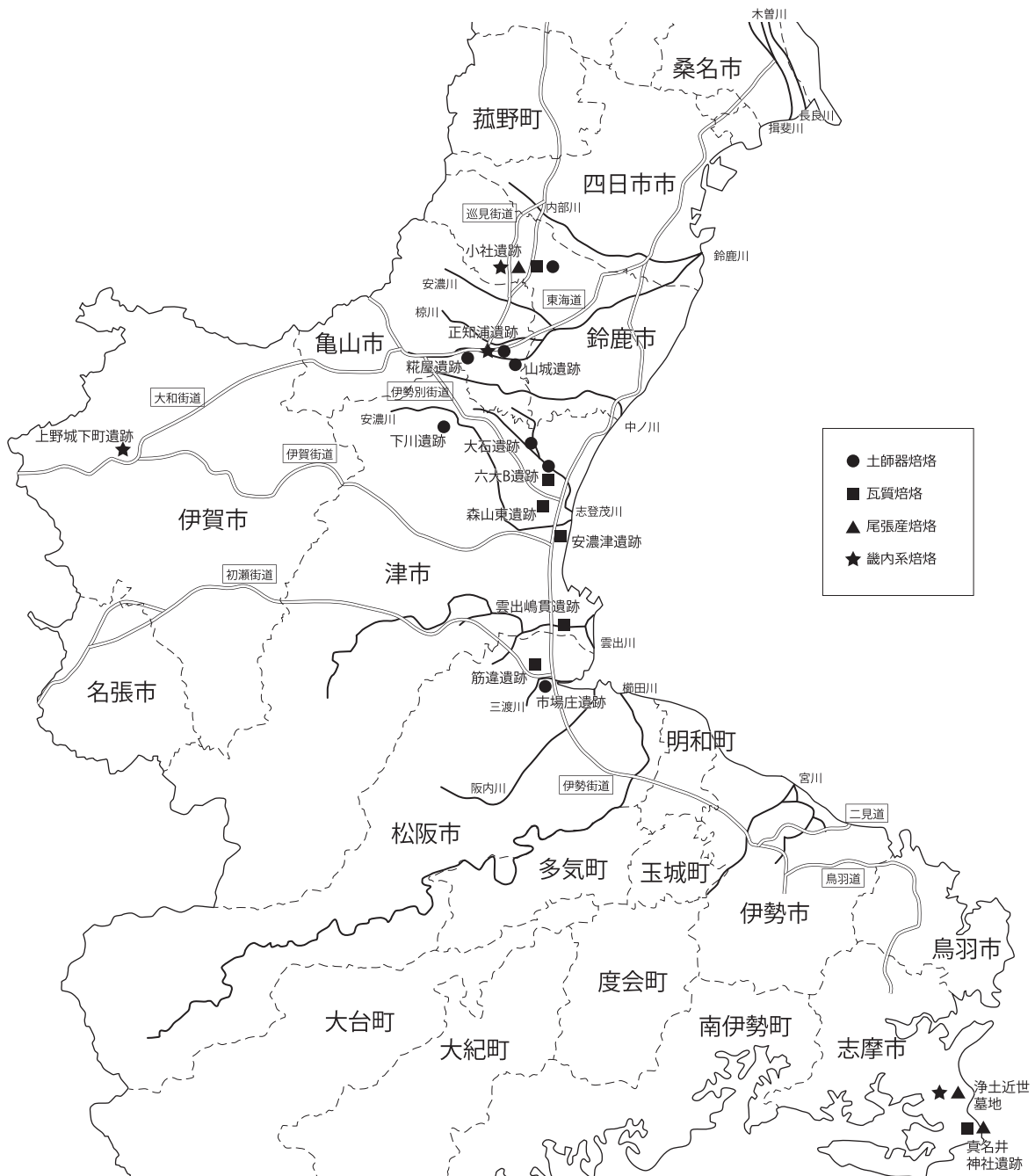
さて、中北勢系土師器の流れをくむ焙烙の生産地

の想定としては、現状の出土地に限られるが、亀山市から鈴鹿市・津市周辺域の志登茂川・安濃川・鈴鹿川・安楽川・御幣川両岸域を中心とする地域が考えられそうである。ただ、今後の調査事例によっては、陸路・河川路で運ばれている可能性もあるため津市周辺だけでなく巡見街道沿いや鈴鹿川沿いなど津市・鈴鹿市・四日市市・亀山市の中北勢域の発掘調査結果の動向によって、分布域が変わるため生産地比定は、広範囲にみておきたい。

d 加工円盤

調査区各所で出土している。本遺跡での出土点数(88・92・100・112・114・123・258・259)は8点である。

まず、サイズと重量についてみておきたい。88は4.7×5×1.6cm(39.26g)、92は4.4×5×1.3cm(34.62g)、100は4×4.7×1.4cm(27.28g)、112は5.1×5.3×1.1cm(34.46g)、114は6.1×6.75×1.5cm(57.04g)、123は3.6×4.3×1.55cm(23.89g)、258は3.2×3.2×1.35cm(14.72g)、259は4.4×4.5×1.4cm(24.09g)である。



第30図 焙烙分布図 (1/25,000)

今回、本遺跡出土したものは、大きさを比較すると概ね4つに分類されると思われる。6 cm前後・5 cm前後・4 cm前後・3 cm前後とそれぞれのサイズが揃っている。

加工円盤については、その性格・用途については一概に判断できない現状である。先行研究の中で諸説を列挙してみると土銭・祭祀具・掻き立て・遊戯具・飛礫といった例がある⁸⁾。

大きさの単位よりも重量に比重を置いたほうが加工円盤の用途を判断し易いと考えられる。単刀直入に述べるなら加工円盤は「重量に関わる道具」ではないかと思われる。

e 金属製品

金属製品の中に火打金(33)が石列S Z 112から出土している。県内の出土例は、多気遺跡群⁹⁾(報告番号394)をはじめ松阪市茅原町東沖遺跡¹⁰⁾で3点(報告番号92・93・435)があり、石組遺構はおおむね工房跡とされている。そのため本遺跡の石列S Z 112も同様の遺構と判断できよう。

また、土坑S K 23からは、鍵(110)が出土している。鍵・錠前の県内の出土例は少なく、多気遺跡群¹¹⁾(報告番号396)や市場庄遺跡¹²⁾(報告番号1059)や伊賀市下郡遺跡¹³⁾(報告番号393)がある。これらは、15世紀後半から16世紀のもので¹⁴⁾、今回の出土のものもこれらの時期とほぼ変わらない時期のものである。鍵を使用しなければならぬという状況を示しているとすると、室町時代後期の社会様相の一端を窺わせる。

また、鍵が出土したということは、方形土坑が鍛冶工房建物であるということ、原材料という生産的な側面だけでなく工房を守るための手段でもあったのであろうか。

6 小結

今回の調査では、遺構はやや希薄で遺物もかなり少ない状況であったが、遺物資料の内容は良好であった。そこで最後に若干、遺跡の性格についてまとめて小結としたい。

江戸時代に入って、遺跡近域の巡見街道が整備される。伊勢本街道と比較して往来が少なかったとイメージがある。しかしながら、多彩な遺物が出土し

ていることから人の往来も多いと判断される。

また、鍋川が鈴鹿川の一支流であることも見逃せない。当地が幕府領であったことや鈴鹿川下流に至ると白子代官所などがあり、繋がりもあったであろう。伊勢湾を南に下れば紀州徳川家領にも至る一方、伊勢湾を北に上れば尾張徳川家領にも繋がる。現在の我々が考える以上に網の目を張り巡らさせた陸上・海上と河川の交通網があったとみられる。

単純に周辺域の遺跡のみならず、河川を主体においた視点、すなわち鍋川から下流の御幣川・安楽川・鈴鹿川からみる見方、海に主体をおいた視点から伊勢湾を中心においた様な見方、鈴鹿山脈を中心においた見方である。より広い視野で遺跡をみるようにあらゆる角度からみた視点が、今後の遺跡の発掘調査の成果のまとめに必要であると考えられる。

なお、本遺跡から天気がよい時は伊勢湾を一望でき、遠く神島のみならず志摩半島や対岸の知多半島まで眺められる。
(萩原義彦)

【註】

- ①拙稿「竪穴建物」『研究紀要 第24号』(三重県埋蔵文化財センター 2016年)
- ②①に同じ
- ③三重県埋蔵文化財センター『三寺地区内遺跡群発掘調査報告』(2004年)
- ④三重県埋蔵文化財センター『大久保遺跡(第3次)発掘調査報告』(2017年)
- ⑤三重県埋蔵文化財センター『三重県の中世墓』(1992年)
- ⑥三重県教育委員会「服部遺跡」『昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』(1983年)
中世墓資料集成研究会『日本の中世墓を探る』(2007年)
- ⑦三重県埋蔵文化財センター『小津遺跡発掘調査報告』(2007年)
- ⑧上田秀夫『14～16世紀の青磁碗の分類について』(日本貿易陶磁研究会 貿易陶磁研究No.2 1982年)
- ⑨江戸陶磁土器研究グループ『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』(1996年)
- ⑩伊藤裕偉「中世後期の中北勢系土師器群に関する覚書」『研究紀要 第8号』(三重県埋蔵文化財センター 1999年)
第4回東海考古学フォーラム『鍋と甕 そのデザイン』(1996年)
- ⑪三重県埋蔵文化財センター『安濃津』(1997年)
- ⑫三重県埋蔵文化財センター『南所遺跡』『大里西沖遺跡』(平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告 第1分冊-1992年)
- ⑬三重県教育委員会「中尾山遺跡」(平成元年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告 1990年)

- ⑭三重県埋蔵文化財センター『嶋拔Ⅱ』(2000年)
- ⑮三重県埋蔵文化財センター『六大B遺跡(A地区)発掘調査報告』(1999年)
- ⑯本堂弘之「津市周辺出土の瓦質焙烙について」『研究紀要 第8号』(三重県埋蔵文化財センター 1999年)
- ⑰三重県埋蔵文化財センター『山城遺跡・北瀬古遺跡』(1994年)
- ⑱三重県埋蔵文化財センター『上椎ノ木古墳・谷山古墳・正知浦古墳群・正知浦遺跡』(1992年)
- ⑲三重県埋蔵文化財センター『栴屋垣内遺跡』(1994年)
- ⑳⑮と同じ
- ㉑三重県埋蔵文化財センター『大石遺跡』(平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告 一第1分冊一 1992年)
- ㉒三重県埋蔵文化財センター『伊勢寺廃寺・下川遺跡ほか』(1990年)
- ㉓三重県埋蔵文化財センター『市場庄遺跡発掘調査報告』(2017年)
- ㉔三重県埋蔵文化財センター『松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』(1993年)
- ㉕三重県埋蔵文化財センター『六大B遺跡(B～I地区)発掘調査報告』(2006年)
- ㉖⑪と同じ
- ㉗⑭と同じ
- ㉘三重県埋蔵文化財センター『筋違遺跡発掘調査報告一1分冊一』(2004年)
- ㉙三重県埋蔵文化財センター『真名井神社裏包含地発掘調査報告』(2003年)
- ㉚第4回東海考古学フォーラム『鍋と甕 そのデザイン』(1996年)
- ㉛難波洋三「徳川氏大阪城期の焙烙」『難波宮址の研究 第9』(財団法人大阪市文化財協会 1992年)
- ㉜⑬と同じ
- ㉝三重県埋蔵文化財センター『上野城下町遺跡(第5次)発掘調査報告』(2014年)
- ㉞三重県埋蔵文化財センター『浄土近世墓地調査報告』(2006年)
- ㉟愛知県埋蔵文化財センター『土田遺跡』(1987年)
三重県埋蔵文化財センター『安濃津』(1997年)
山口格「小型円板」再考『研究紀要 第8号』(三重県埋蔵文化財センター 1999年)
兼康保明「謎の円板」『考古学推理帖』(大巧社 1996年)
成田涼子「江戸遺跡出土の「陶磁器転用おはじき」について」『市谷仲之町遺跡』(新宿区遺跡調査会 1996年)
- ㊱三重県埋蔵文化財センター『多気遺跡群発掘調査報告』(1993年)
- ㊲三重県埋蔵文化財センター『下茅原遺跡(第1次・第2次)、東沖遺跡発掘調査報告』(2009年)
- ㊳㉞と同じ
- ㊴㉚と同じ

㊵三重県埋蔵文化財センター『下郡遺跡 一第一～七次一』(2013年)

㊶合田芳正『古代の鍵』(ニュー・サイエンス社 1998年)

【参考文献】

第9回東海考古学フォーラム『東海の中世集落を考える』(2002年)

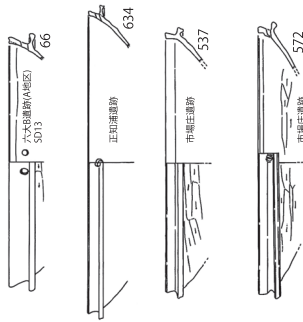
土師質焙烙については、中勢道路関係の発掘調査の鈴鹿市石垣遺跡においても出土している。

I	<p>安濃津遺跡 SK276</p> <p>621</p>	15 C 中葉
II	<p>中尾山遺跡</p> <p>14</p> <p>小社遺跡</p> <p>218</p> <p>南所遺跡 SK13</p> <p>39</p>	16 C 後半 16 C 以降
III	<p>雲出嶋貫遺跡 SK131</p> <p>228</p>	18 C 後葉
IV	<p>六大B遺跡(A地区) SB3</p> <p>400</p>	19 C 中葉

第31図 茶釜変遷図

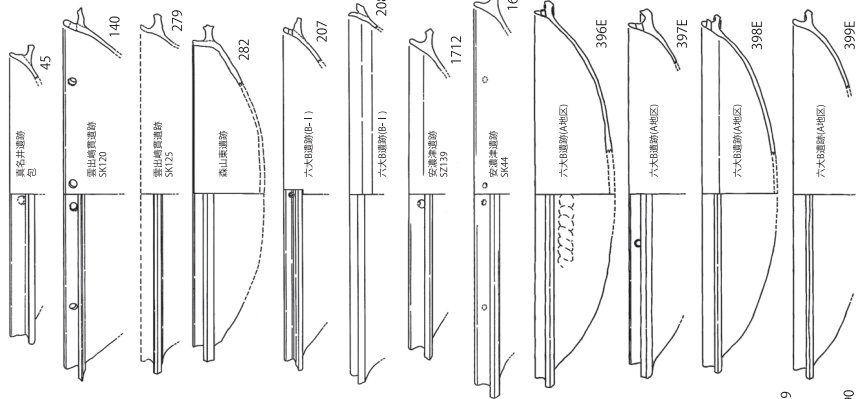
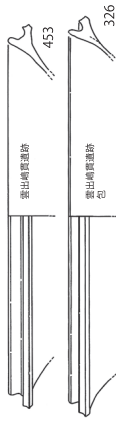


土師質器

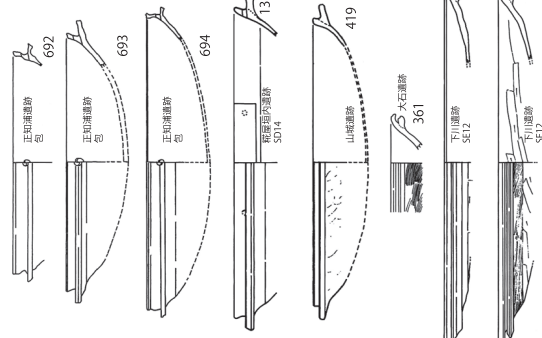


17

瓦質

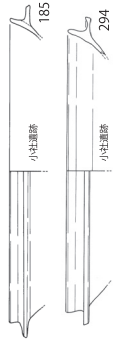


18

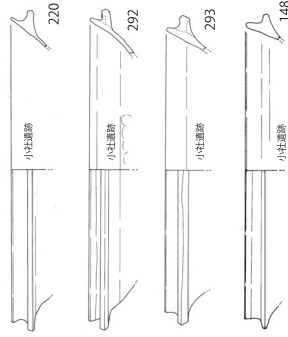


19

小社

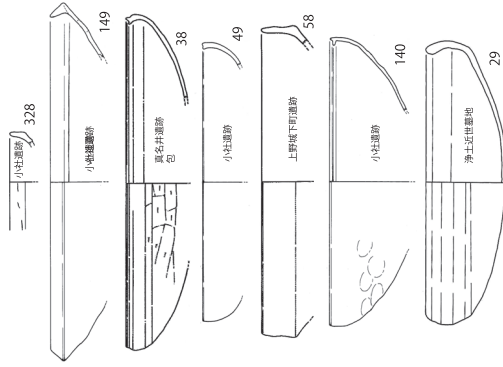
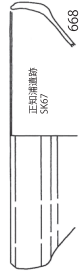


瓦質

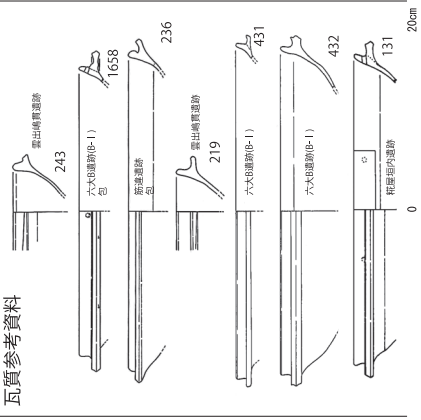


小社遺跡 295

畿内系・尾張産
(参考)



瓦質参考資料



第32図 焙烙変遷図

写真図版



第3次調査区完掘状況（真上から）



調査前風景（東から）



調査前風景（西から）



第2次調査区完掘状況（北から）



第2次調査区完掘状況（北から）



土坑S K群完掘状況（南から）



土坑S K14石敷出土状況（西から）



土坑S K14完掘状況（西から）



土坑S K14完掘状況（南西から）



土坑S K14石列出土状況（東から）



土坑S K17・18完掘状況（南東から）



第3次調査区完掘状況（東から）



第3次調査区完掘状況（南東から）



屋敷地2完掘状況（北西から）



屋敷地2完掘状況（北から）



土坑S K83完掘状況（北から）



土坑S K83完掘状況（南から）



屋敷地 1 完掘状況（南から）



屋敷地 1 完掘状況（西から）



空閑地完掘状況（北から）



中世墓S X 53完掘状況（東から）



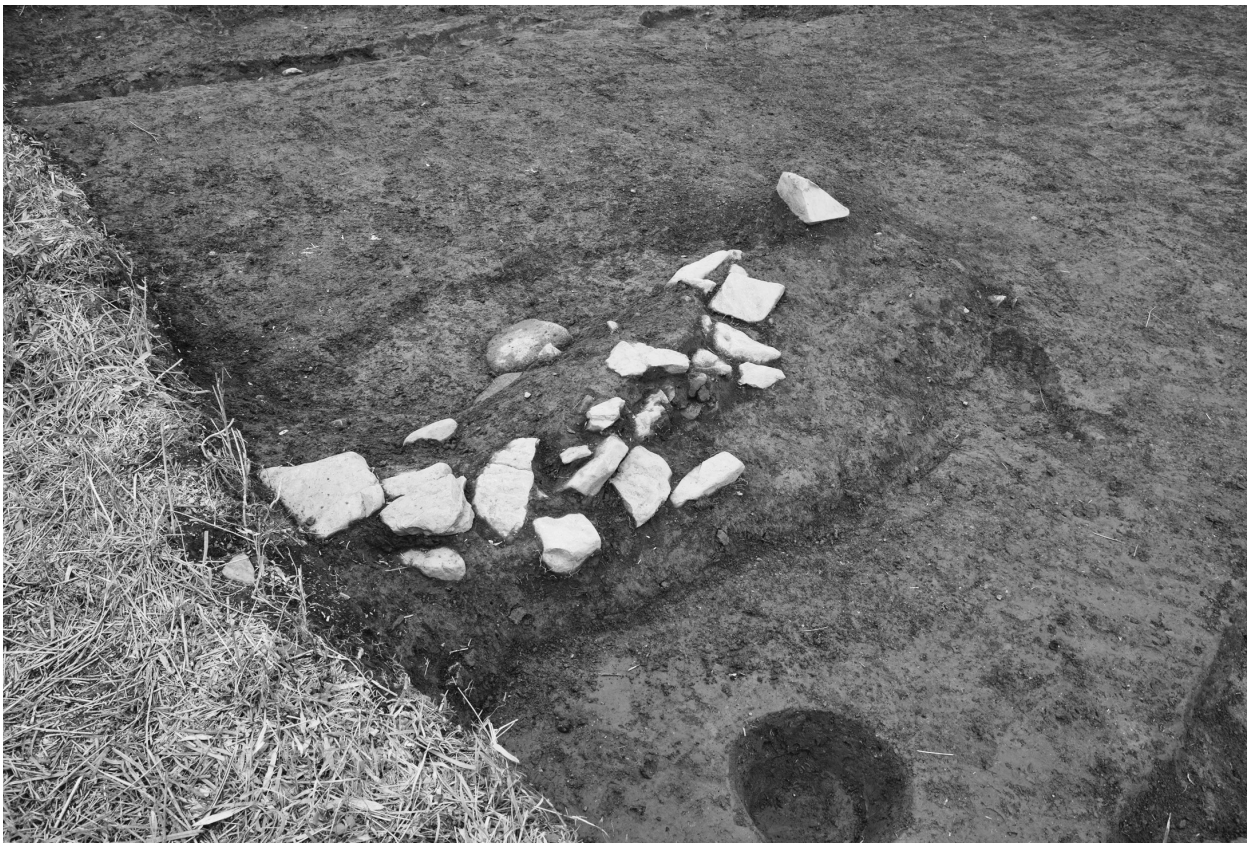
第4次調査前風景（南から）



調査区完掘状況（南から）



調査区完掘状況（北から）



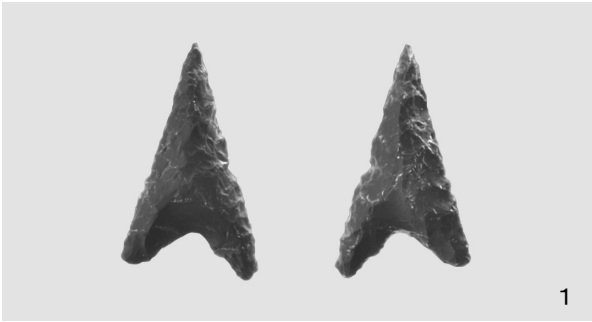
石列S Z112完掘状況（南西から）



土坑S K115遺物出土状況（東から）



土坑S K115遺物出土状況（南西から）



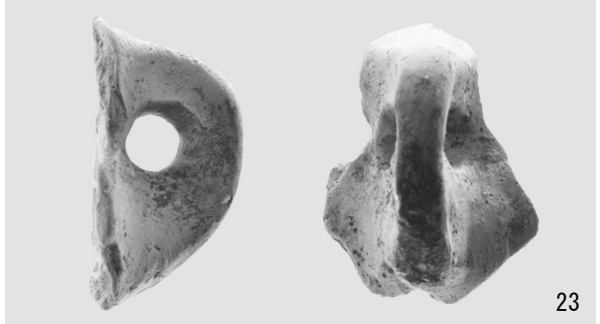
1



8



9



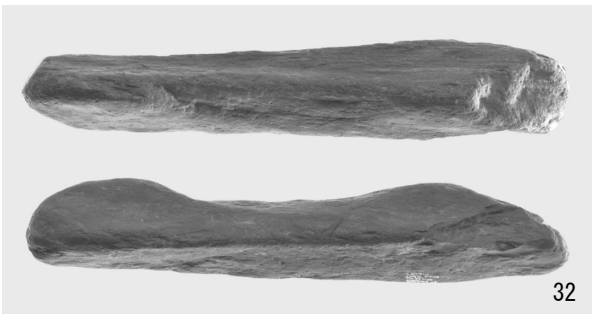
23



9



31



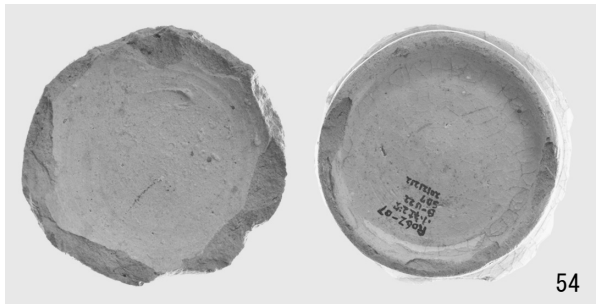
32



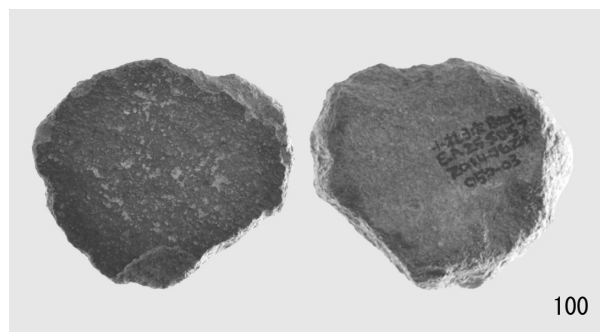
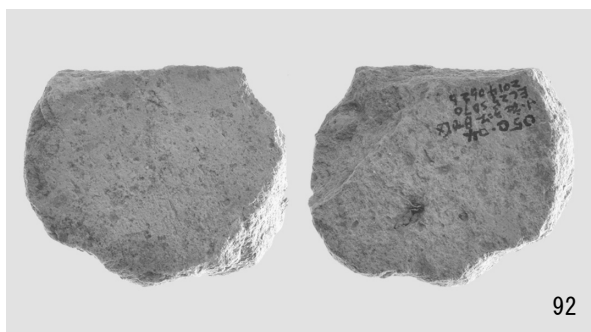
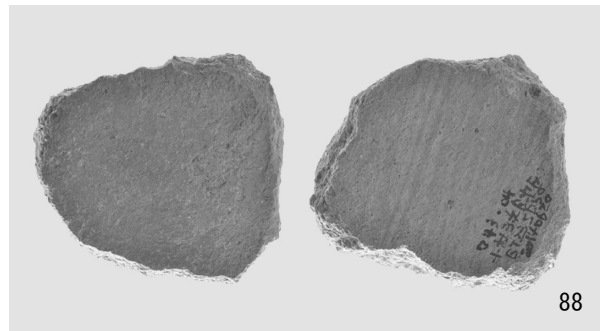
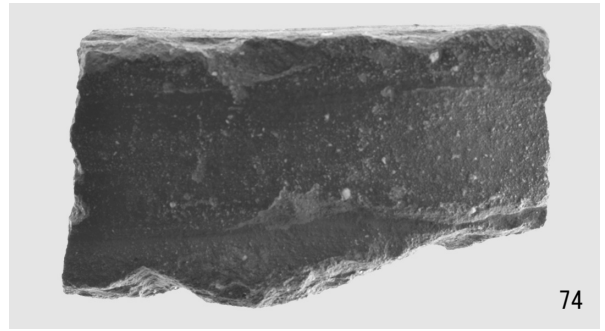
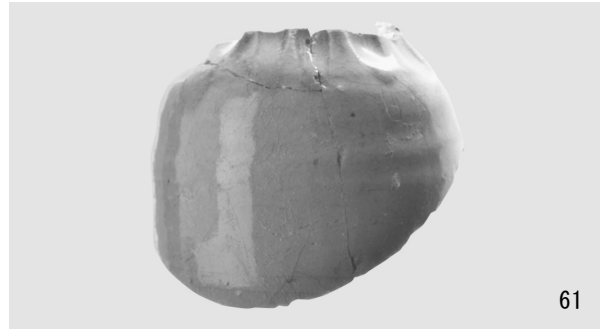
53

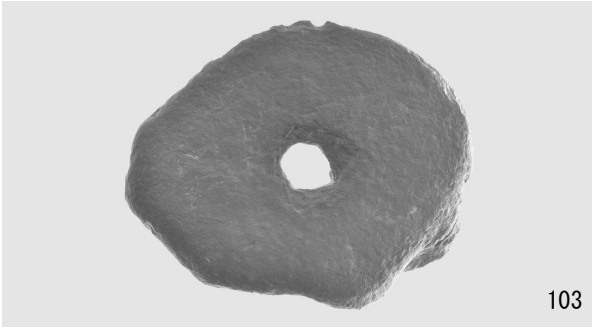


55

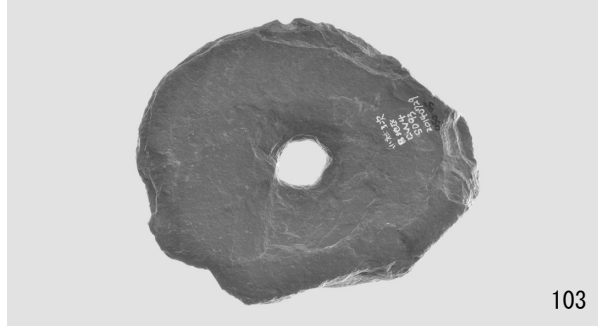


54





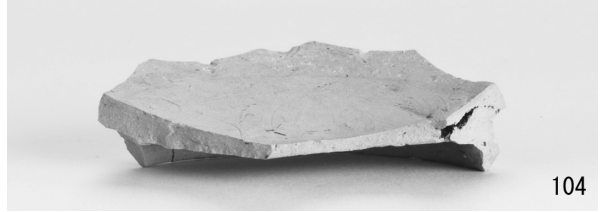
103



103



98



104



110



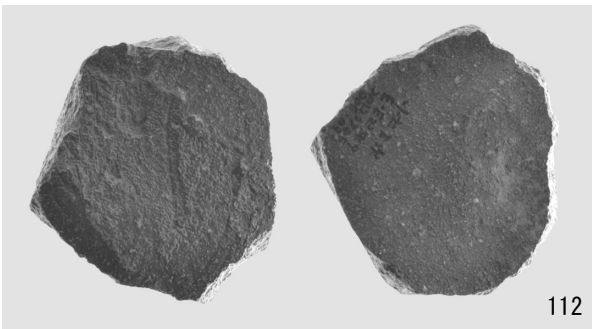
116



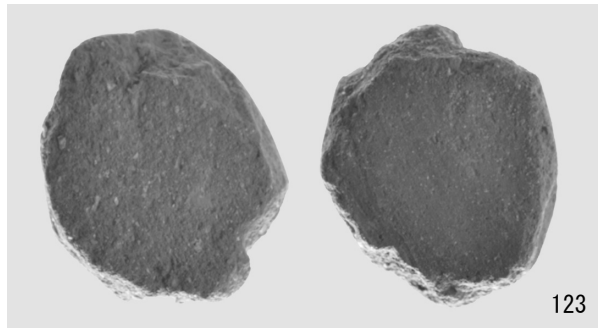
119



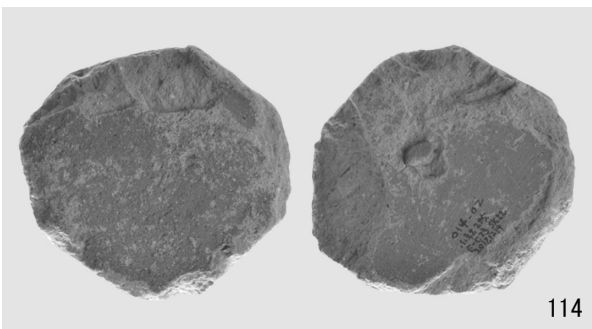
133



112



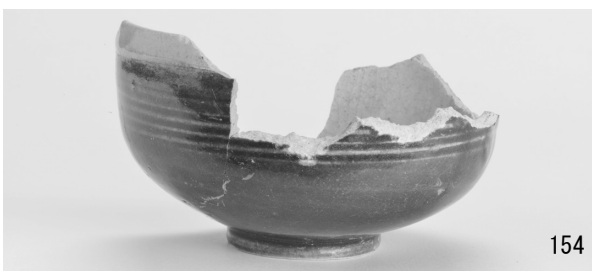
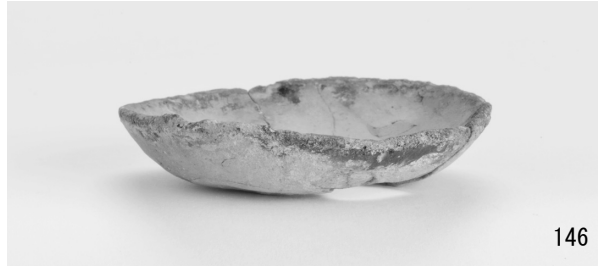
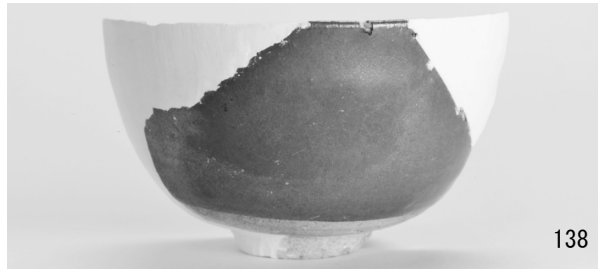
123

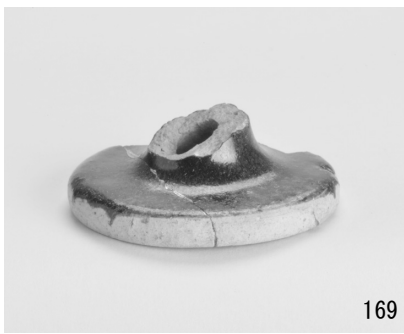


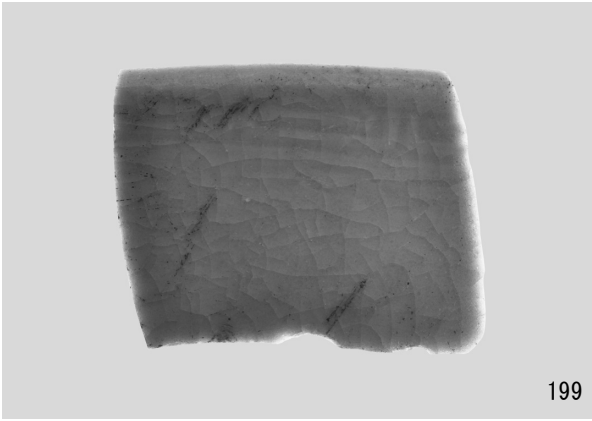
114



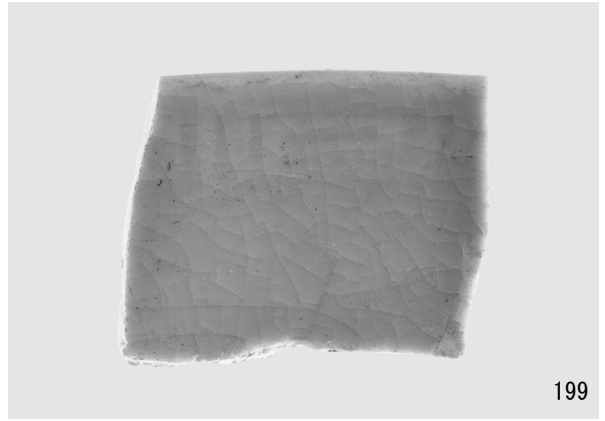
132



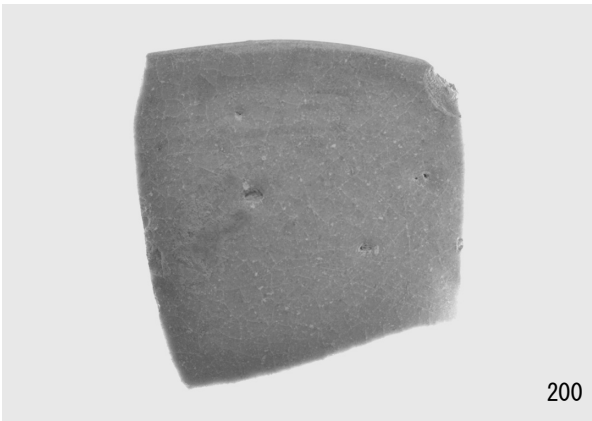




199



199



200



201



210



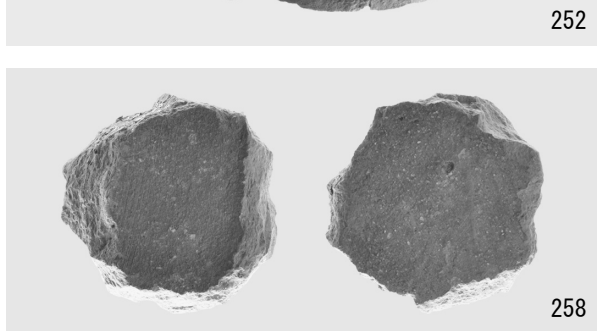
212

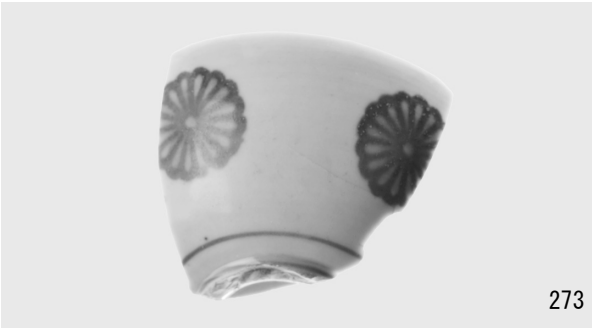
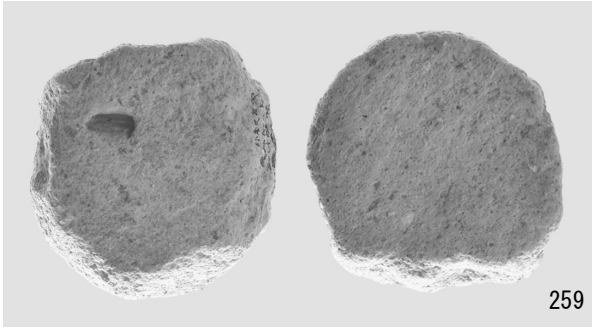


218



222





報告書抄録

ふりがな	こやしらいせき (だいに・さん・よじ) はつくつちょうさほうこく							
書名	小社遺跡 (第2・3・4次) 発掘調査報告							
副書名	鈴鹿市小社町所在							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	323-12							
編著者名	服部芳人・萩原義彦							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732							
発行年月日	西暦2018年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こやしらいせき 小社遺跡 (第2・3・4次)	みえけんすずかし 三重県鈴鹿市 こやしらいせき 小社町	24207	1153	34° 57' 8"	136° 27' 10"	第2次 2012/10/19 } 2013/2/5 第3次 2014/4/18 } 2014/8/12 第4次 2016/1/12 } 2016/2/4	第2次 1,573㎡ 第3次 2,073㎡ 第4次 362㎡ 総面積 4,008㎡	近畿自動車道 名古屋神戸線 (四日市JCT～ 亀山西JCT) 建設事業
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
小社遺跡 (第2・3・4次)	集落跡	室町時代～ 江戸時代	掘立柱建物・土坑・ 溝・井戸	弥生土器・陶器椀 (山茶椀)・中北勢系 土師器・陶器・磁器				
要旨	小社遺跡では、室町時代～江戸時代の屋敷地及び掘立柱建物・溝・土坑・井戸を検出した。これらの遺構は、いくつかの溝で囲まれた中で確認されたため、複数の屋敷地があるものと思われる。							

三重県埋蔵文化財調査報告 323-12
小社遺跡（第2・3・4次）発掘調査報告
～鈴鹿市小社町所在～

2018（平成30）年2月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 共立印刷株式会社